

高校アーチェリー会報

第12号



全国高体連アーチェリー専門部

1998年4月

WIN & WIN'S FOMAX

勝利のためのボウ

ゴールド的中のための、凝縮
メカニズム—FOMAXシリーズ

▶ FOMAXライザー 超高精度、 超高強度のための革新的デザイン

アルミニウム合金“6061”の2倍以上の
引っ張り強度をもつ最高級アルミニウム
“7001”を採用（7001=69kg、6061
=31.5kg）。さらに鍛造工法、CNC
（コンピュータ数値制御）加工
法によって、まったく新しいハン
ドルが誕生しました。数々の
革新的メカニズムを採用した
FOMAXライザー、まさ
に「勝利のためのラ
イザー」です。

▶ EXCALIBUR リム

運動効率に優れたリカー
ブ形状プラス、最高精度
の接着技術が作り上げた
ウッドコアとカーボンファイ
バーグラスラミネートの組み
合わせ。スムーズさと加
速性能を、同時に実現し
ました。

▶ SIDEWINDER リム

EXCALIBURリムとまったく同じリカーブ形
状で、ウッドコアとグラスファイバーを組み合
わせました。ビギナーからトップアーチャー
まで、幅広い範囲でご使用になれます。

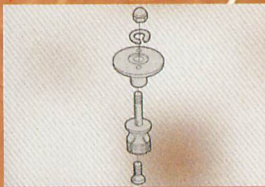
NEW
FORGED

▶ E. V. フォシステム



FOMAX EXCALIBURは、鍛造アル
ミハンドルにカーボンファイバースを結
合。これにより、振動吸収性が飛
躍的に向上しました。

▶ センター調整システム



FOMAXは、センターショット調整用
にアジャスタブル・ポケットシステムを
採用。リムとハンドルの完璧なセン
ター合わせを可能にしました。

▶ FOMAX EXCALIBUR ウッドグリップ



FOMAX EXCALIBURのグリップ
は、厚22.5mmの細めのウッドグ
リップ。射つ人のフィードバックを最優
先したデザインです。

▶ ハンドルカラー

・EXCALIBUR



ホワイト、パールブルー、パールグリーン、
パールバイオレット、シルバー

・SIDEWINDER



ホワイト、ブルー、レッド、ブラック

SIDEWINDER

リム引き重量：64インチ—28～34ポンド（2ポンド刻み） 66インチ—28～38ポンド（2ポンド刻み） 68インチ—32～38ポンド（2ポンド刻み）
引き重量基準：26インチ 引き重量上下約2ポンド調整可能
マスターストリングハイト：64インチ—8 3/4" 66インチ—9" 68インチ—9 1/4"

EXCALIBUR

リム引き重量：64インチ—28～40ポンド（2ポンド刻み） 66インチ—28～44ポンド（2ポンド刻み） 68インチ—30～44ポンド（2ポンド刻み）
引き重量基準：26インチ 引き重量上下約2ポンド調整可能 センター調整機能付
マスターストリングハイト：64インチ—8 3/4" 66インチ—9" 68インチ—9 1/4"

WIN & WIN 東日本代理店
株式会社エンゼル

〒110-0015 東京都台東区東上野1-7-12徳永ビル2F
TEL. 03(3833)4972 FAX. 03(3833)4772

WIN & WIN 西日本代理店

株式会社ハスコ・エンタープライズ

〒577-0016 東大阪市長田西6丁目9番1号
TEL. 06(747)8818 FAX. 06(747)8838

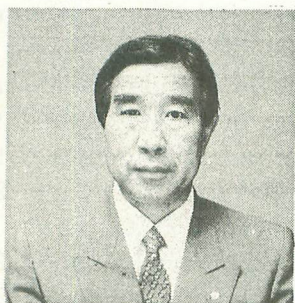
目 次

1	巻頭言	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 部長 松崎 洋右	1
2	委員長挨拶	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 委員長 田中 康彦	2
3	沿 革		3
4	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部	役員名簿	5
5	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部	ブロック役員名簿	6
6	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部	部長名簿	7
7	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部	委員名簿	8
8	学校登録一覧		9
9	全国高体連アーチェリー専門部・登録状況一覧		19
10	第2回韓国国際競技大会報告		20
11	1997インターハイ優勝校紹介		
	男子 東海大第二高等学校(熊本県)		24
	女子 県立氷川高等学校(熊本県)		26
12	学校紹介	石川県柳田農業高校・静岡県浜松北高校・長野県長野南高校	28
13	技術セミナー「トップを継続していくための秘訣は何か」	松下和幹	35
14	「今日まで、そして明日へ」前専門部委員長	薮内 徹	44
15	全高ア専ホームページについて		48
16	全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届けの流れについて		51
17	登録届記入方法		52
18	指定都道府県番号表		53
19	全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟会員登録登録届		54
20	インターハイ・全国選手権大会栄光のあゆみ	同大会記録	55
21	全国選抜大会栄光のあゆみ	同大会記録	57
22	日本高校記録		59
23	FITA世界記録・日本記録		61
24	記録収集について		65
25	高校公認記録規程		67
26	記録承認申請書様式		69
27	大会開催地・開催順		71
28	平成10年度インターハイについて		72
29	平成11年度以降のインターハイについて		73
30	全国高体連アーチェリー専門部部活動要綱(安全対策)		74
31	服装規程		76
32	全国高体連アーチェリー専門部規約		77
33	総務委員会規程		80
34	競技委員会規程		81
35	審判委員会規程		82
36	強化委員会規程		83
37	事務局規程		84
38	アーチェリー専門部表彰規程		85
39	アーチェリー専門部慶弔規程		86
40	連絡先および口座番号		87
41	高体連主催協議会の公認について		88
42	あとがき		96

巻 頭 言

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

部 長 松 崎 洋 右



平成9年度の高体連アーチェリー専門部の諸行事も、当初の計画どおり、多大な成果を収めて、無事終らせることができましたことを、まず初めにお礼申し上げます。

9年度のインターハイは8月5日から8日まで京都府日吉町胡麻総合運動場で「風に乗れ 君の声援 君の汗」のスローガンのもとに開催されました、大会初日は激しい雷雨の中、安全のため競技続行か中止かの大変難しい気象状況下での大会スタートとなりましたが、地元大会関係者の献身的なご努力によりまして競技が維持され、

翌日より熱戦が繰り広げられました、この4日間の大会期間を通じて選手と監督は率直に勝者の喜びや・悲しみ・さまざまな思いを体験しました。各地区の予選会より参加した全ての選手、勝利を目指してこの大会につどい集まった若者達が、激しい鍛練を通じて、切磋琢磨する経験は人生の如何なる時期にも与えられるものではありません。

この京都大会の運営を支えていただいている、実行委員会をはじめ裏方として活躍していただきました地元高等学校の先生方や生徒に対して衷心より感謝申し上げます。

学校スポーツも勿論、体格や体力の増進が目的でないわけではない。しかし、運動部のあり様となればこれだけではもの足りなさを感じる、とくに高校時代という、かけ替えのない青春期にはもっと燃えるものが欲しい、特にスポーツの世界では、勝とう勝とうと練習しても、負けること多く、屈辱の涙に明け暮れる時が多いものです。この忍苦の共同生活にいつのまにか友情が芽生えるのです、そのことを信じて生徒指導にあたっていたきたいと思います。

中央教育審議会第一次答申（H8・7）や保健体育審議会答申（H9・9）において、運動部活動の在り方等に関する指摘（提言）がなされたところです。平成8年の生徒や保護者、教員等を対象とした全国調査結果を見ると。運動部員に対し、学期中の週当たりの部活動日数及び平均の一日当たりの活動時間数で、最も多かったのは、高校生、中学生とも、部活動日数では週6日、活動時間数では2時間以上3時間未満となっています。また、「運動部の活動は楽しいか」の問いに、八割以上が「楽しい」と答え、運動部員の保護者に「子供の運動部活動に満足しているか」の問では、高校で90%が「満足している」と答えています。

スポーツはきわめて重要なものであり、青少年が自己の発達の程度にふさわしいスポーツ活動を行うことは、心身ともに健全な、そして健康な体を育むに必要不可欠なものであり、生涯を通じてスポーツ活動を実践していく上での基礎作りやそれぞれの競技力向上などに大きな意義を有しています。

今後の高体連アーチェリー専門部の一層の躍進を期待してあいさついたします。

委員長あいさつ

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

委員長 田 中 康 彦



この激動の世の中でスポーツ界もまた常に新しい局面への対応が必要とされています。アーチェリー専門部においても、より良いものを模索し続ける姿勢を持って臨まなければならないでしょう。委員長に就任して考えるべきこと、しなければならないことは多々ありますが、何よりもまず、私自身が向上心を忘れず、何事にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

昨年までの各都道府県の専門部と加盟校顧問の方方的ご尽力は、まさにアーチェリー競技を大きく飛躍させる原動力でありました。まず第一に競技についてですが、平成5年のインターハイ加盟以来6回目の大会が、今年は香川県丸亀市で開催されます。これまでに大会の形式の変更が随所に見られ、凜々たる緊張感が漂うすばらしい大会になってきました。常に世界の流れを先取りし、それを高体連の大会として定着させてきた組織力が手腕を見せたところでしょう。今後も全国選抜大会の日程や競技方法を必要に応じて再考すべきかと考えられます。

次に、本専門部の一つの試みとして、昨年からのインターネットの利用があげられます。ホームページを開設し、いち早く専門部の情報を開示してきました。これは情報社会に即し、アーチェリーの普及や加盟校の発展に大いに寄与するものと考えられます。また、選手の強化につきましても世界で活躍できる選手を育成すべく、強化委員会で立案を進めています。

これら様々な試みの礎は前委員長の藪内徹先生が作り上げられたものです。私は、これからも多面に渡って指導を受けながら、それを引き継ぎ、発展させていきたいと思っております。

21世紀まで残すところ数年となりました。高校生のクラブ活動離れが叫ばれる中、アーチェリー専門部は次代を担う若者を立派に育成することが一つの大きな課題だと考えられます。技術面もさることながら、最後の一射には精神力が勝る世界です。勝者の笑顔、敗者の涙、一瞬に向かう微動だにしない後ろ姿、裏方を支える部員の汗、これら全てを大切に育んでいくことこそ、何事にも純粹で真摯な態度を失わせないことにつながるのです。微力ながら精一杯邁進してまいりたい所存です。

沿革

昭和13年	・アメリカから帰国した、菅 重義氏により日本にアーチェリーが紹介される。
昭和22年	・日本洋弓会が設立される。(愛好者が増加傾向)
昭和34年	・日本アーチェリー協会設立 (学校への活動用具貸与による援助始まる)
昭和37年	・高校生を対象とした近畿総合体育大会が、全国で初めて開催される。
昭和43年	・第1回全国高校アーチェリー競技会開催(東大阪市・旧布施市)
昭和44年	・第2回全国高校アーチェリー競技会開催(静岡県)
昭和45年	・競技会の名称変更「全国高等学校アーチェリー選手権大会」以後より今日に至る。
昭和46年	・選手権参加規定変更・任意参加を各都道府県で2校以内と前年度優勝校に参加を制限。
昭和49年	・組織を「全国アーチェリー連盟高校部」に改称 ・選手権参加規定変更・各都道府県の代表校制に変更、男女1校と前年度優勝校に改正。 ・優勝碑「ダイアナ」(狩猟の女神：ギリシャ神話)が新たに新調される。 (川上源一氏と滋賀県協会の格別の好意により、ブロンズ像制定。) 【制作者：小谷 謙氏・日展会員・京都府在住】
昭和51年	・運営組織のより一層の明確化が図られる。 ・木村好治氏(青森県アーチェリー協会・元名久井農業高校校長)を初代高校部長に選出。
昭和52年	・改定組織関係役員決定。 ・選手権参加規定変更・団体出場校以外の学校より、個人選手の参加を認める。
昭和53年	・大会開催基準・運営細則に関する全面的な見直し、改正に着手。 (協会主導の運営から、高校サイドへの移行に伴い)
昭和54年	・部長、理事長制及び各都道府県ブロックの実情に即した常任理事や代表理事制を取り入れる。初代理事長に中田 昇氏を選出。 ・全国大会記録集創刊 ・全国高体連加盟に向け、高体連旗・表彰等の使用申請の働き掛けが始まる。
昭和55年	・全国高体連へ加盟申請する。 ・中田 昇氏 二代目高校部長に選出。 ・総務・競技・強化・事務局の4部門を設定し、積極的な組織運営策の取組が始まる。
昭和56年	・全国選手権大会開催方針変更・大会経費内部負担の軽減・大会運営への地元高校への協力要請 ・専門部設置県の増加を目指し、各地で運動広がる。

昭和57年 昭和58年	・小笠原朋憲氏三代目高校部長に選出。高体連加盟申請継続 ・全国高体連正式加盟への手順決定される。 ・第1回全国高校選抜大会開催（愛知・森林公園） ◎準加盟として競技種目を扱う。 ◎名義共催と全国総体開催期間中の同時開催禁止。 ◎加盟については、おおむね30都道府県で高体連加盟が審議条件または、40都道府県に於いて、実質的な活動の場合。
昭和59年	・組織拡充と事業実施内容等の統一化に向けて運動強化。 ・ジュニア選手の強化並びに全米選手権大会への派遣事業始まる。
昭和61年	・清本 修氏理事長に選出。 ・学校登録指定番号・ランキング制度開始。 ・会報の発刊始まる。
昭和62年	・アーチェリー専門部設置に向けて、各都道府県高体連事務局への意向調査、協力要請を行う。
昭和63年	・全国高体連への加盟承認される。（5月） ・新組織による常任委員会開催。（伊豆下田市） ・審判委員会を設置する。 ・全国高体連専門部規約審議、原案決定。 ・里見勝人氏（淑徳高校校長）四代目高校部長に選出。副部長に松崎洋右氏（大宮開成高）猪飼 彰氏（愛工大名電高）の2名を選出。 ・清本 修氏（可部高校）初代専門委員長に選出。 ・中辻恵子（山梨・甲府第一高）オリンピック代表へ。
平成元年	・五代目高校部長 松崎洋右氏（大宮開成高）を選出
平成2年	・副部長に越田 稜氏（学習院高）を選出。清本 修氏退職にともない、4月より藪内徹氏（伊吹高校）が専門委員長を代行する。
平成3年	4月・藪内徹氏（伊吹高校）2代目専門委員長に選出。 7月・第1回ジュニア世界選手権大会（ノルウェー）へ選手派遣。
平成5年	4月・猪飼彰氏顧問に、鶴飼泰勇氏（愛知高校）を副部長に選出。 8月・全国高校総合体育大会（栃木県）
平成6年	3月・全国高校選抜大会長浜ドーム開催。 ・越田稜氏（学習院高）顧問に、桑ヶ谷森男氏（国際基督教大学付属高）を副部長に選出。
平成7年	3月・鶴飼泰勇氏（愛知高校）顧問に、吉田悠記氏（愛知高）を副部長に選出。
平成8年	8月・全国高校総合体育大会（山梨県）
平成9年	3月・全国高校選抜大会長茨城県波崎開催 4月・田中康彦氏（愛知高）3代目専門委員長に選出 - ホームページ開設 8月・全国高校総合体育大会（京都府）
平成10年	3月・全国高校選抜大会長掛川市つま恋開催

全国高体連アーチェリー専門部役員名簿

役 職 名		氏 名	勤 務 先		学 校 名	電 話	F A X
部 長		松崎 洋右	☎330	大宮市堀ノ内1-615	大 宮 開 成 高	048-641-7161	048-641-7161
副 部 長		桑ヶ谷森男	☎184	小金井市東町1-1-1	国際基督教大学付属高	0422-33-3401	0422-33-3401
		吉田 悠記	☎464	名古屋市千種区光ヶ丘2-11-41	愛 知 高	052-721-1521	052-721-1521
委 員 長		田中 康彦	東 海	☎465 名古屋市千種区光ヶ丘2-11-41	愛 知 高	052-721-1521	052-721-1521
副委員長	競 技 判 審 員 長 強 化 委 員 長	雨宮建次郎	関 東	☎153 目黒区駒場1-35-32	日工大付属東京工業高	03-3467-2130	03-3467-2130
		水上 英彦	東 海	☎416 富士市平垣町1-1	富 士 見 高	0545-61-0250	0545-61-0250
常任委員	競 技 判 審 員 長 強 化 委 員 長 競 技 判 審 員 長 強 化 委 員 長 競 技 判 審 員 長 強 化 委 員 長 競 技 判 審 員 長 強 化 委 員 長 競 技 判 審 員 長 強 化 委 員 長 競 技 判 審 員 長 強 化 委 員 長	小幡 正徳	北海道	☎005 札幌市南区石山1条2丁目15-1	札 幌 啓 北 商 業 高	011-591-2021	011-591-2021
		嶋守 英敏	東 北	☎034 十和田市相坂字清水78	三 本 木 農 業 高	0176-23-5341	0176-23-5341
		山首 一恵	北信越	☎920-01 金沢市大場町東596	金 沢 向 陽 高 校	0762-58-2355	0762-58-2355
		後藤 明男	関 東	☎321-06 那須郡烏山町金井1-4-23	烏 山 女 子 高	0287-82-2156	0287-82-2156
		佐幸 修	近 畿	☎543 大阪市阿倍野区天王寺南2-8-19	大 阪 女 子 高	06-719-2801	06-719-2801
		金川 真二	中 国	☎731-02 広島市安佐北区可部3丁目15-26	可 部 高	082-814-2032	082-814-2032
		住友 和雄	四 国	☎770 徳島市大和町2丁目2-15	徳 島 東 工 業 高	0886-53-3274	0886-53-3274
		長野 浩	九 州	☎861-41 熊本市南高江町2718	熊本フェリス女学院高	096-357-7151	096-357-7151
		吉良 洋平	香川県	☎761 高松市鬼無町山口257-1	高 松 西 高	0878-82-6411	0878-82-6411
		佐藤 邦明	岩手県	☎020 盛岡市羽場18地割11-1	盛 岡 工 業 高	0196-38-3141	0196-38-3141
		津田 博司	岐阜県	☎506 高山市下林町353番地	高 山 西 高	0577-32-2590	0577-32-2590
		事 務 局	局 長	宮崎 利帳	関 東	☎330 大宮市堀ノ内1-615	大 宮 開 成 高
局 員	松宮 博		関 東	☎344 春日部市上大増新田213	春 日 部 共 栄 高	048-737-7611	048-737-7611
局 員	青木 昭		関 東	☎324-02 那須郡黒羽町前田780	黒 羽 高	0287-54-0179	0287-54-0179
顧 問		木村 好治	☎039-15 青森県三戸郡五戸町天満後44-6	元 専 門 部 長	0178-62-3223	0178-62-3223	
		小笠原朋憲	☎153 目黒区駒場1-35-32	元 専 門 部 長	03-3467-2130	03-3467-2130	
		里見 達人	☎174 板橋区前野町5-14-1	元 専 門 部 長	03-3969-7411	03-3969-7411	
		清本 修	☎731-03 広島県高田郡八千代町上根827-2	元 専 門 委 員 長	0826-52-3606	0826-52-3606	
		越田 稜	☎171 豊島区目白1-5-1	元 専 門 副 部 長	03-3986-0221	03-3986-0221	
		鶴飼 泰男	☎466-0051名古屋市昭和区御器所3-35-18	元 専 門 副 部 長	052-881-2904	052-881-2904	
		蕨内 徹	☎526-0021滋賀県長浜市八幡中山町1079	元 専 門 委 員 長	0749-62-4632	0749-62-4632	
監 事	監 査	若林 武正	関 東	☎235 横浜市磯子区岡村2-4-1	横 浜 学 園 高	045-751-6941	045-751-6941
	監 査	神谷 育孝	近 畿	☎602 京都市上京区今出川通寺町西入	同 志 社 女 子 高	075-251-4329	075-251-4329

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

平成9年度ブロック役員名簿

地区	役職名	氏名	勤務校	電話番号	FAX番号	住所
北海道	専門委員長	小幡 正徳	札幌啓北高校	011-591-2021	011-591-2023	札幌市身南区石山1条2-15-1
	競技委員長	原田 浩明	幕別高校	0155-54-2977	0155-54-2159	中川郡幕別町南町81
	審判委員長	笹谷 宏明	函館ラサール	0138-52-0365	0138-54-0365	函館市日吉町1丁目12-1
	強化委員長	鈴木 隆行	旭川高校	0166-51-4620	0166-51-2818	旭川市花咲町3丁目
	総務委員長	原田 浩明	幕別高校	0155-54-2977	0155-54-2159	中川郡幕別町南町81
東北	専門委員長	嶋守 英敏	三本木農業高	0176-23-5341	0176-23-5341	十和田市相坂字清水78
	競技委員長	佐藤 邦明	盛岡工業高校	0196-38-3141	0196-38-8134	盛岡市羽場18-11-1
	審判委員長	五十嵐昭比呂	鶴岡工業高校	0235-22-5505	0235-25-1877	鶴岡市家中新町8-1
	強化委員長	青柳嘉一郎	田村高校	0247-62-2185	0247-62-3385	田村郡三春町字持合畑135番地
	総務委員長	北野 利雄	仙台工業高校	022-237-5341	022-283-6478	仙台市宮城野九東宮城野3-1
関東	専門委員長	後藤 明男	烏山女子高校	0287-82-2156	0287-82-0196	那須郡烏山町金井1-4-23
	競技委員長	西尾 顕	京葉高校	0436-22-2196	0436-25-1368	市原市島野222
	審判委員長	吉成 謙	甲府第一高校	0552-53-3525	0552-53-3527	甲府市美咲2-13-44
	強化委員長	葉山 直	三浦高校	0468-52-0284	0468-52-6980	横須賀市衣笠栄町3-80
		池田 幸一	横浜高校	045-781-3396	045-785-1541	横浜市金沢区能美台通46-1
	総務委員長	松宮 博	春日部共栄	048-737-7611	048-737-8093	春日部市上増新田213
北信越	専門委員長	山首 一恵	金沢向陽高校	0762-58-2355	0762-58-3592	金沢市大場町東590
	競技委員長	坂井 公史	新潟産業大学付属高校	0257-24-6644	0257-24-0386	柏崎市大字安田2510-2
	審判委員長	山上 達夫	長野南高校	0262-84-8850	0262-83-3143	長野市稲里町牧字北236-2
	強化委員長	横山 幹夫	丹南高校	0778-62-2112	0778-62-2102	鯖江市熊田町10-7
	総務委員長	浦田 照行	泊高校	0765-82-1191	0765-82-1192	下新川郡朝日町道下603
東海	専門委員長	水上 英彦	富士見高校	0545-61-0250	0545-63-5040	富士市平垣町1-1
	競技委員長	津田 博司	高山西高校	0577-32-2590	0577-33-9911	高山市下林町353番地
	審判委員長					
	強化委員長	新海 輝夫	三河高校	0564-48-5211	0564-48-5300	岡崎市岡町字原山12-10
	総務委員長	加藤 多	三重高校	0598-29-2959	0598-29-6807	松坂市久保町梅村3番地
近畿	専門委員長	佐幸 修	大阪女子高校	06-719-2801	06-714-0045	大阪市阿倍野区天王寺南2-8-19
	競技委員長	神谷 育孝	同社女子高校	075-251-4305	075-251-4308	京都市上京区今川通寺西入
	審判委員長	富永 雅博	虎姫高校	0749-73-3055	0749-73-2967	東浅井郡虎姫町宮部2410
	強化委員長	五百蔵政雄	甲南女子高校	078-411-2531	078-411-2535	神戸市東灘区森北5-6-1
	総務委員長	高見 喬宏	奈良高校	0742-23-2855	0742-23-4395	奈良市法蓮町836
中国	専門委員長	金川 真二	可部高校	082-814-2032	082-815-4781	広島市安佐北区可部3丁目15-26
	競技委員長	山根 俊一	倉吉農業高校	0858-28-1341	0858-28-1342	倉吉市大谷166
	審判委員長	山本 仁士	華陵高校	0833-44-1285	0833-41-5494	下松市大字末武上217-2
	強化委員長	竹田 勝重	瀬戸田高校	08452-7-0054	08452-7-0068	豊田郡瀬戸田町名荷1110-2
	総務委員長	豊福 浩	岡山理科大付属高校	086-252-2922	086-255-9859	岡山市横井上1002-2
四国	専門委員長	住友 和雄	徳島東工業高	0886-53-3274	0886-53-3296	徳島市大和町2丁目2-15
	競技委員長	住友 和雄	〃	《上に同じ》		
	審判委員長	吉良 洋平	高松西高校	0878-82-6411	0878-82-6413	高松市鬼無町山口257-1
	強化委員長	小野 秀典	観音寺第一高	0875-25-4155	0875-25-4145	観音寺市観音寺町甲648-1
	総務委員長	千田奈津代	徳島工業高校	0886-31-4185	0886-31-1110	徳島市北矢三町2丁目1-1
九州	専門委員長	長野 浩	フェリス学院	096-357-7151	096-358-3044	熊本市南高江2718
	競技委員長	田中 伸周	厳木高校	0955-63-2535	0955-51-5021	佐賀県東松浦郡厳木町下厳木727
	審判委員長	堤 幸祐	別府女子短大付属高校	0977-67-6908	0977-67-8255	別府市大字野田78
	強化委員長	藤川 毅	柏陵高校	092-566-3232	092-565-2109	福岡県南区柏原4-47-1
	総務委員長	島袋 盛範	中部商業高校	098-898-4888	098-898-4808	沖縄県宜野湾市我如古133

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 部長名簿

	都道府県名	氏 名	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
1	北海道	宮 森 正 勝	市立 札幌啓北商業高	005	札幌市南区石山1条2丁目15番1号	011-591-2021	011-591-2023
2	青 森	佐々木 敏雄	県立 三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
3	岩 手	山 田 預 喜	県立 住 田 高	029-23	気仙郡住田町笹田米字川口12の1	0192-46-3141	0196-46-3654
4	宮 城	菊 池 光 太	市立 仙 台 工 業 高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	022-283-6478
5	秋 田						
6	山 形	佐 藤 晃	県立 鶴 岡 南 高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
7	福 島	青柳嘉一郎	県立 田 村 高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-7785
8	茨 城	海 老 根 秀	私立 水 城	310	水戸市白梅2丁目1番地45号	0292-47-6509	029-248-7252
9	栃 木	直 井 敬	県立 烏 山 女 子 高	321-06	那須郡烏山町金井1-4-23	0287-82-2156	0287-84-0196
10	群 馬	川 島 敏 昭	県立 館 林 女 子 高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-0139	0276-72-7112
11	埼 玉	柿 崎 史 生	県立 上 尾 橋 高	367	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-780-1010
12	千 葉	浪 越 末 夫	県立 流 山 高	270-01	流山市東初石2-98	0471-53-3161	
13	東 京	桑ヶ谷 森男	国際基督教大学高	184	小金井市東町1-1-1	0422-33-3401	0422-33-3376
14	神奈川	田 沼 智 明	横 浜 学 園 高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
15	山 梨	雨 宮 惇	県立 甲 府 第 一 高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
16	新 潟	新潟アーチェリー	新潟アーチェリー協会	950-21	新潟市松梅ヶ丘1-10-23新潟内	025-231-0807	
17	長 野	山 口 利 幸	県立 長 野 南		長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	026-291-1552
18	富 山	長 谷 川 進	県立 魚 津 工 業 高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
19	石 川	松 岡 元 雄	県立 柳 田 農 業 高	928-03	鳳至郡柳田村字柳田イ部3番地	0768-76-1211	0768-76-0079
20	福 井	前 田 正 紀	県立 丹 南 高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
21	静 岡	亀 井 道 夫		416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
22	愛 知	吉 田 悠 記	愛 知 高	464	名古屋市中千種区光ヶ丘2丁目11番41号	052-721-1521	052-723-2254
23	三 重	西 川 武 郎	三 重 高	515	松阪市久保町1232番地	0598-29-2959	0598-29-6944
24	岐 阜	水 野 博 隆	県立 大 垣 西 高	503	大垣市中曾根町字大畔147番地1	0584-91-5611	0584-91-9967
25	滋 賀	石 田 克	県立 北 大 津 高	520-02	大津市仰木の里1丁目23-1	0775-73-5881	0775-73-7076
26	京 都	松 本 健 二	同 志 社 女 子 高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4305	075-251-4308
27	大 阪	島 田 侃 治	大 阪 女 子 高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
28	兵 庫	熊 見 一 郎	神 戸 女 子 商 業 高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-741-1860	078-741-6304
29	奈 良	中 野 博	県立 奈 良 高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
30	和歌山	和歌山アーチェリー	和歌山アーチェリー協会	641	和歌山市今福1-2-35西孝取方	0734-23-3513	
31	鳥 取	井 上 明 男	県立 倉 吉 農 業 高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
32	島 根	岡 本 修 治	県立 松 江 東 高	690	松江市西川津町宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
33	岡 山	渡 辺 己 巳 生	岡山理科大学付属高	700	岡山市理大町1-1	086-252-3161	086-255-9859
34	広 島	福 川 孝 之	県立 可 部 高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
35	山 口	中 村 勇 夫	県立 下 松 高	744	下松市若宮町12-1	0833-41-0157	0833-41-3147
36	香 川	大 山 皓	県立 観 音 寺 第 一 高	768	観音寺市観音寺町甲648-1	0875-25-4155	0875-25-4145
37	徳 島	勢 川 實	府立 阿 北 高	771-15	板野郡土成町大字成当字尾瀬515	0886-95-3031	0886-95-2925
38	愛 媛	愛媛県アーチェリー	愛媛県アーチェリー協会	791-02	松山市北梅本町940 森貞浩方	089-975-1447	
39	高 知	高知アーチェリー	山 崎 和 郎 方	780	高知県西久万351-1	0888-24-0562	
40	福 岡	杉 本 努	県立 柏 陵 高	815	福岡市南区柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
41	佐 賀	江 口 博 善	県立 高 志 館 高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2008
42	長 崎	竹 中 厚 人	県立 諫 早 東 高	854-02	北高来郡森山町杉谷名317	0957-36-1010	0957-36-1010
43	熊 本	米 光 聖	私立 熊本フェイスク	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
44	大 分	谷 川 一 郎	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-67-6908	0977-67-8255
45	宮 崎	野 村 光 秋	宮崎アーチェリー協会	880	宮崎市池内町陀羅迫913-3	0985-26-3215	
46	鹿児島	茶 園 正 敏	県立 鹿 児 島 工 業 高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	099-222-9205	099-222-9206
47	沖 縄	新 里 勝 谷	県立 中 部 商 業 高	901-22	宜野湾市我如古2-2-1	098-898-4888	098-898-4808

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 委員名簿

	都道府県名	氏 名	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	FAX番号
1	北海道	小 幡 正 徳	札幌啓北商業高	005	札幌市南区石山1条2丁目15番1号	011-591-2021	011-591-2023
2	青 森	嶋 守 英 敏	県立 三 本 木 農 業 高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
3	岩 手	佐 藤 邦 明	県立 盛 岡 工 業 高	020	盛岡市羽場18-11-1	0196-38-3141	0196-38-8134
4	宮 城	北 野 利 雄	市立 仙 台 工 業 高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	022-283-6478
5	秋 田	秋田県アーチェリー協	秋田 県アーチェリー協会御中	010	秋田市新藤田大所44-4	0188-31-3126	
6	山 形	五十嵐昭比呂	県立 鶴 岡 北 高	997	鶴岡市若葉町16-5	0235-22-2262	0235-24-6101
7	福 島	渡 邊 正 仁	県立 田 村 高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-7785
8	茨 城	奥 倉 裕	私立 水 城	310	水戸市白梅2丁目1番地45号	0292-47-6509	029-248-7252
9	栃 木	後 藤 明 男	県立 烏 山 女 子 高	321-06	那須郡烏山町金井1-4-23	0287-82-2156	0287-84-0196
10	群 馬	武 倫 夫	県立 館 林 女 子 高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-0139	0276-72-7112
11	埼 玉	稲 田 忍	県立 伊 奈 学 園 総 合 高	362	北足立郡伊奈町羽實1300-1	048-728-2510	048-729-1003
12	千 葉	西 尾 顕	県立 京 葉 高	290	市原市島野222	0436-22-2196	0436-25-1368
13	東 京	渡 辺 忠 雄	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2245
14	神奈川	若 林 武 正	横 浜 学 園 高	235	横浜市新子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
15	山 梨	吉 成 謙	県立 甲 府 第 一 高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
16	新 潟	坂 井 公 史	新潟産業大学附属高	945-13	柏崎市大字安田2510番地2	0257-24-6644	0257-24-0386
17	長 野	山 上 達 夫	県立 長 野 南		長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	026-291-1552
18	富 山	浦 田 照 行	県立 泊 高	939-07	下新川郡朝日町道下603	0765-82-1191	0765-82-1192
19	石 川	山 首 一 恵	県立 金 沢 向 陽 高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
20	福 井	横 山 幹 夫	県立 丹 南 高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
21	静 岡	水 上 英 彦	富 士 見 高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
22	愛 知	萩 原 茂 樹	弥 富 高	498	海部郡弥富町稲吉2丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-4492
23	三 重	加 藤 多	三 重 高	515	松阪市久保町1232番地	0598-29-2959	0598-29-6944
24	岐 阜	津 田 博 司	高 山 西 高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
25	滋 賀	藤 井 良 明	県立 栗 東 高	520-30	栗太郡栗東町小野618	0775-53-3350	0775-54-1537
26	京 都	神 谷 育 孝	同 志 社 女 子 高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4329	075-251-4308
27	大 阪	佐 幸 修	大 阪 女 子 高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
28	兵 庫	荒 木 亨 典	神 戸 女 子 商 業 高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-741-1860	078-741-6304
29	奈 良	高 見 喬 宏	県立 奈 良 高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
30	和歌山	清 水 秀 美	田 邊 商 業 高	646	田辺市文里二丁目33-12	0739-22-2550	0739-22-2558
31	鳥 取	山 根 俊 一	県立 倉 吉 農 業 高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
32	島 根	小 林 三 高	県立 松 江 東 高	690	松江市西川津町宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
33	岡 山	後 藤 浩	岡 山 県 共 生 高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
34	広 島	金 川 真 二	県立 可 部 高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
35	山 口	坂 本 憲 昭	県立 下 松 高	744	下松市若宮町12-1	0833-41-0157	0833-41-3147
36	香 川	吉 良 洋 平	県立 高 松 西 高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
37	徳 島	住 友 和 雄	県立 徳 島 東 工 業 高	770	徳島市大和町2丁目2-15	0886-53-3274	0886-53-3296
38	愛 媛	愛媛県アーチェリー協	森 貞 浩 方	791-02	松山市北梅本町940	089-975-1447	
39	高 知	高知県アーチェリー協	山 崎 和 朗 方	780	高知市西久万351-1	0888-24-0562	
40	福 岡	藤 川 毅	県立 柏 陵 高	815	福岡市南区柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
41	佐 賀	福 川 秀 夫	県立 高 志 館 高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2008
42	長 崎	大 野 裕 子	県立 諫 早 東 高	854-02	北高来郡森山町杉谷317	0957-36-1010	0957-36-1010
43	熊 本	長 野 浩	私立 熊 本 フ ェ イ ス 女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
44	大 分	堤 幸 祐	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-67-6908	0977-67-8255
45	宮 崎	野 村 光 秋	宮崎アーチェリー協会	880	宮崎市池内町陀羅迫913-3	0985-26-3215	
46	鹿児島	重 久 修 二	県立 鹿 児 島 工 業 高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	099-222-9205	099-222-9206
47	沖 縄	島 袋 盛 範	県立 中 部 商 業 高	901-22	宜野湾市我如古2-2-1	098-898-4888	098-898-4808

学校登録一覧表

(太字都道県名は、高体連加盟)

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	FAX番号
北海道 34校	01H01	道立 札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東1条3丁目	011-851-3111	011-851-3112
	01H02	市立 札幌啓北商業高	005	札幌市南区石山1条2丁目15番1号	011-591-2021	011-591-2023
	01H03	道立 小樽潮陵高	047	小樽市潮見台2丁目1番1号	0134-22-0754	0134-22-5954
	01H04	函館ラサール高	041	函館市日吉町1丁目12番1号	0138-52-0365	0138-54-0365
	01H05	道立 室蘭清水丘高	051	室蘭市増市町2丁目	0143-23-1221	0143-23-1746
	01H06	道立 登別南高	059	登別市青葉町42番地1	0143-85-8586	0143-85-8586
	01H07	道立 旭川南高	071-01	旭川市西神楽4線6号	0166-65-8770	0166-65-8772
	01H08	道立 清水高	089-01	上川郡清水町北2条西2丁目2番地	01566-2-2156	01566-2-2097
	01H09	道立 帯広三条高	080-24	帯広市西23条2丁目12番地	0155-37-5501	0155-37-5503
	01H10	道立 帯広工業高	080	帯広市南町南8線西24-1	0155-48-5650	0155-48-2680
	01H11	道立 幕別高	089-06	中川郡幕別町南町81番地	0155-54-2977	0155-54-2159
	01H12	道立 札幌西高	064	札幌市中央区宮ノ森4条8丁目1番地	011-611-4401	011-611-4403
	01H13	道立 札幌啓成高	004	札幌市厚別区厚別東4条8丁目6-1	011-898-2311	011-898-2313
	01H14	道立 札幌開成高	065	札幌市東区北22条東21丁目	011-781-8171	011-781-5629
	01H15	道立 旭川北高	070	旭川市花咲町3丁目	0166-51-4620	0166-51-2818
	01H16	道立 旭川工業高	078	旭川市西神楽3線5号	0166-65-4115	0166-65-4127
	01H17	旭川実業高	071	旭川市末広8条1丁目	0166-51-1246	0166-51-9515
	01H18	鹿追高	081-02	阿東郡鹿追町西町1-8	01566-6-3011	01566-6-3012
	01H19	紋別北高	094	紋別市落石町1丁目3番18号	01582-4-5285	01582-4-5285
	01H20	道立 紋別南高	094	紋別市南が丘町6丁目3番47号	0152-3-3068	01582-3-3974
	01H21	北海道室蘭東高	050	室蘭市高砂町4丁目35-1	0143-44-3312	0143-44-4783
	01H22	東海大学第四高	005	札幌市南区南沢517-1-1	011-571-5175	
	01H23	道立 帯広柏高	080	帯広市東5条南2丁目	0115-23-5897	0155-23-8796
	01H24	道立 丘珠高	065	札幌市東区北丘珠1条2-589-1	011-782-2911	011-782-8370
	01H25	私立 札幌第一高	062	札幌市豊平区月寒西1条9丁目	011-851-9361	011-856-5151
	01H26	芽室高	082	河西郡芽室町東芽室南2線33	0155-62-2625	0155-62-2624
	01H27	私立 札幌光星高	065	札幌市東区北13条東9丁目16番	011-711-7161	011-711-7330
	01H28	道立 追分高	059-19	勇払郡分町本町7-8	01452-5-3657	01452-5-2555
	01H29	道立 音更高	080-05	皮東郡音更町駒場西1	0155-44-2201	0155-44-2010
	01H30	道立 音更高定	080-05	皮東郡音更町駒場西1	0155-44-2201	0155-44-2010
	01H31	道立 帯広柏葉高	082	帯広市東5条南2丁目1	0155-23-5897	0155-23-8796
	01H32	道立 札幌光星高	065	札幌市東区13条9丁目	011-711-7161	011-711-7330
	01H33	道立 札幌新陽高	005	札幌市南区澄川5条7丁目1番1号	011-821-6161	011-813-4009
	01H34	道立 静内高	056	静内郡静内町ときわ町1-1-1	01464-2-1075	
青森県 114校	02H01	県立 三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
	02H02	県立 藤崎園芸高	038-38	藤崎町藤崎字下袋7の10	0172-75-3332	0172-75-6470
	02H03	八戸工業大学第二高	031	八戸市大字妙字中居林	0178-25-4311	0178-25-0568
	02H04	県立 むつ工業高	039-51	むつ市文京町22の7	0175-24-2164	0175-29-2893
	02H05	八戸工業大学第一高	031	八戸市白銀町右岩瀬通7の10	0178-33-5121	0178-34-3942
	02H06	県立 名久井農業高	039-05	三戸郡名川町下名久井字下瀬訪平1番地	0178-76-2215	0178-76-2260
	02H07	県立 青森西高	038	青森市新城字平岡226の20	0177-88-0372	0177-88-4411
	02H08	県立 青森東高	039-35	青森市大字原別字遠山13番地	0177-36-2440	0177-36-3091

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	02H09	青 森 山 田 高	030	青森市浜田字板橋23	0177-39-2001	0177-39-1597
	02H10	県立 青 森 中 央 高	030	青森市大字浦町字奥野428番地	0177-39-5135	0177-29-3488
	02H11	県立 五 所 川 原 農 林 高	037	五所川原市大字一野坪字朝日田2-37	0173-37-2121	
	02H12	県立 八 戸 南 高	031	八戸市大字鮫町小舟渡平2-291	0178-34-6001	
	02H13	県立 五 戸 高	039-15	三戸郡五戸町字根岸6番地	0178-62-2828	0178-62-4435
	02H16	県立 柏 木 農 業 高	036		0172-44-3015	
岩手県 3校	03H01	県立 盛 岡 工 業 高	020	盛岡市羽場18-11-1	0196-38-3141	0196-38-8134
	03H02	盛岡白百合学園高	020	盛岡市山岸4丁目29番16号	0196-61-6330	0196-61-9923
	03H03	県立 住 田 高	029-23	気仙郡住田町世田米字川口12の1	0192-46-3141	0196-46-3654
宮城県 4校	04H01	市立 仙 台 工 業 高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	022-283-6478
	04H02	東 陵 高	988	気仙沼市字大峠山1番1号	0226-23-3100	0226-23-3107
	04H03	宮 城 工 業 高 専	981-12	名取市愛島塩手字野田48	022-384-2171	022-384-9681
	04H04	米 谷 工 業 高	980-09	登米郡東和町米谷古館88	0220-42-2170	0220-42-2170
秋田県	05H01	県立 大 館 東 高	017	大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地	0186-48-6607	
山形県 6校	06H02	天 真 学 園 高	998	酒田市浜田1丁目3-47	0234-22-4733	0234-22-4737
	06H03	県立 鶴 岡 南 高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
	06H04	県立 鶴 岡 北 高	997	鶴岡市若葉町16-5	0235-22-2262	0235-24-6101
	06H05	県立 鶴 岡 家 政 高	997	鶴岡市新形町16-20	0235-22-1200	0235-22-5904
	06H06	県立 鶴 岡 工 業 高	997	鶴岡市家中新町8-1	0235-22-5505	0235-25-1877
	06H07	県立 山 添 高	997-03	東田川郡櫛引町大字上山添字文栄38番地	0235-57-2100	0235-57-2101
	06H08					
	06H09					
福島県 5校	07H01	県立 田 村 高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-7785
	07H02	県立 福 島 高	960	福島市森合町5番72号	0245-35-2391	0245-35-2392
	07H03	県立 福 島 南	960	福島市渡利字七社宮17	0245-23-4740	0245-21-6400
	07H04	県立 須 賀 川 桐 陽 高	962	須賀川市陣場町128	0248-75-2151	0248-72-7979
	07H05	県立 岩 瀬 農 業 高	969-04	岩瀬郡鏡石町大字鏡田字桜町207	0248-62-3145	
茨城県 1校	08H01	私立 水 城	310	水戸市白梅2丁目1番地45号	0292-47-6509	0292-48-7252
	08H02					
栃木県 3校	09H01	県立 馬 頭 高	324-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
	09H02	県立 黒 羽 高	324	那須郡黒羽町前田780	0287-54-0179	0287-54-4179
	09H03	県立 鳥 山 高	321	那須郡鳥山町中央3丁目9番8号	0287-83-2075	0287-83-0145
群馬県 11校	10H01	県立 沼 田 女 子 高	378	沼田市東倉内町753-3	0278-22-4495	0278-22-3249
	11H02	県立 藤 岡 北 高	375	藤岡市篠塚90	0274-22-2308	
	10H03	県立 沼 田 高	378	沼田市西原新町1510番地	0278-23-1313	0278-22-4799
	10H04	県立 太 田 高	373	太田市西本町12の1	0276-31-7181	0276-31-9161
	10H05	県立 安 中 実 業 高	379-01	安中市安中1-2-8	0273-81-0227	0273-82-7207
	10H06	県立 館 林 女 子 高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-0139	0276-72-7112
	10H07	県立 桐 生 西 高	376	桐生市相生町3丁目551-1	0277-52-2455	0277-54-9763
	10H08	高崎商科短期大学附属高	370	高崎市大橋町237番地の1	0273-22-2827	0273-22-7591
	10H09	私立 新 島 高	379	安中市安中3702	0273-81-0240	0273-81-0630
	10H10	県立 高 崎 東 高	370	高崎市元島名町1510	0273-52-1251	0273-53-0994

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	10H11	私立 前 橋 育 英 高	371	前橋市朝日が丘町13	0272-51-7087	0272-52-9419
埼玉県 10校	11H01	大 宮 開 成 高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881
	11H02	県立 豊 岡 高	358	入間市豊岡1丁目15番1号	0429-62-5216	0429-65-6635
	11H03	県立 行 田 高	361	行田市大字長野1320番地	0485-56-6291	0485-50-1058
	11H04	県立 所 沢 中 央 高	359	所沢市並木8丁目2番	0429-95-6088	0429-91-1006
	11H05	春日部共栄高	344	春日部市上大増新田213	048-737-7611	048-737-8093
	11H06	花 咲 徳 栄 高	347	加須市花崎江橋519	0480-65-7181	0480-65-4893
	11H07	県立 上 尾 橘 高	367	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-780-1010
	11H08	県立 新 座 高	352	新座市池田1-1-2	0484-79-5110	
	11H09	県立 日 高 高	350-12	入間郡日高町旭ヶ丘806	0429-89-7920	0429-85-4412
	11H10	県立 北 本 高	364	北本市古市場1丁目152番	0485-92-2200	0485-90-1009
	11H11					
千葉県 13校	12H01	県立 京 葉 高	290	市原市島野222	0436-22-2196	0436-25-1368
	12H02	千 葉 英 和 高	276	八千代市村上709-1	0474-84-5141	0474-87-5466
	12H03	県立 津 田 沼 高	275	習志野市秋津5-9-1	0474-51-1177	0474-54-3242
	12H04	県立 磯 辺 高	260	千葉市美浜区磯辺2丁目7番1号	043-277-2211	043-278-2071
	12H05	県立 松 戸 矢 切 高	271	松戸市中矢切54番地	0473-68-4741	0473-68-4396
	12H06	県立 姉 崎 高	299-01	市原市姉崎2632番地	0436-62-0601	0436-61-7679
	12H07	県立 流 山 中 央 高	270-01	流山市大畔275-5	0471-54-3551	0471-55-6991
	12H08	県立 生 浜 高	260	千葉市塩田町372	0472-66-4591	0472-68-2680
	12H09	県立 船 橋 高	273	船橋市東船橋6丁目1番1号	0474-22-2188	0474-26-0422
	12H10	黎 明 高	289-11	印旛郡八街町八街ほ625	0434-43-3221	0434-43-3443
	12H11	拓殖大学紅陵高	292	木更津市桜井1403番地	0438-37-2511	0438-36-7286
	12H12	県立 泉 高	280-01	千葉市若葉区高根町875-1	043-228-2551	043-228-0240
	12H13	志 学 館 高	292	木更津市真舟3丁目29番1号	0438-37-3131	
	12H14					
東京都 32校	13H01	東 京 学 園 高	153	目黒区下目黒6-12-25	03-3711-6641	
	13H02	都立 四 谷 商 業 高	165	中野区上鷲宮5-11-1	03-3990-4226	03-3926-7523
	13H03	明治大学付属中野高	164	中野区東中野3丁目3番4号	03-3362-8704	03-3368-3113
	13H04	駒 場 東 邦 高	154	世田谷区池尻4-5-1	03-3466-8221	03-3466-8225
	13H05	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2245
	13H06	玉 川 学 園 高	194	町田市玉川学園6丁目1番1号	0427-39-8533	0427-39-8559
	13H07	都立 山 崎 高	194-01	町田市山崎町字9号1453-1	0427-92-2891	0427-94-0440
	13H08	学 習 院 高 等 科	171	豊島区目白1丁目5番1号	03-3986-0221	03-5992-1016
	13H09	麻 布 高	106	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337
	13H10	獨 協 高	112	文京区関口3-8-1	03-3943-3651	03-3943-9119
	13H11	慶応義塾女子高	108	港区三田2丁目17番23号	03-3451-3618	03-3451-3642
	13H12	武 蔵 野 高	114	北区西ヶ原4-56-20	03-3910-0151	03-5567-0487
	13H13	東海大学付属高輪台高	108	港区高輪2-2-16	03-3441-8234	03-3441-8238
	13H14	早稲田大学高等学院	177	練馬区上石神井3丁目31番1号	03-5991-4151	03-3928-4110
	13H15	城 北 高	174	豊島区目白5-23-5	03-3956-3157	03-3956-9779
	13H16	足 立 学 園 高	120	足立区千住旭町40-24	03-3888-5331	03-3888-6720

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	13H17	淑 徳 高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992
	13H18	都立 大 山 高	173	板橋区小茂根5-18-1	03-3958-2121	03-3959-8591
	13H19	昭和第一学園高	190	立川市栄町2-45-8	0425-36-1611	0425-37-6880
	13H20	国際基督教大学高	184	小金井市東町1-1-1	0422-33-3401	0422-33-3376
	13H21	都立 第 四 商 業 高	176	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040
	13H22	日体桜華女子高	189	東村山市富士見町2-5-1	0423-91-4133	0423-92-6424
	13H23	明治学院東村山高	189	東村山市富士見町1丁目12番3号	0423-91-2142	0423-91-5926
	13H24	都立 館 高	193	八王子市館町1097番136	0426-63-3315	0426-62-9831
	13H25	大東文化学園高				
	13H26	藤 村 女 子 高				
	13H27	都立 野 津 田 高	194-01	町田市野津田町2000番	0427-34-2311	0427-34-9388
	13H28	都立 小 平 西 高	187	小平市小川町1-502-95	0423-45-1411	
	13H29	文 京 女 子 高	113	文京区本駒込6-18-3	03-3964-5301	03-3964-7294
	13H30	私立 国 土 館	154	世田谷区世田谷4-28-1	03-5481-3131	03-5481-3149
	13H31	千 歳 高	157	世田谷区粕谷3丁目8-1	03-3300-5235	03-3300-2306
	13H32	都立 晴 海 総 合 高	104	中央区晴海1-2-1	03-3531-5021	03-3531-5024
神奈川県 19校	14H01	横 浜 高	236	横浜市金沢区能見台通46-1	045-781-3396	045-785-1541
	14H02	相模女子大学高	228	相模原市文京2-1-1	0427-42-1442	
	14H03	県立 横 浜 緑ヶ丘高	231	横浜市中区本牧緑ヶ丘37番地	045-621-8641	045-624-0765
	14H04	浅 野 高	221	横浜市神奈川区子安台1-3-1	045-421-3281	045-421-4080
	14H05	三 浦 高	238	横須賀市衣笠栄町3丁目80番地	0468-52-0284	0468-52-6980
	14H06	市立 横 須 賀 高	238	横須賀市森崎5丁目1番1号	0468-36-0413	0468-36-0481
	14H07	県立 東 金 沢 高	236	横浜市金沢区富岡東2丁目6番1号	045-774-1188	045-776-2357
	14H08	県立 小 田 原 城 内 高	250	小田原市南町1-6-34	0465-23-3251	0465-23-6142
	14H09	県立 湘南高通信制少年工学校	238-03	横須賀市幸浜2-1	0468-56-1291	
	14H10	平 和 学 園 高	253	茅ヶ崎市富士見町5番2号	0467-87-0132	0467-87-7350
	14H11	東海大学附属相模高	228	相模原市相南3-33-1	0427-42-1251	0427-42-1159
	14H12	慶 応 義 塾 高	223	横浜市港北区日吉4丁目1番2号	044-563-1111	
	14H13	横 浜 学 園 高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
	14H14	県立 永 谷 高	233	横浜市港南区下永谷町1-28-1	045-824-2126	045-825-3605
	14H15	市立 南 高	233	横浜市港南区東永谷町2丁目1番1号	045-822-1910	
	14H16	県立 上 矢 部 高	245	横浜市戸塚区上矢部町3230	045-861-3500	045-862-6347
	14H17	鎌 倉 女 学 院 高	248	鎌倉市由比ヶ浜2-10-4	0467-25-2100	0467-25-1358
	14H18	県立 三 崎 水 産 高	240	横須賀市長坂1-2-1	0468-56-3128	0468-57-6457
	14H19	県立 湯 河 原 高	259-03	足柄下郡湯河原町吉浜1576-31	0465-63-1281	0465-62-0675
山梨県 9校	15H01	県立 甲 府 第 一 高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
	15H02	山 梨 英 和 高	400	甲府市愛宕町112	0552-52-6184	0522-51-7468
	15H03	甲 府 湯 田 高	400	甲府市青沼3丁目10-1	0552-33-0127	0552-33-0129
	15H04	県立 農 林 高	400-01	中巨摩郡竜王町西八幡4533	0552-76-2611	
	15H05	県立 機 山 工 業 高	400	甲府市下飯田1丁目9番1号	0552-28-7281	
	15H06	私立 山 梨 学 院 付 属 高	400	甲府市酒折3丁目3-1	0552-37-1047	0552-35-7091
	15H07	県立 甲 府 西 高	400	甲府市下飯田4-1-1	0552-28-5161	0552-28-5164

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	15H08	県立 韭 崎 高	407	韭崎市若宮3丁目2-1	0551-22-2415	0551-22-2415
	15H09	県立 第 一 商 業 高	400	甲府市東光寺2丁目25-1	0552-35-2581	0552-35-2581
新潟県 6校	16H01	県立 長 岡 工 業 高	940	長岡市幸町2丁目7番70号	0258-36-4510	0258-39-2054
	16H02	敬 和 学 園 高	950-31	新潟市太夫浜325	025-259-2391	025-259-7281
	16H03	新潟産業大学附属高	945-13	柏崎市大字安田2510番地2	0257-24-6644	0257-24-0386
	16H04	県立 新 潟 中 央 高	951	新潟市学校町通り2番地5317-1	025-229-2191	
	16H05	新潟県個人登録協会				
	16H06	県立 燕 工 業 高	959-12	燕市大字東太田1066	0256-63-5444	0256-66-1295
長野県 4校	17H01	県立 篠 ノ 井 校	388	長野市篠ノ井布施高田1161番地2	0262-92-0066	0262-92-9136
	17H02	県立 長 野 南 高		長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	0262-91-1552
	17H03	県立 駒 ケ 根 工 業 高	399-41	駒ヶ根市赤穂14-2	0265-82-5251	0262-81-1253
	17H04	私立 上 田 西 高	939	上田市下塩尻868	0268-22-0412	0268-26-2883
富山県 7校	18H01	高 岡 竜 谷 高	933	高岡市古定塚4-1	0766-22-5141	0766-25-8149
	18H02	県立 魚 津 工 業 高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
	18H03	新 川 高	937	魚津市吉島1350	0765-24-2015	0765-24-2015
	18H04	県立 富 山 中 部 高	930	富山市芝園町3丁目1-26	0764-41-3541	0764-41-3543
	18H05	県立 大 門 高	939-02	射水郡大門町二口1番地2	0766-52-5571	0766-52-5571
	18H06	県立 泊 高	939-07	下新川郡朝日町道下603	0765-82-1191	0765-82-1192
	18H07	県立 富 山 南 高	939	富山市布市98	0764-29-1822	0764-29-1799
石川県 4校	19H01	県立 柳 田 農 業 高	928-03	鳳至郡柳田村字柳田イ倍3番地	0768-76-1211	0768-76-0079
	19H02	県立 金 沢 向 陽 高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
	19H03	県立 工 業 高	920	金沢市本多町2丁目3番6号	0762-61-7156	0762-65-5346
	19H04	県立 金 沢 桜 丘 高	920	金沢市大樋町16番1号	0762-52-1225	0762-52-1643
	19H05					
福井県 4校	20H01	県立 丹 南 高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
	20H02	県立 金 津 高	919-06	坂井郡金津町南金津33-1	0776-73-1255	0776-73-1255
	20H03	敦 賀 気 比 高	914	敦賀市杵見164-1	0770-24-2150	0770-24-2620
	20H04	県立 高 志 高	910	福井市御幸2丁目25-8	0776-24-5175	0776-24-5177
	20H05					
	20H06					
静岡県 16校	21H01	県立 修 善 寺 工 業 高	410-24	田方郡修善寺町牧之郷892番地	0558-72-3322	0558-72-1955
	21H02	富 士 見 高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
	21H03	県立 静 岡 商 業 高	420	静岡市田町7丁目90番地	054-255-6241	054-255-9241
	21H04	県立 袋 井 高	437	袋井市愛野2446-1	0538-42-0191	0538-43-0710
	21H05	県立 浜 松 工 業 高	433	浜松市初生町1150	053-436-1101	053-437-9988
	21H06	県立 浜 松 商 業 高	432	浜松市文丘町4番11号	053-471-3351	053-475-2109
	21H07	浜 松 学 芸 高	430	浜松市下池川町34番3号	053-471-5336	053-475-2395
	21H08	興 誠 高	430	浜松市高林1丁目17番2号	053-471-4136	053-471-4137
	21H09	県立 浜 松 北 高	432	浜松市広沢1丁目30番1号	053-454-5548	053-456-3316
	21H10	県立 浜 松 湖 東 高	431-11	浜松市大人見町3600	053-485-0215	053-485-3947
	21H11	県立 三 ケ 日 高	431-14	引佐郡三ヶ日町釣78-1	0535-25-0103	0535-25-0426
	21H12	県立 天 竜 林 業 高	431-33	天竜市二俣町二俣601番地	0539-25-3139	0539-25-7422

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	FAX番号
	21H13	静岡北高	420	静岡市瀬名3240	0542-61-5801	0542-62-5573
	21H14	県立静岡東高	420	静岡市川合757番地	0542-61-6636	0542-63-5970
	21H15	県立清水工業高	424	清水市八坂東1丁目16-1	0543-66-5471	0543-66-5473
	21H16	三島高	411	駿東郡長泉町土築57-1	0559-88-1450	0559-88-1783
愛知県 23校	22H01	愛知高	464	名古屋市千種区光ヶ丘2丁目11番41号	052-721-1521	052-723-2254
	22H02	愛知工業大学名電高	464	名古屋市千種区若水3丁目2番12号	052-721-0311	052-722-8302
	22H03	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉2丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-4492
	22H04	愛知女子高	451	名古屋市西区新道1丁目23番15号	052-571-8422	052-561-0713
	22H05	東海女子高	468	名古屋市天白区中平2丁目901番地	052-801-6222	052-804-0647
	22H06	東海高	461	名古屋市東区筒井1-2-35	052-936-5112	052-936-9744
	22H07	東邦高	465	名古屋市名東区平和が丘3丁目11番地	052-782-1171	052-782-7151
	22H08	金城学院高	461	名古屋市東区白壁4-64	052-931-6236	
	22H09	県立安城東高	446	安城市北山崎町大土塚10	0566-74-1231	
	22H10	三河高	444	岡崎市岡町字原山12-10	0564-48-5211	0564-48-5300
	22H11	桜丘高	440	豊橋市南牛川2丁目1番の11	0532-61-6421	0532-63-9278
	22H12	県立衣台高	471	豊田市太平町平山5番地	0565-33-1080	
	22H13	県立西尾東高	445	西尾市小島町大郷1-4	0563-56-1911	0563-54-6961
	22H14	県立岡崎東高	444-35	岡崎市竜泉寺町字後山27番地	0564-52-8911	0564-55-9410
	22H15	名古屋工業高	466	名古屋市昭和区門上町22-38	052-871-2681	052-881-0761
	22H16	中京女子大学附属高	461	名古屋市東区大幸南2丁目1番10号	052-723-0851	052-723-1744
	22H17	市立向陽高	466	名古屋市昭和区広池町47番地	052-841-7138	052-853-2453
	22H18	県立豊橋南高	441	豊橋市南清水町元町450番地	0532-25-1476	0532-25-4887
	22H19	県立岡崎西高	444	岡崎市日名南町7番	0564-25-0751	0564-25-9201
	22H20	県立岡崎高	444	岡崎市明大寺町伝場1	0564-51-0202	0564-55-9422
	22H21	県立岡崎北高	444	岡崎市石神17-1	0564-22-2536	0564-25-9231
	22H22	私立名古屋学院高	461	名古屋市東区砂田橋2-1-58	052-721-5271	052-711-6480
	22H23	滝高	483	江南市大字東野字神上47-1	0587-56-2127	0587-56-1732
三重県 4校	23H01	三重高	515	松阪市久保町1232番地	0598-29-2959	0598-29-6944
	23H02	県立四日市南高	510	四日市市日永字岡山4917	0593-45-3177	0593-45-9549
	23H03	松阪女子高	515	松阪市久保町梅村1番地	0598-29-4151	0598-29-6944
	23H04	県立四日市四郷高	515	松阪市久保町梅村1番地	0593-22-1145	0593-22-5390
	23H05					
岐阜県 3校	24H01	聖マリア女学院高	501-25	岐阜市福富201	0582-29-1102	0582-29-3029
	24H02	高山西高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
	24H03	大垣西高	503	大垣市中曽根町字大畔147番地1	0584-91-5611	0584-91-9967
滋賀県 12校	25H01	県立大津商業高	520	大津市御陵町2-1	0775-24-4284	0775-26-1802
	25H02	県立大津高	520	大津市馬場1丁目1番1号	0775-23-0386	0775-26-1772
	25H03	県立栗東高	520-30	栗太郡栗東町小野618	0775-53-3350	0775-54-1537
	25H04	市立守山女子高	524	守山市勝部町962番地	0775-82-2019	0775-83-2829
	25H05	県立甲南高	520-33	甲賀郡甲南町寺庄427	0748-86-4145	0748-86-4983
	25H06	県立八幡商業高	523	近江八幡市宇津呂町10	0748-32-2072	0748-32-4052
	25H07	県立愛知高	529-13	愛知郡愛知川町102	0749-42-2150	0749-42-6172

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	25H08	県立 伊 吹 高	521-02	坂田郡山東町朝日302番地	0749-55-2350	0749-55-2778
	25H09	県立 長 浜 商 工 高	526	長浜市地福寺町3-72	0749-62-3370	0749-65-1344
	25H10	県立 虎 姫 高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
	25H11	県立 北 大 津 高	520-02	大津市仰木の里1丁目23-1	0755-73-5881	0775-73-7076
	25H12	県立 草 津 東 高	525	草津市西渋川2-8-65	0755-64-4681	0775-62-1601
	25H13					
	25H13					
京都府 9校	26H01	同 志 社 高	606	京都市左京区岩倉大鷲町89	075-781-7121	075-781-7124
	26H02	同 志 社 女 子 高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4305	075-251-4329
	26H03	福 知 山 商 業 高	620	福知山市字堀水内	0773-22-6224	
	26H04	市立 洛 陽 工 業 高	601	京都市南区唐橋大宮尻町22	075-691-3161	075-682-5668
	26H05	市立 紫 野 高	603	京都市北区紫野大徳寺町22	075-491-0221	075-492-0968
	26H06	府立 木 津 高	619-02	相楽郡木津町字木津内田山34	07747-2-0031	07747-2-0032
	26H07	府立 兔 道 高	611	宇治市五ヶ庄雲峰4-1	0774-33-1691	0749-33-1696
	26H08	府立 府 立 工 業 高	620	福知山市大字石原小字上野45	0773-27-5161	0773-27-5162
	26H09	府立 朱 雀 高	604	京都市中京区西ノ京武部町1	075-841-0127	075-841-0646
大阪府 17校	27H01	府立 和 泉 工 業 高	594	和泉市富秋町33	0725-41-1250	0725-45-8985
	27H02	大 阪 高	533	大阪市東淀川区相川2-18-51	06-340-3031	06-349-3719
	27H03	大阪工業大学高	535	大阪市旭区大宮5丁目16番1号	06-954-4487	06-953-9497
	27H04	大 阪 女 子 高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
	27H05	関 西 大 倉 高	567	茨木市室山2丁目14番1号	0726-43-6321	0726-43-8375
	27H06	市立 岸 和 田 産 業 高	596	岸和田市別所町541	0724-22-4861	0724-22-4862
	27H07	府立 久 米 田 高	596	岸和田市額原町	0724-43-6651	0724-43-0307
	27H08	此 花 学 院 高	544	大阪市生野区勝山南2丁目6番38号	06-716-0003	06-716-0009
	27H09	帝 塚 山 学 院 高	558	大阪市住吉区帝塚山中3丁目10番51号	06-672-1151	06-671-3479
	27H10	星 翔 高	566	摂津市三島3丁目5番36号	06-381-0220	06-383-4822
	27H11	府立 西 野 田 工 業 高	553	大阪市福島区大開2丁目17番62号	06-461-0023	06-461-3483
	27H12	初 芝 高	591	堺市日置荘西町51	0722-85-0128	0722-86-8405
	27H13	桃 山 学 院 高	545	大阪市阿倍野区昭和町3丁目1番64号	06-621-1181	06-629-6111
	27H14	府立 山 本 高	581	八尾市山本町北1-1-44	0729-99-0552	0729-99-4374
	27H15	府立 工業高等専門学校	572	寝屋川市幸町26番12号	0720-21-6401	0720-21-0134
	27H16	府立 岸 和 田 高	596	岸和田市岸城町10-1	0724-22-3691	0724-32-5266
	27H17	府立 池 島 高	579	東大阪市池島町6-3-9	0729-87-3302	0729-82-3134
兵庫県 17校	28H01	滝 川 高	654	神戸市須磨区宝田町2丁目1-1	078-732-1625	078-732-7391
	28H02	須磨ノ浦女子高	675-01	加古川市平岡町新在家2301	0794-27-0015	0794-27-0080
	28H03	甲 南 高	659	芦屋市山手町31-3	0797-31-0551	0797-31-7458
	28H04	市立 琴 丘 高	670	姫路市今宿668	0792-92-4925	0792-92-4927
	28H05	県立 星 陵 高	655	神戸市垂水区星陵台4丁目3-2	078-707-6565	078-707-6589
	28H06	夙 川 学 院 高	662	西宮市神園町2-20	0798-74-5061	0798-74-1596
	28H07	松 蔭 高	657	神戸市灘区青谷3丁目4番47号	078-861-1105	078-861-1887
	28H08	甲 南 女 子 高	658	神戸市東灘区森北5丁目6-1	078-411-2531	078-411-2535
	28H09	神戸山手女子高	650	神戸市中央区諏訪山町6番1号	078-341-2470	078-341-1882
	28H10	県立 舞 子 高	655	神戸市垂水区学が丘3丁目2番	078-783-5151	078-783-5152

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	28H11	県立 姫 路 東 高	670	姫路市本町68	0792-85-1166	0792-85-1167
	28H12	県立 夢 野 台 高	653	神戸市長田区房王寺町2丁目1	078-691-1546	078-691-1548
	28H13	須 磨 女 子 高	654	神戸市須磨区板宿町3-15-14	078-732-1968	078-732-6129
	28H14	滝 川 第 二 高	651-22	神戸市西区平野町下村字平瀬436-1	078-961-2381	078-961-4591
	28H15	県立 西 宮 甲 山 高	662	西宮鷲林寺字剣谷10番地	0798-74-2460	0798-74-2461
	28H16	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-741-1860	078-741-6304
	28H17	三 田 西 陵 高	669-13	三田市ゆりのき台3-4	0795-65-5287	0795-65-5289
	28H18					
奈良県 3校	29H01	県立 奈 良 高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
	29H02	天 理 高	632	天理市柚之内町1260	07436-3-1515	07436-3-1368
	29H03	奈 良 学 園 高	639	大和郡山市山田町430	07435-4-0351	07435-4-0335
	29H04					
和歌山県 2校	30H01	県立 貴 志 川 高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
	30H02	田 辺 商 業 高	646	田辺市文里2丁目33-12	0739-22-2550	0739-22-2558
	30H03					
鳥取県 5校	31H01	米 子 北 高	683	米子市米原523番地	0859-22-9371	0859-32-6838
	31H02	県立 倉 吉 農 業 高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
	31H03	県立 倉 吉 東 高	682	倉吉市下田中町801番地	0858-22-5205	0858-22-5206
	31H04	県立 鳥 取 商 業 高	680	鳥取市湖山町北2丁目401番地	0857-28-0156	0857-28-0157
	31H05	県立 鳥 取 東 高	680	鳥取市立川町5丁目210	0857-22-8495	0857-22-8497
	31H06					
島根県 3校	32H01	県立 松 江 東 高	690	松江市西川津町字宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
	32H02	県立 安 来 高	692	安来市佐久保町115	0854-22-2840	0854-22-3612
	32H03	県立 出 雲 工 業 高	693	出雲市上堰治町420	0853-21-3131	0853-21-7543
岡山県 3校	33H01	岡山理大学附属高	700	岡山市理大町1-1	086-252-3161	086-255-9859
	33H02	岡 山 県 共 生 高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
	33H03	高 梁 日 新 高	716	高梁市内山下150番地	0866-22-3466	
	33H04					
	33H05					
広島県 25校	34H01	尾 道 高	722	尾道市栗原町1268-1	0848-23-2312	0848-24-2091
	34H02	国立 広島大学附属福山高	721	福山市春日町吉田	0849-41-8350	0849-41-8356
	34H03	市立 呉 豊 栄 高	737	呉市阿賀中央5丁目13番56号	0823-72-5577	0823-74-3501
	34H05	市立 呉 宮 原 高	737	呉市宮原3丁目1番1号	0823-21-9306	0823-21-9308
	34H06	県立 海 田 高	736	安芸郡海田町つくも町1番60号	082-822-3030	082-822-3800
	34H07	県立 加 計 高	731-35	山県郡加計町加計3780-1	08262-2-0488	08262-2-1691
	34H08	広島山陽学園山陽高	733	広島市西区観音新町4丁目12-5	082-232-9156	082-232-2497
	34H09	修 道 高	730	広島市中区南千田西町8-1	082-241-8291	082-249-0870
	34H11	県立 広 島 工 業 高	734	広島市南区出汐2丁目4-75	082-254-1421	082-253-3407
	34H12	国立 広島大学附属高	734	広島市南区翠1丁目1-1	082-251-9867	082-252-0725
	34H13	県立 広 島 皆 実 高	734	広島市南区出汐2丁目4-76	082-251-6441	082-251-6441
	34H14	県立 可 部 高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
	34H15	山 陽 女 子 高	738	廿日市市佐方本町1-1	0829-32-2221	0829-32-7681

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	34H16	県立 因 島 北 高	722-21	因島市重井町長浜5574	08452-4-1281	
	34H20	広 島 桜 が 丘 高	732	広島市東区山根町36-1	082-262-0128	082-263-9228
	34H22	県立 賀 茂 高	724	東広島市西条町西条東770	0824-23-2559	0824-22-2792
	34H23	県立 福 山 葦 陽 高	720	福山市久松台3丁目1-1	0849-23-0400	
	34H24	私立 広島工業大学付属高	731-51	広島市佐伯区三宅1丁目6-25	0829-21-2137	0829-24-3020
	34H25	県立 佐 伯 高	738-02	佐伯郡佐伯町津田850	0829-72-1185	0829-72-0424
	34H26	県立 自 彊 高	720-24	福山市加茂市大字下加茂6	0849-72-3232	0849-74-3317
	34H95	県立 廿 日 市 西 高	738	廿日市市阿品台西6-1	0829-39-1571	
	34H96	近畿大学附属福山高	720	福山市佐波町389	0849-51-2695	0849-52-3581
	34H97	私立 福山暁の星女子高	721	福山市西深津町3丁目4番1号	0849-22-1682	0849-25-1533
	34H98	英 数 学 館 高	721	福山市引野町980-1	0849-41-4115	0849-41-4118
	34H99	広島女子商業高	732	広島市南区段原町11-5	082-261-8161	
山口県 9校	35H01	県立 久 賀 高	742-23	大島郡久賀町第4851番地の2	08207-2-0024	08207-2-0096
	35H02	県立 下 関 西 高	751	下関市後田町4丁目10番1号	0832-22-0892	0832-22-0892
	35H03	聖 光 高	743	光市光井9丁目22-1	0833-72-1187	0833-72-1308
	35H04	県立 田 布 施 工 業 高	742-15	熊毛郡田布施町麻郷奥	0820-48-2306	0820-52-2269
	35H05	県立 田 布 施 農 業 高	742-15	熊毛郡田布施町大字波野195番地	0820-52-2157	0820-52-2157
	35H06	県立 西 京 高	753	山口市大字黒川2580番地の1	0839-23-8508	0839-32-0721
	35H07	県立 華 陵 高	744	下松市朱武上屋称下217-2	0833-44-1285	0833-41-5494
	35H08	県立 下 松 高	744	下松市若宮町12-1	0833-41-0157	0833-41-3147
	35H09	岩 国 工 業 高	741	岩国市錦見2丁目4-85	0827-41-1105	0827-41-1105
香川県 5校	36H01	県立 高 松 西 高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
	36H02	県立 観 音 寺 第 一 高	768	観音寺市観音寺町甲648-1	0875-25-4155	0875-25-4145
	36H03	尽 誠 学 園 高	765	普通寺市生野町855番地	0877-62-1515	0877-63-3860
	36H04	県立 高 松 南 高	761	高松市一宮町531	0878-85-1131	0878-85-1133
	36H05	県立 高 松 東 高	761-03	高松市前田東町690-1	0878-47-6221	0878-47-6223
徳島県 5校	37H01	県立 徳 島 工 業 高	770	徳島市北矢三町2丁目1番1号	0886-31-4185	0886-31-1110
	37H02	県立 鳴 門 高	772	鳴門市撫養町斉田字岩崎135-1	0886-85-3217	0886-85-0074
	37H03	県立 徳 島 東 工 業 高	770	徳島市大和町2丁目2-15	0886-53-3274	0886-53-3296
	37H04	私立 生 光 学 園	771	徳島市応神町中原38	0886-41-1032	0886-41-4075
	37H05	辻 高	779-48	三好郡井川町御領田61番地1	0883-78-2331	0883-78-2269
愛媛県	38H01					
	38H02					
高知県 2校	39H01	県立 高 知 小 津 高	780	高知市城北町1-14	0888-22-5270	
	39H02	私立 高 知 高	780	高知市北端町100	0888-40-1111	0888-44-7578
福岡県 5校	40H01	県立 柏 陵 高	815	福岡市南区大字柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
	40H02	県立 折 尾 高	807	北九州市西区大膳2丁目23番1号	093-691-3561	093-691-9529
	40H03	県立 門 司 北 高	800-01	北九州市門司区猿喰1462-2	093-481-4673	093-481-5768
	40H04	慶 成 高	803	北九州市小倉北区血山町15番1	093-561-1331	093-561-4844
	40H05	私立 大 牟 田 高	837	大牟田市大字草木852	0944-53-5011	0944-53-8251
佐賀県 2校	41H01	県立 佐 賀 高 志 館 高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2008
	41H02	県立 厳 木 高	849-31	東松浦郡厳木町下厳木727	0955-63-2535	0955-51-5021

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
長崎県 8校	42H01	県立 大 村 工 業 高	856	大村市森園町1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
	42H02	県立 諫 早 東 高	854-02	北高来郡森山町杉谷名317	0957-36-1010	0957-36-1010
	42H03	県立 長 崎 南 商 業 高	851-02	長崎市北浦町2885-1	0958-36-0120	0958-36-2719
	42H04	私立 鎮 西 学 院	854	諫早市栄田町1057	0957-25-1234	0957-25-1237
	42H05	県立 佐 世 保 工 業 高	857-01	佐世保市瀬戸越3丁目3-30	0956-49-5684	0956-49-8072
	42H06	私立 佐 世 保 実 業 高	858	佐世保市母ヶ浦町8881	0956-48-8881	0956-48-8152
	42H07	私立 玉 木 女 子 高	850	長崎市愛宕1-21-6	0958-26-6321	0958-28-6837
	42H08	県立 佐 世 保 南 高	857-11	佐世保市日字町2525	0956-31-4374	0956-33-4103
熊本県 6校	43H01	県立 第 二 高	862	熊本市東町3-13-1	096-368-4125	096-365-5636
	43H02	有 明 高	864	荒尾市増永2200番地	0968-63-0958	0968-64-1366
	43H03	東海大学第二高	862	熊本市大江町渡鹿223	096-382-1146	096-385-2161
	43H04	私立 熊本フェリス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
	43H05	県立 氷 川 高	869-42	八代郡鏡町大字鏡村937	0965-52-3611	0965-52-5161
	43H06	熊 本 高 体 連				
大分県 12校	44H01	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-67-6098	0977-67-8255
	44H02	明 星 高	874	別府市野口原3088番地	0977-21-2090	0977-24-3141
	44H03	県立 大 分 櫻 丘 高				
	44H04	鶴 見 丘 高	874	別府市鶴見字横打4433-2	0977-21-0118	
	44H05	県立 大 分 電 波 高	870	大分市新貝11-40	0975-58-3734	
	44H06	県立 別 府 羽 室 台 高				
	44H07	佐 伯 豊 南 高				
	44H08	県立 大 分 東 明 高	870	大分市千代町2丁目4-4	0975-35-0201	0975-35-0966
	44H09	大 分 豊 府 高	870	大分市大字羽屋600番1	0975-46-2222	
	44H10	県立 大 分 高	870-01	大分市横尾字大丸尾	0975-51-1101	
	44H11	県立 大 分 上 野 台 高	870	大分市上野丘2丁目10番1号	0975-43-6249	
	44H12	県立 中 津 工 業 高	871	中津市上如水145-3	0979-32-2222	0979-32-2224
宮崎県 2校	45H01	県立 都 城 泉 ケ 丘 高				
	45H02	都 城 西 高				
鹿児島県 2校	46H01	県立 鹿児島純心女子高	890	鹿児島市鴨池町1847	0992-54-4121	0992-52-7688
	46H02	県立 鹿 児 島 工 業 高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	099-222-9205	099-222-9206
沖縄県 5校	47H01	県立 豊 見 城 南 高	901-02	豊見城村字翁長520	098-850-1951	098-850-9239
	47H02	県立 宜 野 湾 高	901-22	宜野湾市字真志喜2丁目25番1号	098-897-1020	098-897-4031
	47H03	県立 中 部 商 業 高	901-22	宜野湾市字我如古2丁目2番1号	098-898-4888	098-898-4808
	47H04	県立 前 原 高	904-22	具志川市字田湯1827番地	098-973-3249	098-974-4951
	47H05	鏡が丘養護学校	901-21	浦添市当山750	098-877-4940	098-877-9958

○都道府県数 46県（内35都道府県 高体連に加盟 平成9年12月現在）

○学 校 数 380校

○新規加盟校の指定学校番号は、各都道府県で指定学校番号を付記し本専門部へ通知すること。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 登録状況一覧表

平成9年11月5日現在

番号	都道府県名	単 独 校		複数校	女 子			女子合計	男 子			男子合計	合 計			総合計
		女子	男子		1年	2年	3年		1年	2年	3年		1年	2年	3年	
1	北海道	1	7	12	26	27	18	71	32	38	30	100	58	65	48	171
2	青森	2	1	7	26	7	14	47	29	26	35	90	55	33	49	137
3	岩手	1		2	19	15	15	49	56	16	4	76	75	31	19	125
4	宮城		1	3	7	1	5	13	25	28	3	56	32	29	8	69
5	秋田															
6	山形	1		4	18	10	15	43	25	8	12	45	43	18	27	88
7	福島		1	2	5	6	2	13	7	12	12	31	12	18	14	44
8	茨城			1			2	2	10	1		11	10	1	2	13
9	栃木			1	3	1	2	6	5	2	5	12	8	3	7	18
10	群馬	4	2	2	14	13	14	41	18	24	24	66	32	37	38	107
11	埼玉			9	30	31	31	92	33	20	24	77	63	51	55	169
12	千葉	1	1	10	36	23	25	84	42	44	39	125	78	67	64	209
13	東京	4	8	9	56	36	15	107	93	86	59	238	149	122	74	345
14	神奈川	3	5	8	45	42	24	111	88	68	50	206	133	110	74	317
15	山梨	2		1	3	12	4	19	1	2	1	4	4	14	5	23
16	新潟		1	3		4	3	7	6	12	11	29	6	16	14	36
17	長野		1	3	9	6	6	21	4	9	13	26	13	15	19	47
18	富山		2	3	6	10	5	21	13	17	15	45	19	27	20	66
19	石川		1	2		6	2	8		19	6	25		25	8	33
20	福井	1		2	14	7	11	32	7	12	5	24	21	19	16	56
21	静岡		4	9	31	32	22	85	58	63	45	166	89	95	67	251
22	愛知	2	4	6	25	20	15	60	58	50	44	152	83	70	59	212
23	三重			2	8	4		12	3	3	5	11	11	7	5	23
24	岐阜	1		2	1	4	13	18		6	3	9	1	10	16	27
25	滋賀	1		10	26	18	12	56	44	23	19	86	70	41	31	142
26	京都	1	1	5	14	24	16	54	33	24	26	83	47	48	42	137
27	大阪	2	6	8	25	20	27	72	65	50	46	161	90	70	73	233
28	兵庫	7	3	7	34	49	57	140	33	17	26	76	67	66	83	216
29	奈良		1	2	2	12	7	21	19	11	10	40	21	23	17	61
30	和歌山		1	1	2	3		5	1	5		6	3	8		11
31	鳥取			5	27	15	9	51	28	9	13	50	55	24	22	101
32	島根			2		5	6	11		12	4	16		17	10	27
33	岡山			2	1	4	1	6	6	7	1	14	7	11	2	20
34	広島	3	6	9	30	42	7	79	43	57	23	123	73	99	30	202
35	山口	1	3	5	22	12	14	48	38	13	16	67	60	25	30	115
36	香川			3	17	18	6	41	19	20	7	46	36	38	13	87
37	徳島			1	4		3	7	6	4	4	14	10	4	7	21
38	愛媛															
39	高知															
40	福岡			3	22	10	17	49	10	10	12	32	32	20	29	81
41	佐賀			2	10	9	3	22	12	5	5	22	22	14	8	44
42	長崎	3	2	2	24	4	7	35	9	7	10	26	33	11	17	61
43	熊本	1	1	4	9	13	12	34	21	20	15	56	30	33	27	90
44	大分	1	2	1	13	1	4	18	11	3	4	18	24	4	8	36
45	宮崎															
46	鹿児島			1	1			1	3	2	6	11	4	2	6	12
47	沖縄	1		4	18	11	4	33	9	4	7	20	27	15	11	53
合 計		44	65	180	683	587	475	1745	1023	869	699	2591	1706	1456	1174	4336

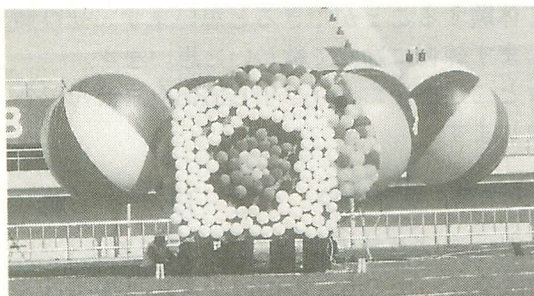
○高体連加盟 35都道府県

340校+α

第2回韓国国際競技大会報告

日本ジュニアチームコーチ

富士見高等学校 水上 英彦



例年ジュニアの強化育成事業の一つとして海外遠征を実施しているが、本年度は、いつもの全米選手権大会から第2回韓国国際競技大会へ参加した。ジュニアの編成は、大学生2名、高校生2名の計4名をもって構成、選考会の結果、男子代表選手は原口航（東海大学第2高校）、牧山雅文（巖木高校）、女子代表選手は坪内美沙（甲南女子高校）、板井那

奈（大分東明高校）以上4名がジュニアチームの代表として選ばれる。

第1回大会は、1994年ソウル国際大会として行なわれた。もちろん日本代表チームも参加しており、その時韓国のハン選手による30M360点のパーフェクトが生まれている。国際大会として大変レベルの高い競技会でもある。その大会に、ジュニアチームのコーチとして同行し、世界一のシューティングパフォーマンスを肌で感じる事ができ言葉では表現できない何かぞくぞくするものを感じてきました。と同時に改めて韓国の強さに驚くことばかりの毎日でした。

参加国は、男子17ヶ国20チーム、女子18ヶ国21チーム、日本もそうだが、各国8月の世界大会に照準を合わせての参加であり、高いレベルの競技会となった。その中で男子のジャクソン・フェア（AUS）が70Mで、従来山本博が持っていた344点の世界記録を1点上回る345点を射ち世界新記録が樹立。女子においても、鄭昌淑（韓国）が70Mで341点の世界新記録を樹立。一日に2回の世界新記録が誕生、その場にいた我々はただただ驚くばかりであった。また、団体において韓国チームが男女共4,000点をアップ、世界一の貫禄を見せつけた。

日本選手も活躍、川内紗代子（近畿大）はORマッチ18射167点の日本新記録を樹立、また浅野真弓（近畿大）もORマッチ36射で308点の日本新記録を樹立した。

ジュニアも健闘、原口航は決勝ラウンド1回戦で予選9位のW・S・CHUNG（1326点）を敗る大活躍、2回戦では山本博に貫禄負けはしたものの何か光るものを感じた。女子ジュニアチームも団体戦で活躍、結果的に負けはしたものの途中までは韓国チームに勝っており、韓国選手にプレッシャーをかけることができた。



試合を観戦していて思ったことは、強い選手は皆共通して『集中力』がすごいということ、また、結果を恐れず攻撃的であること、最初の1射目のシューティングと前後の144射目のシューティングがまったく同じであること等々素晴らしいシューティングを見せてくれました。

今回4名の高校生が韓国国際大会に出場し、それぞれ自分なりに感じた事、思った事を素直に感想文に書いてあります。同じ高校生として大変参考になる所もあると思いますので、生徒の文章をそのまま載せました。

平成10年は、スウェーデンで第5回世界ジュニア選手権大会が開催されます。多くの高校生の中から代表選手を選びますが、チャンスがあつてこの大会に出場できる生徒は、今までとは違った意味で良い経験を身を持って体験することができると思います。ぜひ頑張って代表選手になれるよう、日々努力を惜しまず練習に励んで欲しいと思います。

最後になりましたが、関係者各位には、色々ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。今後共ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

東海大学第二高等学校 原 口 航



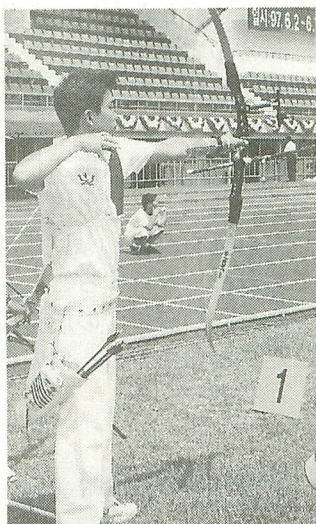
自分はJrの日本代表に選ばれ韓国に行くことができました。これも選抜で準優勝することができJrの国内予選に出場することができたからです。選抜では同じJr代表の牧山に負けはしたけど、実力では絶対に劣っていないという自信があり国内予選では牧山を倒し1位で代表に選ばれました。その後韓国行きの直前には調子もよく1300も何度かだすことができ絶好のコンディションで韓国に行くことができました。しかし、韓国では移動の疲労と食事が自分には合わずに体調を崩してしまい思うような結果を残すことができませんでした。しかし、Jrの団体戦にもメンバーとして近大の末口さんや日体の湯脇さんと一緒に参加することができました。次の日は女子の個人戦で午前中の練習で調子も少し良くなり午後には女子の試合の見学に行きました。そしたら浅野さんが雷雨の中で準優勝をして、ひどく影響を受けました。そして翌日男子の個人戦は今までの自分を変えてしまうことが起こりました。一回戦は予選9位の韓国選手、予選の点差は約90点だけど試合会場は風も強く逆転の可能性は十分あり昨日の練習も思い出し自分に集中し負けても恥ずかしくない点数を出そうと思いました。結果はなんとか勝つことができました。けれど、自分にとってはこの世界でもトップレベルの韓国選手を倒すことができ、自分の実力にも自信がつかしました。あと、この韓国遠征でおどろいたことは、韓国の高校生のレベルの高さです。女子の優勝者のキム、ドゥーリーも高校生だったし、同格的にも韓国の高校生がいて予選で8位というレベルの高さでした。この世界レベルの試合に参加でき自分の意識改革もされ、日本の高校レベルでは世界のJrにも通用しないと実感することができました。この事がその後の高校新やインターハイでの活躍に十分役立つ体験となり、Jrでも日本代表になることができ本当に良かったです。

巖木高等学校 牧 山 雅 文

僕は、選抜大会で優勝し、韓国国際大会の予選に出てジュニアの部の代表に選ばれました。この予選会の時はシングルダブルで本当に今までで一番体力の使った試合でした。雨や風で調子を崩してしまったけど思い出の試合になりました。

予選も通過し韓国国際大会に出場することができました。韓国は世界一なのでそのレベルはどの位なのかと思ってました。しかし韓国選手達はゆったりとした行動で現れ力強い

シューティングを見せてもらいました。リリースをする瞬間のあの速さ、タイミングどれを取ってもやはり世界一だと思いました。憧れだった選手、雑誌などで見た事のある選手など、多くの素晴らしい選手を見て僕は緊張していました。その中で公開練習をやりました。自分達高校生は矢取りの時は走ります。ですから、いつものように、走って行くのですが走っているのはJAPANと書いた2人、原口と自分が射場を走っていました。その姿がけっこう自分は楽しかったです。あと、公開練習の時は、とにかく近射を良く射ちました。その訳は韓国の方がちょうど夜寒かったので筋肉が固くなってしまったからです。でも昼は夜の寒さが嘘の様に暖かかったです。食事肉とか香辛料がよく入った料理が多かったので僕はとても辛かったです。一番嬉しかった料理はカレーでした。カレーだけは日本食と味はそんなに変わらなかったのが良かったです。でも、毎日毎日同じ食事だったので辛かったです。



試合の日、朝5時半に起床し、ジュニアチームだけで散歩をし、6時から朝食を取りました。本当眠かったです。「何で、男子まで」なんて思っていました。実は女子が午前中、男子が午後だったので自分達は10時位までいつも寝ていました。

練習に行き、昼食を取らずバスで約20分スタジアムに着きました何かすごいです。スタジアムの中にマイクで放送が響いているし音楽も流れています。「こんな中で試合？」って感じでした。日本のやり方とは全く違う。その印象がとても強い射場でした。

そんな中、準備をし、いよいよ試合が始まりました。もう射つのが一生懸命です。こんなに緊張した事は今までなかったです。2日目には50メートルで残り5秒という所で射って本当にドキドキでした。でもトーナメントに出れたので良かった。韓国選手と戦えて良かったです。負けましたが、自分にとって良い経験が出来ました。この経験はアーチェリーをやっていく限り自信につながりました。これからも、素直な心でアーチェリーをやって行きたいと思っています。ありがとうございました。

甲南女子高等学校 坪内 美沙

韓国国際大会に出場して本当にいい経験ができた。予想以上に感動し、多くのものを得ることができた。



まず驚いたのは、会場に行く時、一般車両を通行止にして私達選手の乗るバスは警察に先導されて、信号無視で道路を突走ったことだ。着いた会場は立派、開会式は盛大で観客は多勢だった。この時はさすがアーチェリーの国、韓国だと実感した。

この大会出場に私は大きな期待を寄せていた。世界のトップの選手が同じ場所にいる。このチャンスを逃がすまいと、上手な選手の観察をした。射ち方やリズム等、自分に足りないと思うところやウォーミングアップなど、とにかく全てを見ておきたかった。何か1つでも多くのことを吸収し、体で感じる事が目的だった。こん

な機会は今しかない、と思い充実した毎日を過ごした。

試合の雰囲気は穏やかで、矢取りの時には音楽が流れ、外国人の選手の中には踊りだす人もいたほどだった。試合を楽しんでいるという感じを受け、日本とは異なった雰囲気だと思った。国際大会ならではの雰囲気を味わった。

私は良い成績を出すことができなかったが、試合の面白さを改めて実感できてうれしかった。この大会に出場して、心の底から沸き上がる言葉で表現できない「何か」を体で感じ、自分を改善しなければならないと強く思った。韓国国際大会は私に大きな影響を与えてくれた。改善することを沢山発見できたし、何よりも、上手になりたいと強く思わせてくれた。高校のこの成長段階に素晴らしい経験ができて感謝している。この韓国で体で吸収したことを生かし、良い結果を出してゆきたい。

大分東明高等学校 板 井 那 奈



私にとって韓国国体大会はとても意味のある試合になりました。十日間が、あっという間に過ぎていきました。これまでの私は、どの試合にも先生が引率し、指導して頂きながら試合をしていましたが今回初めて先生のいない試合を経験しました。私は、最初は不安でいっぱいでしたが水上先生、五百蔵先生がコーチして下さった事もあり、私の不安も次第になくなっていきました。試合では一本射ち忘れがあり、射った本数を忘れた自分に腹が立ってしようがありませんでしたが、なんとか千二百アップする事ができホッとしました。そして先生の存在の大きさを痛感すると共に、精神的にもっと大きくなければいけない、そしてシューティングラインに立ったら自分しかいないんだと思い知らされました。なんとか予選ラウンドを通過し、個人戦・団体戦ともKOREAとあたった事が印象深く、よい勉強になりました。個人戦での自分は、KOREAという名前に、

試合前から負けていました。団体戦の時は反対に試合がとても楽しみでした。シューティングラインに入る前から、緊張で体が震えていました。こんなに緊張したのは初めてでした。最初は勝っていた試合、三エンド目ではひっくり返され点差を大きく広げられたのはやはりメンタルの弱さだと思います。試合後の練習で背中での使い方を教わったり、色々な話を聞く事ができましたし、男子・女子共に世界記録がでて、その場において自分の目で見ることができた事をうれしく思いました。又トップ選手の射型やセッティングなど見る事ができ、とても勉強になりました。自分の射ち方や練習に対しての考え方も変わりました。試合を通して多くの事を学べ、自分を成長させる事ができたように思えます。そして、今回の経験を生かし、まだ先を目指す謙虚さ、そして自分に対してプライドを持てるようこれからも頑張りたいと思います。

〔インターハイ男子優勝校〕

高校3年間を振り返って

東海大学第二高等学校アーチェリー部

部長 酒井 英 輔

顧問 北 原 茂

本校アーチェリー部にとって、今年度は最高の年となった。創部以来30年月のことである。

春の選抜大会（茨城）では、女子の出口香奈子が高校チャンピオンに、男子の原口航が第2位になり、また夏のインターハイ（京都）では、念願の団体初優勝を飾り、個人の部でも田上久敬が第3位、他の二人も6位、8位と全員が入賞するなど本当にすばらしい年となった。

そこで、3年生諸君に3年間の感想らしきものを書いてもらうことにした。本当は全員に書いてもらいたいが、ページ数の関係もあり一部の生徒に書いてもらった。

〔田 口〕 アーチェリーを通して学んだ事はたくさんある。一つはアーチェリーを頑張ることによって、他のこと（勉強など）にも、一生懸命なれた気がする。また、このスポーツは、練習のときも自分の頭の中で技術的・精神的な事など悩み考えることが非常に多い。そのせいか何に対してもプラス思考に考えることが出来るようになった。くじけそうになっても、そこで前に進む何かをつかむことが出来たと思う。そのことはわたしにとってアーチェリーを通して一つの成長だと思う。

二つめは、たくさんの友達ができたこと。学校では表彰を受けることが多くなったせいで話したことがない同級生や下級生、そして先生方などから応援してもらうことにより人とのつながりをもつことが出来た。また、試合で知り合った全国各地の友達。アーチェリーをしなかったら、こんなにたくさんの友達は出来なかつただろう。今まで応援してくれた友達・先生・家族にはとても感謝している。これから新たな夢をもち世界を目指して頑張っていこうと思う。

〔田 上〕 僕は、高校に入学しアーチェリーをすることは全く思っていなかった。何げなく見学に行ったことでこの部の入部が決定してしまった。しかし、やればやるほどおもしろくなり、いつのまにか虜になってしまった。その一つに「憧れ」。1年次に先輩たちから聞いたインターハイや選抜大会の話。「出場したい。活躍したい。」この気持ちからではないだろうか。しかし、それは簡単なことではなかった。練習しても練習しても点数が出ない日々が続く。いらいらした日が幾日も続いた。それでもくじける事なく練習場に立つ自分がいる。「本当にアーチェリーが好きだったんだと思う。」

そしてもう一つは「出会い」。アーチェリーを通してたくさんの人と出会えた。特に3年間ともに練習してきた仲間は、とても大切な友達である。このすばらしい仲間と東海大二高校でアーチェリーができたことが僕にとって大きな幸せであるとともに「出会い」ではなかつただろうか。

〔原 口〕 高校でのアーチェリー競技ではさまざまな経験をした。インターハイでの団体優勝、選抜大会での準優勝、韓国国際競技大会の国内予選と初の国際大会の出場など大変すばらしい成績を残すことができ、今まで経験することができない程のすばらしい年だったと言えるでしょう。その反面、九州団体惨敗など納得の行かない成績も残してきた。しかし、このどちらとも感じることがあった。それは仲間の大切さだ。ある時はライバルで互いに切磋琢磨し成長し、ある時はチームとなり一つの目標に向け力を合わせる。そして誰かがくじけそうになったら励まし

合い、そこから自分たちの新しい何かを見いだしていく。呼び方はその時々で違うが、そこにはいつも仲間がいる。信頼できる仲間達が。

〔山ノ内〕 今振り返ってみると、今年のインターハイは、あれよあれよと言う間に終わってしまったような気がする。やはり1日目の長距離が中止されたからだろうか。おかげで悲惨な点数にならなくてほっとしたことも事実だった。2日目はよく当てることができ、予選は2位で通過することができた。

個人戦では、3回戦の最終射で3点を射ち敗退、8位に終わった。そのことで結構悩んだが、その時でた答えは「割り切って次を考える。」だった。そして最終日の団体戦。このときチームとしては緊張のためか普段の点数がなかなかでず、内心は苦しかった。しかし、順当に勝ち進むことができ優勝することができた。その瞬間は、優勝の実感はあまりなかったが、先生が嬉しさのあまり泣いている姿を見て、初めて優勝の実感というものが湧いてきたことを覚えている。

しかし、このインターハイで心に残ったことは、個人戦での3点だった。

〔堤〕 3年間アーチェリーを続けたうえで、一番印象に残ったのは最後のインターハイでの『全国優勝』である。

高校生から始めた部活動で1年生のとき思うような点数がでず悔しい思いをしたときもあったが、この優勝は今までのいろんな悔しいことや苦しかったことなど全て消してくれるような気持ちにさせてくれた。本当にアーチェリーを続けていて良かったと思った。今までの県大会や九州大会での優勝とは全く違った喜びがインターハイ優勝のときにはあったし、今までに味わうことのない特別なものだった。心の奥が痺れるような感じで涙がでできそうだった。

この経験は、今後自分の大きな自信になるだろうと思った。しかし、まだアーチェリーにたいしてやり残したこと、またそこから学ぶことがたくさんあるのも事実である。そのことをしっかりと見据えて新しい一步を踏み出したい。

〔小 魔〕 僕は、高校に入って中学ではあまりやっていないスポーツをしてみたかった。そこで選んだのがアーチェリーだった。最初は基礎体力づくりのトレーニングやゴム引きなどすごくつまらなかった。夏休みぐらいから弓を引くことができすごく嬉しくて練習が楽しみだったのを思い出す。しかし、徐々に点数のこと、射型の事など悩む日が多くなった。そんなときに先輩や友達に聞いてもらい、アドバイスしてもらったりして問題を解決して頑張っていたのもつい最近のように思える。もし自分一人だったら、続けていたかどうか解らなかった。先輩や同級生、特に同級生の存在があったからこそ、一生懸命に練習できたと思うし、今の自分の存在があると思う。また、結果点と試合点の差など自分の弱さをあらためて知ることができ、そのことから精神面の強さを身につけて行くなど多くのことを経験したと思う。そのことが実り、2年のインターハイで団体3位、3年で優勝。

この3年間アーチェリーを続けてきてすばらしい思い出と仲間ができた。またその中に自分の存在にも気づく事ができたことに感謝したい。

1997年8月8日長年夢見ていた全国制覇を達成することができた。昭和41年に6名の同好会から始まった我が部の30年目の夢の達成の瞬間であった。

生徒達はこの全国大会優勝によって色々な経験をしたことであろう。その中で、友人との出会いや大切さ。そして自分の存在、自分を取り巻く周りの人達の協力などいろいろなことがある。しかし、忘れてならないものがある。それはこの部の歴史づくり卒業して行った先輩たちである。この先輩たちが自分たちが為し得なかった夢を後輩達に熱く語る。後輩達はそれに向け挑戦する。それがやっと実った。さて今度はどんな夢を先輩たちは語ってくれるのだろうか。

また、後輩たちはこれからどういう歴史を作り上げるのだろうか。

〔インターハイ女子優勝校〕

夢を抱いて・・・！

～創部5年、今まさに伝統の1ページ～

アーチェリー部監督

教諭 早田 文 宏

〔はじめに〕

本校は今年で創立23年目を迎えた、歴史的にも新しく、1学年4クラスの中規模校です。アーチェリー部は平成5年に同好会として産声を上げ、今年で5年目を迎えました。創部時は練習場の設営など予算的な問題、また生徒数が少ないため部員数の確保や専門の指導者がいない等、厳しい状況があったと聞いています。しかしその努力の甲斐あって創部2年目に部に昇格し、また多くの方のご支援を受け練習場も完成したと聞いています。初代監督となられた丁畑正敏先生は、私の高校時代の恩師であり、バレーボールが専門です。学校ではあまりメジャーな競技ではないアーチェリー競技を、全く経験もなく、すべてが初めてである状況の中で、3年間部を維持してこられた先生のご苦労は大変なことであつたろうと思います。



〔創部4年目〕

平成8年4月、創部4年目のアーチェリー部を引き継ぐことになりました。赴任当時、部員は女子3年5名、2年5名でした。中学時代は部活動経験無しの者や、文化系の部に所属していた者が大半でした。どちらかという運動は好きだが苦手といった生徒が多かったようです。しかし、みんな明るく素直で学ぼうとする姿勢を持った生徒達でした。やがて新入生女子3名、男子3名が仲間に加わりました。この頃は、目前にひかえた県の総体で勝ちたいという意識より、あきらめが強い状態でした。「とにかく一生懸命やって答えを出そう。」ということで、ひたすら時間の許す限り矢を放ちました。生徒達にとっては初めて経験するハードな練習だったようですが、誰ひとり根を上げず頑張っていた姿が印象的でした。しかしながら私自身、前年度まで中学校に勤務しており、矢がカーボンで細くなり、センターロッドが太くなっていたことに驚くほど、久しくアーチェリーから遠ざかっていましたので、指導にあたり勉強しなければならなかったことが数多くありました。幸いなことに、九州には大学同窓生の先生方が多くおられ、またアーチェリーを通して出会った先生方、アーチェリー関係者の方からのご指導をいただきました。特に、地元の東海第二高校の北原先生には、兄弟校のように面倒をみていただきました。お陰様で「氷川高校には指導者が何人もいる」といった環境の中で、生徒達はのびのびと練習に励むことができました。そんな環境の中、県総体間近になると、部員達は「インターハイ」という未知の夢を持ちだしました。目標が夢に変わったことが何よりうれしく、また頼もしくも感じました。次第に一人ひとりが自覚を持ち始め、日々の生活、練習にも高い意識が感じられるようになりました。いつの間にかインターハイ団体、個人戦とも予選突破が部員達の目標になりました。そして県総体では初優勝、インターハイでは初出場団体ベスト8、

個人準優勝という思いがけない成績をあげることができました。

[本年度創部5年目]

3年女子1名が進路の都合でやむなく退部し4名となり、2年女子3名・男子3名に新入生女子9名を迎えて本年度がスタートしました。新学期早々からしばらくは伸び悩みの状態が続きました。そんな中再び3年生が進路の都合でやむなく退部し、3年は3人になりました。そのうちの一人が県総体直前に、同じく進路の都合で県総体を最後に引退することになりました。退部、引退した部員達も悩み抜いた結論でした。わかっていても残った2人の3年生をはじめ全員沈み込みました。毎日の練習にも集中力に欠け、チーム力の低下も著しいまま、県総体に望みました。1日目が終わった時点で近差で着けられ危うい状態となり、試合後は学校にもどり調整練習をしました。2日目は何とか逃げ切ることができ、インターハイへの切符を手に入れることができましたが、同時に主力選手が引退しました。今年の選抜大会に出場し、調子をあげていた部員だっただけに残念で仕方ありませんでした。とにかく残りの女子3年2名と2年3名、計5名でチームをつくらなければならないという現実と「日本で勝負をしたい」という思いがのしかかり、部員達にとっても、私にとっても思いもよらない厳しいプレッシャーとなりました。何度もミーティングを行い、涙を流しながら取り組みましたが、九州総体では惨敗でした。しかし、この試合で負けたことが、部員達は「このままでは、だめなんだ。」と実感し、これまでの気持ちを一新するチャンスとなりました。「夢を欲に変えるな。」「他のチームも一生懸命だ。死にもの狂いで取り組むしかない。」と叱咤激励しました。そんな険しい私に、部員達は必死に食らいつき夢を膨らませていきました。しかし、思ほど点数の伸びはありませんでした。

そしてインターハイを迎えた日、練習時から相変わらず不調で、矢が全くまとまらない状態でした。正直なところ予選突破できるだろうかと心配していましたが、悪天候と試合形式の変更が味方してか3名全員が予選突破を果たし、団体ではトップと2点差で予選2位という結果で通過できました。これには私も部員達も驚きました。個人戦決勝では1回戦で2人が破れたものの、平田はトラブルに苦しみながらも準優勝ができました。(母親の話では、個人金メダルを私にプレゼントするんだと言っていたそうです。試合後のあの涙は・・・と思うと胸が詰まりました。) 団体戦当日の朝、不安、苦しさを抱えながらもみんな笑顔で顔を合わせました。今年は保護者の配慮で、全員応援に駆けつけてくれました。そして試合が始まりました。当日の練習まで当たらなかった矢が嘘のようにまとまり始めました。練習でも出したことのない点数もありました。応援と選手が一つになり本当のチームになったとき、全く別人のように思わぬ力を発揮しました。一人ひとりが生き生きと輝いているようでした。試合が終わり、気がつくやうに涙に体を震わせ抱き合っていました。夢だって全国制覇の瞬間でした。今年のインターハイまでこれといった伝統もなく、まさに毎日が歴史と伝統を創るための活動の日々でした。そんな中での今回の優勝は、伝統の1ページにふさわしい記念すべき出来事となりました。帰りの電車の中、振り返るとそこには共に泣き、苦しみ、磨きあった家族のような仲間の寝顔がありました。この子達こそ私の誇りです。

最後になりましたが、これまでご指導、ご支援をいただきました全国の諸先輩をはじめとする同級生、関係者の方々、学校、保護者の方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今回の優勝を励みに部員一同一層頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

〔学 校 紹 介〕

小さな村から、全国へ・・・

石川県柳田農業高等学校 アーチェリー部

顧問 鈴ヶ嶺政広 西又良美

本校は、昭和12年6月に奥能登唯一の男女共学による石川県農学校として開校しましたが、昭和42年に「自営者養成農業高等学校」として文部省の指定を機に、農場や寄宿舎施設設備を拡大して新しいスタートを始めました。昨年の6月には、創立60周年を迎え「心の豊かさを求めて」の21世紀の展望のもとに、能登における農業教育の中核として新たな道を歩んでいます。

本校アーチェリー部は、昭和61年に同好会として発足し、翌年度に部に昇格しました。石川県では平成3年に競技大会が開催されることになり、柳田村がアーチェリー競技会場に指定されました。そこで、「柳田村から国体選手を…」という強い要望があがり、本校にアーチェリー部が創部されました。

初年度………当時は、顧問も部員も全くアーチェリーというスポーツを知らないという状態からの出発で何度も講習会に参加し、生徒と練習方法を考えながら無我夢中でやっていました。

2年目………同好会から部へ、1年生は基礎体力づくりを中心とし、2年生は筋力強化と弓を射る練習を主に行っていました。その年の7月には幸運にも本校アーチェリー部は京都インターハイに出場することができました。初めての全国大会、結果は技術の未熟さと試合経験の不足などを痛感させられた大会となりました。だが、この大会に出場することによって全国とのレベルの差や練習量の違いなど様々なことを収穫でき、今後のクラブ作りに役立てることができました。

3年目………昭和63年には、石川県で2番目のアーチェリー部「金沢向陽高校」が創部されました。これにより生徒達のライバル意識が強まり、次第に部全体が活気づいてきました。

5年目………（平成2年）本校アーチェリー部に男子部ができました。石川国体を来年に控え県の国体強化にも熱が入り、試合・県外遠征・強化合宿等が休む間もなく行われました。生徒達は、遅々ではあるが練習点数・試合点数がUPしてきました。3月に行われた全国高等学校選抜大会では女子の部4位に入賞することができました。

6年目………（平成3年）石川国体の年に入り、村全体が今までにない緊迫感を漂わせながら国体準備におわれていました。生徒達は、村の人達の励ましを受けながら必死に練習をし、技術を磨いていきました。そんな中、6月に西又良美（私、当時3年生）がFITAシングル60Mで日本高校記録を樹立。

国体間近になり、「石川選抜」メンバーの発表が行われました。本校アーチェリー部から男子1名、女子2名の選手が選ばれました。柳田村は、周囲を海に囲まれた能登半島にあって、唯一海岸に面しない人口5,500人の純農山村で、奥能登の中央部に位置します。アーチェリー競技は、海に見える植物公園多目的広場で行われました。「柳田村から国体選手を…」あれから6年が経ち様々な苦難を乗り越え、選手・監督・コーチ・競技役員そして村民の皆が一丸となって闘った試合でした。



「第46回国民体育大会石川国体」 会場柳田村植物公園

この年を節目とし、本校アーチェリー部は県内では常勝チームとなり、全国大会へ出場する顔ぶれの仲間入りを果たすようになりました。

8年目……（平成5年）この年の栃木インターハイでは、団体戦で男女ともに決勝ラウンドへ進出。そして女子団体は運良く勝ち進み決勝へ、対戦相手の大分東明高校の争いで206対206の同点。息詰まる中シュートオフが行われたが、結局今一步相手に及ばず2位でした。しかし、一番「全国制覇」に近づいた瞬間でした。

10年目……（平成7年）本校アーチェリー部を全国へ導き、技術・精神面はもちろんのこと生活面でも多くのことをアドバイスして下さいました山首一恵先生が、この年度末の異動で離任し、金沢向陽高校へ赴任されました。

11年目……（平成8年）国体から5年、私は大学生活（日本体育大学）を終え、本年度からこの部をみさせていただくようになりました。これまでの伝統を引き継ぎながら、新しい歴史を刻んでいこうと思います。

12年目……（平成9年）顧問3名で率いる農校アーチェリー部は、3年生2名、2年生3名、1年生6名、という少人数ですが皆が全国を目指して頑張っています。シングルの射てる射場と、トレーニング機器の充実、そして卒業生の残してくれた数々の実績など、アーチェリー環境としては素晴らしいものがあります。しかし、これらを活かすには個々の気持ちの持ち方が一番大事だと考えます。アーチェリーが好き、楽しいという気持ちをいつまでも忘れず夢に向かって「努力」することではないでしょうか。指導者としてこの気持ちを大切に育てていきたいです。

全国の諸先生方、これからもご指導のほど宜しくお願いします。

〔学 校 紹 介〕

自 主 自 立 の 校 風

静岡県浜松北高等学校 アーチェリー部

顧問 井島秀樹 鈴木英夫

1. 学校紹介

本校は明治27年に創立され、平成6年には百周年記念式典が行われました。普通科9クラスに加え、平成3年度には国際科1クラスが新設され、自主自立を校風とし、個性豊かな生徒の育成の場となっています。何事にも積極的な生徒が多く、特に、学校祭および運動会の二大行事は生徒の手によって盛大に行われ、本校の名物となっています。また、クラブ活動も盛んで、平成9年度のインターハイには、アーチェリー部の男女団体（8名）を始め、水泳（9名）、山岳（8名）、陸上（2名）、卓球（2名）の総勢29名が出場しました。

本校アーチェリー部の一番の特徴は、生徒が自主的に運営しているという点です。練習メニューを始め、規律等も顧問が決める訳ではありません。2年前に赴任してきた私にとって、放っておいても黙々と練習する生徒達の姿は、まず驚きでした。また、技術面は池谷コーチがいてくださるので、結局、私の仕事は、生徒達の活動を裏方としてサポートすることなのだと、気付かされました。

(1) アーチェリーの歴史◇高校アーチェリーはここから始まった◇

本校アーチェリー部の歴史は現在40年を数えます。実に第1回選手権大会が開催された昭和43年の10年も前のことです。その設立は、川上浩氏（ヤマハ元社長）が入学した昭和32年にさかのぼります。当時社長だった川上源一氏（ヤマハ最高顧問）が普及を目的として、全国の高校で初めて本校に洋弓場を作ったそうです。その当時は、ヤマハが弓を試作し、それを使つての練習でした。その3年後には正式なクラブとなり、本校アーチェリー部が誕生したのです。

(2) 主な成績

◇インターハイ（選手権）◎男子団体10年◎女子団体2年 連続出場

◎女子団体優勝（昭和47年）◎男子団体3位、個人2位（平成3年）

◎女子団体5位（平成8年）

◇世界ジュニア大会出場（平成3年）



インターハイ（平成9年、京都府）

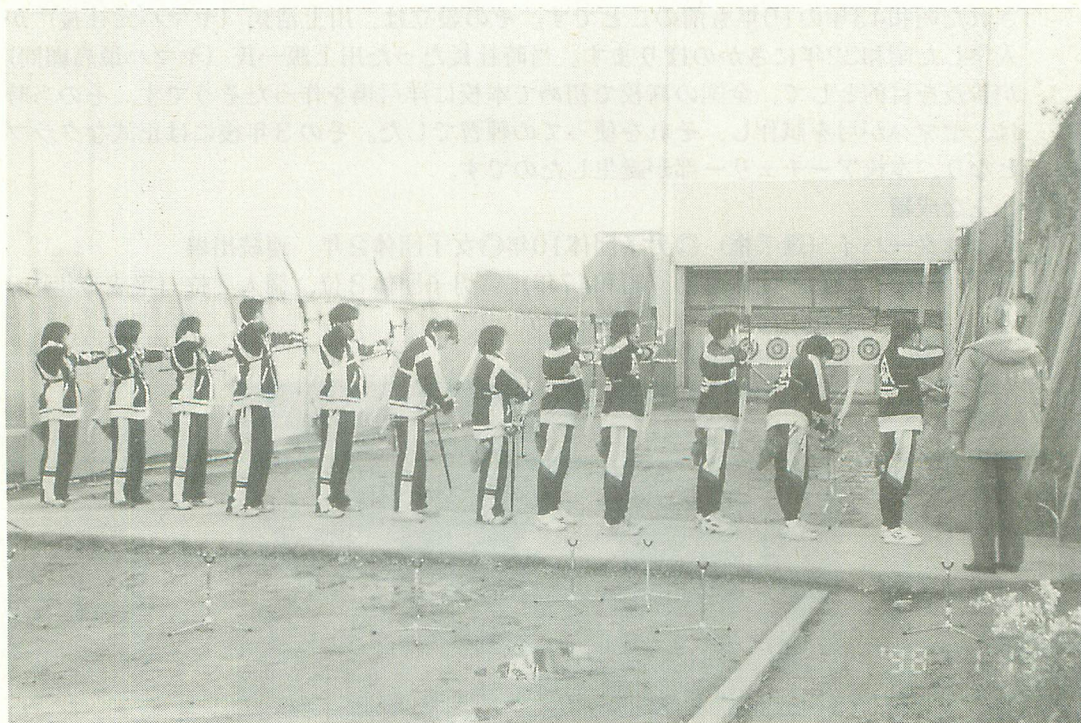
2. クラブに寄せる思い

(1) 私と子供たち コーチ 池谷孝一（全ア連競技委員）

私と子供たちが出会ったのは、昭和52年夏～54年に実施した、県西部の高校への巡回指導が始まりである。勉強中心の子供たちに何から実施すれば良いのか？スポーツとは何か？アーチェリー発祥の地であり、全国に先駆けてアーチェリー部ができたのだから、何とかしたいという気持ちが大きかった。やがて、試行錯誤する中で、子供たちにあったトレーニングを少しずつ見つけることができ、子供たちにも変化が見られ、昭和60年のインターハイに男子1名が出場することができた。そして、当時の学校長より、「進学校といえども文武両立をはかり、アーチェリーを通じて心身ともに健全な人間を育てて欲しい」との要請があり、コーチとして面倒を見ることになった。

一年生は4～6月の2ヶ月間は、ランニング・腹筋・背筋・懸垂・腕立て・側筋等のウエイトトレーニングを中心に行い、6～8月は射型作りと近射（近射をしながら射つリズムを確認し、メンタル面の指導も行う。）8月の合宿では距離を練習し、二年生も一年生と一緒に基本の復習を行う。8月後半より試合を想定した実践的練習の繰り返しを実施する。また、全員を四つの班に分けてあるため、月に一度は班別対抗戦を行って競争心をつくり、年間を通して練習後に30分のトレーニングを続けている。

最後に、子供たちは両親・先生・友達にも言えないことを私に持ってくる。なかには、涙を流して相談に来る生徒もあり、結果的には両親たちとのコミュニケーションもはかれ、私にとっては大変うれしく、活動しやすい。また、生き甲斐にもなっているので、私の体の続く限り、子供たちと一緒に活動し、優勝の喜びを一人でも多くの子供たちに味わわせてあげたいと思っている。



射場での練習風景 その1

(2) 洋弓部の思い出 OB 鈴木学（静岡県立三ヶ日高校アーチェリー部顧問）

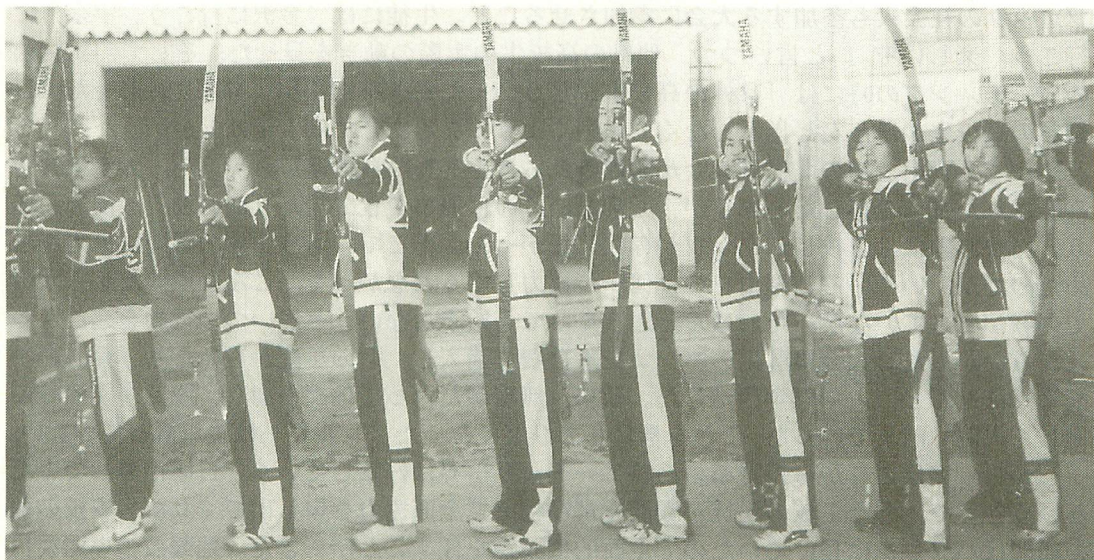
長距離を射つ。放物線を描いて10金のなかに吸い込まれていく。一番気持ちの良い瞬間だ。最近こんな経験は少ない。いや高校時代でも少なかった。アーチェリー部を知ったのは合格発表の会場。弓を引いていた先輩がかっこよかった。心を決めて入部。待っていたのは鉄棒と腕立てとランニング。毎日何時間も鉄棒にぶら下がっていた。周りには体操部の新入部員だと思われていた。初めて買った道具は弓でもタブでもなく、鉄棒用のグローブと炭酸マグネシウム。体育館に向かう通路の手すりに足を乗せて腕立てをした。30分は足を乗せたままで休みがなかった。浜松城や佐鳴湖を回るランニングも記憶に残っている。やっと矢を射ち始めたのは夏休みに入った頃。16年も前のことで現在では校舎もた建て替えられ、洋弓場も別の場所に移ってしまった。いまでも同じトレーニングだろうかと思う。

(3) 恵まれた環境の中で 平成10年卒業 田中千香子

入部から2年半、私は国体に出場した。IHとは違う雰囲気や成年のレベルの高さに驚き、その中で私も射てることがうれしかった。ここまで、もちろん自分で努力をしたが、洋弓部に入ってあの先輩達といまの仲間が一緒になかったら、がんばれなかったに違いない。厳しい体力作りもあったけれど、矢場はいつでも楽しく、多くの事を先輩から教わった。恵まれた環境の中でアーチェリーをしてこられたのだと今感じている。そして、この良さが今後も伝えられると良いと思う。

(4) インハイで活躍を 部長 青島拓也

僕たち浜松北高洋弓部は、井島先生・鈴木先生そして池谷コーチのご指導のもと、男女そろってインターハイ出場、上位入賞を目指して、毎日練習をしています。簡単に達成できるような目標ではないけれど、今までの先輩方が積み上げてきてくれた素晴らしい伝統を汚さないように、先生方のご指導を素直に受け止め、けがにも十分注意しながらこれからもがんばっていききたいと思います。



射場での練習風景 その2

ゼロからのスタート。そして、出会い

(顧問から見た長野県の高校アーチェリー)

山 上 達 夫

ライバルが全くないということは成長が全くないといっても過言ではない。長野県においてまがりなりにも大会が成立するようになったのは本校に負うところが大きい。かつて長野県高校アーチェリー界が全くといってよいほど成長しなかったのはライバルとなる高校が存在しなかったからだ。本校がライバルとして出現し、やがて駒ヶ根工業、上田西が参入するようになった現在ようやく大会らしくなってきた。だが、本校とて順風満帆であったわけではない。常に廃部という話が出されるクラブだった。

創部当時、1カ月に1回という県内の大会に参加すると声を哽れクタクタになった。選手ではなく顧問である私がだ。長野県アーチェリー協会とて多人数ではないし、大会が開催できるほどの専用射場がないから、競技日は陸上競技場での射場設営からスタートする。ところが、ボーッと立っているだけで射場設営も手伝えない。中にはおしゃべりに夢中になっている者もいた。どうも社会人がお膳立てしてくれるものと勘違いしているようだ。注意すると「あの高校だって何もしていない」との返事。したがって他の高校の生徒も交え、こうした大会というものは高校生が率先して動くものだという説教から始まり、一日中大声をあげていなくてはならぬ始末。現在は4校になったが、当時県内には本校を含め2校しかアーチェリー部がなかった。本校が創部されるまで部員でありさえすれば全国に行けたから、本校の実力が上がっていくとやめていく者が続出した。また、本校より7年も前に創部されていながら、大会の参加マナー等が全く躰けられていない学校だった。自校の指導と他校の指導を同時にしなくてはならないことから、まずは、リーダーとなる高校を作らねばならないということを認識せざるをえなかった。そこで考えたのが、北信越ブロックの社会人も参加する大会に参加させること。生徒には「金沢に行こう。宇奈月に行こう。楽しいぞ。」と言いつつ、他県の高校生の実際の動きを見せた。そして、試合前のミーティングの時には「県外の高校生がどういった動きをするか」を話し合わせた。長野県の高校生がほとんど指示しなくても動くようになるまでには1年以上かかった。

やがて長野県で初の北信越大会が開催される旨を長野県高体連から受けた。大会運営を経験された方はご存じだと思うが、大会というのは無事できて当たり前の世界。前述の通り、当時県内には2校しかクラブが存在しなかった。そこで、もう1校の顧問に協力を求めたのだが、いろいろと理由をつけ何一つ協力してくれなかった。こんな顧問だから大会での躰ができていなかったわけだと思ってみても始まらない、と思いつつ行動を起こさねばならなかった。大会集計用のパソコンも自費で購入し、宿の手配から始まり、弁当の手配等々ほとんど一人で東奔西走した。結果、無理がたたって体調を崩し、脱毛・胃痛等が激しく入院寸前までいった。これを機にしてひどくなったアレルギーはまだ直っていない。

しかし、実はここから長野県の高校アーチェリー界は好転していく。日頃指導していたということで、もう1校の生徒が顧問を飛び越えて全面協力を申し出てくれた。本校の他の顧問はパソコンに長けていたので全面的に記録を任すことができた。他競技の専門委員長数名が知己であったためにノウハウを聞くことができた。さらにラッキーだったのは、

北信越に頼れる先生方がいたこと。特に石川国体を成功させた中村先生と富山県インターハイの責任者の浦田先生の存在。浦田先生にはインターハイ直前のお忙しい中、大会運営のノウハウをお聞きすることができた。何度も何度もいやになるほど電話をかけても、両先生は他県のド素人専門委員長に対して、気軽に、かつ、簡単明瞭に解説してくださり、あまつさえ、資料も送付していただき、両先生の度量の大きさに感動したことを覚えている。そして、大会は無事終了。振り返ってみれば、今日までなんとかやってこれたのは両先生を初めとする北信越の先生方になにに出会えたこと。人に恵まれたということが大きいし、なによりもうれしい。おまけとして、今まで創部の声をかけていた高校から長野県高体連の加盟の話も舞い込んだ。私自身も審判として全国大会に参加するなどして数多くの熱意あるすばらしい人々と出会い、アーチェリーのおもしろさ、楽しさを吸収していった。

不思議なもので顧問が成長していくと本校の生徒も成長していった。とにかく練習に励むようになり、県内のリーダーとして育っていった。まだまだ県内には無責任かついいかげんな顧問は何人かいるものの高校間で生徒が情報交換を頻繁するようになった。北信越大会・インターハイなどの大きな大会に出場すると他県の生徒とも親しくなり、卒業後も親交が続くという人間関係の幅も広がっていった。

本校の練習場所は体育館横の狭いスペースしかない。また、長距離練習が1人しかできない小さな市営のアーチェリー練習場へ行くのも自転車で片道二十分以上かかる。だから、練習も工夫せざるをえないが生徒はこの障害を楽しむようになった。大きな大会に出場した選手が興奮覚めやらぬままにその様子を後輩に語ってくれるからだ。遠い世界の話ではなく、手の届く所の話として聞くようになったのだ。伝統を作るという意気込みも出てきた。やがて私は転勤するだろうが、誰が顧問になろうとも生徒はしっかりと伝統を守っていくだろう。そんな伝統を彼らは築き始めている。

今後、私の仕事は彼らのライバル作りだ。私は他校へ転勤してクラブを作り、彼らを苦しめねばならぬ。冒頭の通りライバルなきところに成長はないからだ。

「トップを継続していくための秘訣は何か」

松下 和幹



時間をたっぷりいただきまして非常にうれしいかなと、こう思っております。今、ランキング表なんて初めて見まして、こういうのが出来ていたんだなあとか今更私感心してですねえ、あー素晴らしいなあ。そのランキング表を見たんですけども、レベルというのはあまり上がっていないんですよ。

ただ、私もいつもいろんな所で話さしてもらっているんですけども、例えば、アーチェリーっていうのはたいてい高校から始まって、あと大学に引き継ぐ、またそこで終わってしまうケースが多いんですけども、その中で、毎年インターハイで活躍する高校があったり、それから、国体で何度も、よく見ると「あー、あそここの高校出身の子だったのか」というケースが多いんですよ。

平均身長だとか、平均体重だとか言っても、全国的に言って発表されますよね。全国でそんなに差はないけども、多様な子が増えてきています。地域によってもそんなに差はないと思うんですよ。

じゃあなぜ毎年同じ高校が強いのか。当然その国体関係もしくは県の強化体制っていうのが、個々によって違いますから、出る費用とかね、かなり違ってくると思います。熱の入れ方っていういいですかね。なぜなんだろう、ただ金だけの問題なのか、熱意だけの問題なのか。僕きこいですね、高校生の本来の要素っていうんですか、そんなに差はないように思います。また、個体によっても千差万別があると思うんだけど、だけど、毎年強くなる所ってのはやっぱりそれだけの理由があるんですよ。それは、強くなってきた先輩たちを見て育つのもあるだろうし、顧問の先生のその活躍、また、その努力はですね、非常に高いものがあるんじゃないか、思ってます。

その熱意によってはですね、また学校も動くだろうし、また、一度勝つ、二度勝つことによって、どんどん待遇が良くなっていく場合ってのが非常に多いと思うんです。例えば、国体で勝つことによって、お金がつく、で、そのために合宿もできる。だからまた強くなる。そういったローテーションっていうのはいい方向にいい方向にですね動いていく場合はですね、どんどんどんどん強くなっちゃう。ま、そうゆう事が大きいんじゃないかなと思います。ですから、その熱意をもっていけばですね、どんどんどんどんいい方向に向いて行くんじゃないかな、こう思ってます。その、顧問の先生が占める割合っていうのがですね、非常に私から見て高いもんだなあと思っております。ですから今後もですね、引き続いて継続していただいてですね、どんどんどんどんレベルを上げてもらいたいなと思っております。そのために、私どもがなんか協力できる事があればですね、いつでも協力させていただこうというように思って、今回もこうやって来ているわけです。こういう会でね、話し合っていていただいて、本来、どんどんどんどんこの横のつながり、またレベルを一つにして上げていくってのは大事じゃないかなと思っております。

きのう、先生方2名お話しされたということですが、強い学校のいろんな練習方法だとか、そういうのをですね取り入れても、ここで披露して、皆さんが、あーこんな事もやってんだという事をね、勉強するのもいいんじゃないかなというふうに今日は思いました。実際に皆さんが努力してやってる事ってゆうのをお話ししてもいいんじゃないかなって気がしたんですけど、ちょっとそういうのを考えました。

最近特にですけどね、韓国にべつたりの人がいるんだけど。20年前ですが、キャンベラの世界選手権とその前はですね、私は参加してなかったんですけど、ここで日本が団体銀メダルをとった。キャンベラの時は、個人の2位になって、我々が入って3位に団体も取れた。

その頃って言うのはもう、アメリカだったのね。アメリカのことしか頭になかった。常にアメリカのペースとマッキーニ、たしかに、ペースとマッキーニは強かったし、今の韓国とはその違った強さがありました。今はもちろん、確かに韓国は強いですから、韓国一色になるのはわかるんですが、非常に寂しい感じがしましたね。

韓国っていうのは確かに女子はベルリンの大会でキム・ジムホーが優勝しまして、それまでなりが潜めてたというか、何ら強さもなんもなかった。男子の方も北海道でやったアジア・オセアニアってゆうのがあって、ここで私も練習不足の状態で行ってね、山本が勝つだろうと思って、その2番手くらいだろうとおもって参加したところが、韓国が3人突っ走りましてね。その1名に、その3番手にくい込むのがやってで、非常に恥かいたのをおぼえて、その次からのアジア・オセアニア大会では、2回続けて勝ったんですけども、そのように、気合いさえ入れれば勝てた。

その後も、ソウルのオリンピックってね、大きなきっかけになって、それまで一応日本がリーダーシップを取ってた。最近やった人は別にしても、私にとってみれば、韓国ってのは最近強くなってきた。

その背景ってのはいろいろあるんですけど、みんなはその指導方法だとか言ってるんですけど、たしかにそれもあります、プロなんですよ。それで飯食ってるんです。それをくいっぱぐれるとですね、もう職業を失うわけですよ。自分が強くなくっても、選手がいい成績を出したためにいい評価を得ているわけです。コーチとしてね。それだけまあ、非常に恵まれているわけですけども、そういったプロが一生懸命やってますから、100%をアーチェリーにつぎ込んでいるんですね。賭けているんですね。そういうふうな背景が韓国の強さである。

もちろん、個体の差もあります。日本人の女の子なんか見るとですね、やっぱり、胸が前にこっぴり出ちゃって引く、要するに背中だけでしか引けない。ある先生が弓の筋肉を付けるのに、弓を引かせれば一番付くんじゃないかってたけど、大間違いで、弓だけの筋肉ってのはそんなに付かないんですね。それより、それを支える周りの筋肉をしっかり鍛えておかないと、要するに、続かないんです。

だから、韓国の個体の差っていうのはどこにあるかっていうと筋力、筋力。まあ、筋力も体力も入りますけど、そういったのが、全然違うんですね。

今の高校生なんかを特に比べると、その、おそらく、なんかでデータ見れば出ると思うんですけどね。筋力の差、これはなぜ違ってくるかというと、大きいのはですね、育った環境の差っていうのも非常に大きいんです。要するに、足腰ってんですか、しっかりしている。そういう違いがやっぱり韓国を強くしているに違いないってゆうのがあわけです。そういった個体の筋力の差ってのは、非常に大きいし、指導の仕方を統制されている。ま、それもあるんでしょう。だけど、一番大きいのは、さっき、一番最初に言ったその、プロ

ってというのはですね、非常に大きい。だから、必死なんです。

今、だいたいスポーツってのは皆、それで飯食おうと考えてるんですよ。それから考えると、アーチェリーってのは飯食えないですから、非常に弱いもんなんですけども、人生ってのはそれだけのもんじゃないと思ってるんで。かつて、高校時代に弓やって、大学入って、それから今学校の教員になって、で、顧問になってきてる先生いっぱいいるんですよ。そういうのを見るとですね、非常にアーチェリーっていうのは職業としてじゃなくて職業を選んでいく中でも、非常に役に立っているんじゃないかなと思ってます。それはまあ、日本では今言ったように、先生方、また、私のような立場くらいなんですよ。あとは、全く職業に還元されない。また、やっていくのが精一杯。そういうふうな世界ですから非常に厳しいことは間違いない。ただどれくらいはそうやってかつて高校、まあ、昔僕らが合宿に指導に行って、その指導された子が大学に行って、その大学を経て教員になって、顧問になってる先生なんかを見ると非常にうれしいんですよ。そういった喜びもあるんじゃないかなと私は思ってます。

話は戻りますけども、その今、韓国ってものを非常にその指導方法、また、そういったものをその重んじている人がいるんですよ。要するに、昔のかつての日本がアメリカ、アメリカって言うておったのと非常によく似ている。こんどは、イタリアが強くなったり、よそが強くなったら、またその話をするのかってことになるんです。そういう事じゃない。もっとやっぱり確たるものっていうものを日本人のは持たなきゃいけないんじゃないか。ただ、日本の場合は、あんまり横の連携が取れないっていうのが多いですね。だから、ちょっと立ち遅れたんじゃないかな。こう思ってます。

立ち遅れた原因の中でも、私たちが低迷したっていうんですか、成績の上では低迷しているわけです。そういったものももちろん原因はある。その原因はじゃあ何なのか。で、若手が育ってこないっていうんですけども、それはほんとの個体の問題が大きいと思うんですよ。システムの問題じゃなくて。もちろんその全ア連が推奨してるそのジュニアの育成とかっていうことになってくると、ほんとに育成してるのかっちゅうとそうは見えない。そうは見えないですね。なぜかっていうと、ジュニアの世界選手権の選考会やって、アメリカへ連れてって、ある人なんかに言わせると、楽しいアーチェリーをやらして来た。あほっちゅうて。そんなの楽しいアーチェリーって、勝ってこそ楽しいけど。負けて帰って来て楽しいアーチェリーったないんだ、面白くてやるんじゃないんだ。ま、私はそうなんですけど、面白くてやってるんじゃない、好きでやってるんだ。面白いんだったらつりの方が面白いし、テニスの方が面白いし、というふうになるだろうけども、面白いからじゃない、好きでやっている。だから、ここまで続いている。けども、面白くなかったら、面白くなかった所で途切れちゃうんですけども、好きなら、嫌いになるまで続けられる。こう思っております。

話はそれましたけども、そういったおもしろ半分、楽しさ半分で推奨するような指導方法だったんで、今までは、高校生も、ある所から越えられなかったんじゃないかな、そういうふうな気になっています。

やっぱり、日本っていうのはもっとその立ち帰えんなきゃいけないんじゃないかな。それはどういう事かっていうと、日本には古来、弓道ってのがあって、どこの国にも弓があるんですよ。大きく分けると2種類の、なんて言いますかね、日本のように中から掛けるタイプと、外から掛けるアーチェリータイプ。これ2つに分かれているんですけども、日本が弓道になぜ中から掛けたのかっていうと、非常に合理的なんですよ。まず、アーム

ガードも、チェストガードもいらない。まんざら、胴着っていうんですか。あの袴ですね。上をこう、もろ肌脱いでやれるそういう世界ですから、非常にその手軽っていうんですか、準備がいらないんですね。日本人ってのは非常にサル腕多いんですけども、サル腕で腕を打って悩む必要ないんです。そういった合理的な所ってたくさんあるんです。

指導方法もですね、面白いんですね。日本弓道連盟ってのがあって日本弓道はこれしか認めないというそのワザというか引き方があって。射ち方とか、紋付きですか、あれを脱ぐ脱ぎ方とかすべて決まっているんですね。それをビデオに収められている。それを見て勉強しないとといけないということなんですけども、そこまで一応確立されているんです。

ところが、アーチェリーなんてのは確立されてるかったら、確立されてないですよ。人が前に行ってる時に射っちゃいけないとか、むやみやたらに的以外の所に向けちゃいけないとかって、そういうルールはあるんですけども、引くのはですね、こんな所で矢をつがえてですね、こんな所から引き分けてみたり、こんな所で引き分けてみたりですね、千差万別なんですね。

皆さんもこの指導の中で、そういうふうなところに気をつけているかどうかわかんないですけども、例えば、スタンスにしてもそうだし、軒並み、高校生見ると、ストレートスタンスもあるし、無意味なオープンスタンスをとってみたりとかね、いろいろあるわけです。日本弓道のスタンスもそうですけども、あれまっすぐでいいんじゃないですね、ストレートに立ちなさいというのが基本のスタンス。

僕はよく、指導ではスタンスに基本なんてないんだと、私は言ってるんですけど、弓道はあるんです。それから引き分け方もですね。アーチェリーのように、好きに引いたら段をもらえない。そういうふうなんですね。すべて決まりの中に入ってるんです。それがいいか悪いかってのは別にしてですね、一応決まりの中でみんな同じ引き方をする。その引き方をしないと昇段しない、認めてくれない。

ところが、アーチェリーは当たればいいという世界なんです。だけど、私が思うのは、ほんとそれでいいのかと、いまよく疑問に思う事がある。それはバラバラな引き方をしているからバラバラなあたり方をする。また、みんな個々に体があって、要するに良くなったり悪くなったりするんじゃないかな、悩んじゃうんじゃないかな。もっと確立したものをですね、しっかりしたものを持っていればですね、大きな差ってのは出てこないんじゃないかな、ゆうふうに思っております。

ですからもちろん、その個体のその能力の差、要するに一般的に言われる素質ですね、そういうなものはあるにしてもね、もっとある程度の得点は射てるんじゃないかなと。

その射てない原因っていうのはその指導の中で、あまり基本っていうものをとらえていない、重んじてない。だからみんなバラバラである。アンカーに入る入り方が違う。もちろんそのサイドアンカーだの、センターだのっていうこれはもう、体型の中で変えていけばいいことだ。

あの、最近ちょっと弓道やったりして、やっぱり、学ぶっていうことになると、研究する価値があるのはやっぱり弓道かなって。私もなんか、人間の人生の逆を行くのがなんか好きなのかなんかわからないですけども、最近、ちょっとね、研究してるんです。そういう研究すればするほどですね、その違いがわかって面白いんですね。決して弓道の方が100%だとは私は思っていない。だけど、指導の中で、もうちょっとその日本弓道も入れた方がいい。

弓道ってのはその当てることより、そこまでの過程、またそういう儀式ですね。言い換えれば、それを非常に重んじてる。だから、最初のヨーロッパの人間も、弓道に目を向け

て研究してるちゅうのはそこを研究してるのであって、当てるのを研究してないんですね。

当てるのはアーチェリーの方が当たるんですよ。私も30m射ってみて、弓道で、もうほんとに、当たなくてですね、ショック受けたですね、何であんなに大きな的に当たらないのかと、いうようにショックを受けた1人なんですけども、だけど、やってるうちに、真ん中にはいるようになってちやっただす。、ただ、弓道の方が非常に強い弓を引くんですね。引けるだけだったら何キロ位引けると思いますか。(20キロ位)。いえ、それは僕らの弓で22.5キロ位あるんですから、あの、弓道なんてね、22キロだのってゆう世界は強い方にならないんです。これは、70歳の老人とかね、22キロ引いてるんだつつて、びっくりしたんですけども、あの、強い弓って言われるやつで、30キロ越えるんだって、30キロ。今まで一番強い弓を作ったこと事のある人ってのは、70キロを作ったんです。

それにくらべて、アーチェリーってのはちょっと自由すぎるんじゃないかなっていうのが、私はそれを言いたいんです。自由すぎる。だから、自由奔放な所に当たっていくんじゃないかな、もっともっとやはり、つき進めなきゃいけない。

まあ、これから、本題に入っていくんですけどね。例えばあの、私もそうなんですけども、今までこんだけ長い間やってきた中の、じゃあなぜ続いたのかっていう、本当のところですね、あの、山本もそうなんですけども、あれももともとカッコいい射ち方してなかったんですね。押し手の肩は最近までこんなに詰まってるし、筋掛けもしていた。これ、世界記録射つその前の年から、筋掛けをやめたんです。去年くらいからかな、うん、一昨年からかな、ね、肩まっすぐになった。あれをもっと10年はやく肩を落としてたらな、と俺は思ってたけども、まっ、本人の自由ですから、それは構わないですけども、その成績とかどうにこうのっていうのは別にしてね、進化している。進化。

私なんかも、これがいいなって思ってたのが、例えば、ねらい方を上からもってきたやつをまっすぐ持ってきたりとかね。リリースをやっぱり速く、もっとまっすぐ切りたいな、練習のリリースはいいです。で、試合になっちゃうと、もう違うんですね。

いずれにしても進化をしている。だから、人間でいうとそら、例えば、3回変えたら3人がやってると同じ事なんです。3人がこうやって続いていると同じ事、だから長続きをする。要するに、長続きするっていうのは、飽きないってのも一つですよ。弓射ってても飽きないって。

僕もね、機械作業なんかでね、昔、応援に行って2000個のネジ、1日ですよ。2000個のネジをしめる。そういうの大嫌いなんです。同じ事をするのが、飽きちゃって。それより、1個の品物を変った品物を作っていくとかなんかするのは好きなんですけども。こう10個もですね同じ事をするんですよ、嫌になるんです。

そういう性格なんだけど、弓で毎日同じ事をしようと努力してるんですけど、これまた皮肉なもんですけど。だけどそれをもう24年になるんですけども、毎日同じ事をしよう、したい、しなけりゃいけないと思って、射つときは必ずそう思ってやって来ているんです。それはもう、皆さんの24年間とは違いますよ、ほんとに長いことですから、射ってるその本数は、おそらく負けないですね。これは自信もって言えます。昔からその、何冊もスコア付けたのがね、たまってますよね。箱に入り、段ボール箱の中にいっぱいはいってます。毎日毎日付けますからね。それを読んだだけでこう、だいたいどれくらい射ったかってのが、だいたいわかる。それプラスですからね。ま、それ位ですね、射ってきました。それを射ってくる中でやっぱりね、どんどんその、進化さそうとする。

要するに、基本にはまっすぐ押そう、まっすぐ引き抜こうっていう努力をどんどんはた

らいている。だから、上から持ってきて引くよりも、まっすぐそのまま来て、そのまあ、射っちゃった方が、合理的だな、より合理的なことを考えてやってきている。

だから、山本なんかもそうだけでも、筋掛けだったのをやめて、世界記録も出た。それから、押し手がこんなになってね、一時どんどんきつくなって来たんだね。あの若い時から知ってますけどね、どんどんもう、短くなって、それがいきなりまたこう落ちて、彼も彼なりにより高いものを目指そうと思ってやってきている。

それは、なぜそうなのかって言うよね、限界っていうのがあるんです。射ち方によって限界、それをみんな気づいていないんですね。僕も学生を見ててね、自衛隊来る学生なんか見てて、その、射ち方を変えて努力しようとしないうです。もう1ヶ月・2ヶ月毎日毎日練習してね、上がらなかつたらね、その射ち方は上がらないんです。

どういう事かって言うと、その人の射ち方、その個人の個体の射ち方で射ってても、1ヶ月くらいは、普通ね、高校生でやり始めの子はどんどんどんどん伸びます。それは伸びるんだけど、もう、2ヶ月も3ヶ月もその、毎日のようにたくさん練習して上がらないとね、上がらないですね。その射ち方では変えないといけない。どこを変えるかっていうのは、その人の悪いところを直していく、いいところを強くする。

まあ、直接関連形ってのがあって、もちろん、いい所、あの、伸ばすってのは、これはもう当たり前なんですけども、それだけじゃやっぱり限界があるんですね。

だから、彼らもあの、僕でもそうだし、山本もそうだけど、弱い所をなおしていく。リリースが悪いんだったら、リリースをなおさなきゃいけない。押し手が悪かったら、押し手をなおさなきゃいけない。なおさないと点数は出ていきません。

ところがみんな勘違いしていて、練習していくと出ると思うんですよ。みんなそう思っているんです。だけどそれは、まだやりかけの時は延びます。やりかけの時はね。その変な射ち方でも、ほっといてでもね、伸びるやつは伸びるんです。ある程度までは。それ以上伸びようと思うと、悪い所を要するに直す。

クリッカーがね、長い。僕なんかもね、何年からかね、もう、ほんとに切れないことが増えてきたんでね、それを直さない限りはね、勝てないんですよ。わかってんです。直そうとして、練習したら、練習でポコポコ切れるんですね。またこれが、練習で切れないきやもう、すぐな直るんだけど、練習で、試合でも、もう直ったかと思うくらい切れるんだけど、また、ポツンと切れなくなるとかってのがあるんですね。非常に直し難いです。

俺にしても、山本にしても、まだ現役でいるわけです。まあ他に能力がないっていう私の場合はね、それが大きな原因もあるんですけども、弓しか取り柄がないっていうのがあるんですけども、だけど、続くか続かないかの問題だからね。それは何かって言うと、やっぱりより基本に近づこう、より合理的に、やろう、要するに悪いところを太くしようとしているから、出来なくても、いずれは行き着くだろうという気持ちを持ってやってるから、やってるんです。今でもそうやって、より完全なリリースをしようとか思って練習してるんです。

今年からね、ちょっと射ち方ね、進化させてるんです。で、今練習非常に少ないんですけど、「これもうちょっと早く気付いてたらな」と思うことがあるくらいに目新しい発見っていうのはあるんです。24年間もやってても、よりちゃんと射とうとかね、より確実なものをつという事を考えてるから、まだ今でも進化しようとしているんです。点数はどうかかわかんないですけどね。努力はしている。だけど、今のその高校生たちが、何を考えるかって言うと、努力してないだよ。ただ、射ってることは射ってる。射ってる時にはただ、当てたいとかさ、勝ちたいとかって、それ位の事しか考えてないんじゃないかな。ほんと

に自分の弱い所直そうとかさ、いう意識があるかどうか。そういうのがない連中はその時にパッとその、感覚で当たるんだけど、その感覚が消えるとまずい。その経過が多いんですね。若い子がね今まで何人もチャレンジしてきたと、全日本もね時にはポツン、ポツン、とこう勝ったりしてるんですけど、なぜ続かないのかっていうとね、進化しようという努力しないからです。

それはね、今日のメインですね。福岡の西川選手、あれなんか見てもね、高校の時に僕ら指導しに行ったときにはね、すごくいい射ち方してた。こいつは上手くなるなどと思った。もう直す所無いからね。君は感触を確かめていけって話をしたんだけど、それはよかった。だけど、大学入っちゃってねもう無茶苦茶になったんですね。押し手を振るようになってね。それでも大学入って、成績はそれなりに残してんだよ。あれがもっと我々のような意識をもって、その、射ち方を高めようっていうほんとに気があったら、僕らの次の世代を担えた。もっと早く、もっといい成果をおさめられてた。これからおさめるかもしれないけどね。それは、射ち方がやっぱり見たとおりね、もう押し手を振りだした。そういうその基本からどんどん離れだした。その僕らが見てると、もう待ってるだけでいいんですよ。待ってるだけで。落ちて行くから。もう目に見えてる。そういう世代なんです。

だから、高校生でもそう言ったけども、ほんとに昔のね、女の子なんてのはね、全日本かなんかでかな、昔の女の子ってのはほんとにきれいな射ち方してた。その頃の女子ってのはまあ、強かったですよね。まあ、関西勢が元気だったですけどね、その頃はね、また今、関西が元気出たね。だけど、そういったその、射ち方がね非常に良かった。

最近はどうかって言うとな、ここんとこまでね非常にひどいんですよ。あの、大内選手なんか見ても、ポンと手を振っちゃったりね、早射ちの時はいいんですけども、ちょっと遅いとポツとその押し手が違う。要するに、あまりいい射ち方をしていない。要するに、基本に近づこうとしていないんだ。だから、いい所は来るけども、それは、感覚で来てるんですね。感覚で。感覚はそこまで上がるんですよ。一旦。それが言ったその最初の頃は上がるってのはそこなんです。感覚から出ていくと、その感覚が無くなった時ゼロですから。でも、基本ってのはですね、僕はなっているかどうかは別にして、持ってるんですね。希望なんです。常にそれを希望を抱いている。だから、そんな大きいスランプはない。どんなに悪くてもっていう世界がありますよね。

感覚ってのはね、一旦砂漠に落としたらですね、もう、針を探すようなもんだっていう本当にそんなもんですね。1回無くしたものはね出て来ないです。これまた出て来ないのに探すんですね。ちょっと見つけたような気になるんですよ。あっこれ戻ったって言うけど、嘘です。戻らないです。また新たに作る。また、そういう事して行かないとね。だから、そういう感覚はどうやって生まれて来たのかっていう所から立ち入る。考え直していかないと、元に戻ってこないわけです。

だから、私が言うのは、その基本って言うのに近づきなさいよ。まあ、十字射型っていうのももちろんこれは基本だろうし、それはいいんですけども、より真っ直ぐ押せて真っ直ぐ引き抜くってことをやらないとね、だから、その形が崩れたらダメ。そういう形をちゃんと重んじてるときは当たってたんだ。で、その基本的な形っていうのをいかに大事かっていうことですね。そういうのを守っていくと、スランプも少ない、どんどん進化し続けられる。要するに、悪い所、どんどんその細い所を太くして、太くなってしまった時にまた、太くしていく、そういうふうなですね。

要するに、より完全な形になったときに、より感性を持ってやっていく事が大事、形だけ

じゃもちろんだめですよ。形だけじゃやっぱり、感覚っていうのがある。その感覚をどんどん上げていく。また、その、それに付随した集中力とか、そういったのももちろん必要です。

僕らがじゃあ最終的にどんな壁に当たるかって言うとね、やっぱりね、心の所でなる。要するに、メンタルコントロールでつまづくって言うか、壁に当たるんです。練習での射ち方なんてもう、自分でももう90何%出来たかと、形ではね。これ以上のもの形はないだろう、自分ではね。これ、生まれ変われば別かもしれないですけども、まあ、自分ではそう思ってる。その当時その当たってた昔のペイスだとかマッキー二だのとか、今の韓国の上位何名かのっていうやつにも、俺の方が絶対今いいと思って練習を、まあ、練習ですけどね。それがなぜじゃ、転用できないのか、部分的には転用できなかったんです。それはなぜかって、やっぱり心なんです。精神的なんです。これはですね、あの、筋力とか、基本の体制っていうのが無いんです。非常に難しいんです。諸刃の剣ななんです。完全に今出来た状態だとしても、明日そう言い切れない。確率を要するに高めていくっていうのは、もう練習である程度の点数を付ける。そのデータで、考えていく。要するに、裏付けを取っていく、それしかないんですね。

その点、弓道っていうのは、昔から家と家を賭けてた。それに負けたら、切腹、もう覚悟だったんです。本当に生きるか死ぬかだったから、真剣だったんです。そういうふうな精神状態、そういう所の方が非常に勉強になるわけです。また、それで、研究してきた弓道が今あるんだよね。それにしては、アーチェリーっていうのは、まだまだ、弓具は進んでいるけど、そういった指導方法だとか、メンタル面、非常に弱いなっていうことですね。

要するに、先生方に僕がまずお願いしたいっていうのはね、基本っていうものをもっと重んじて、指導してほしいな。矯正してほしいな。ただ、いろんな体型、体格、その他ありますから、サル腕で悩んだり、だから、力がなかったりっていうのがね、多くて思うようにいかないと思うんです。

けども、今なお、我々は基本っていうものを目指してより良いものを、より苦手な所を得意に、またその得意な所と同じレベルまで上げようとして日夜努力してるんだ。だから、こういった24年間も、続けてきている。なかに、あまり成果も振るわなかった年もありましたけど、だけど、ここまで続いたっていうのは、そういった好きっていうのももちろんありますけども、その形、またその考え方、そういったものが、ここまで来れた秘訣って言いますかね、成果じゃないかな、要因じゃないかなと、こう思ってます。だけど、やっぱり、最終的に、その行き着く所、また、壁に当たる所っていうのは、体型だの体力だのじゃなくて、最終的にはその精神面、ま、メンタルコントロールっていう所で、非常に難しい壁になって、この辺はですね、皆さんに大手を振ってお話しできない。また、未知の部分なんですね。技術面うんぬんっていうのはね、結構まあ、もうこれだけ長いとね、毎日のように射ってますからできます。その中の秘訣も、まあ、色々あるんですね。まあだいたい基本的なところで、20年間のなかで、こう、秘訣だとか、こういうのはあるんですけども、それはですね、また個々に呼んでいただいた時にですね、個々の場所で話していくと、弓を持ってですね、実際に指導してって、そういう所でまたね、披露したいと思います。

だけど、そんなにね、秘訣だのとどうのこうのってよくね、当たる秘訣教えてくださいと言われるんだけど、要するに、基本に従事していかに強い精神力、例えば、押し手を直そうとか、引き手を直そうっていう気持ちがあつたとしたら、それを直るまで、やり続ける努力と精神力、必ずやり遂げようという精神力。これがやっぱりね、言っときますけど、我々っていうのは、非常に優れては無いんです。普通だいたいまあ、学生なんか

これをこうしろって言うと、すぐ元へ戻っちゃうんですね。例えば、アンカーを鼻につけ弦を鼻につけなさいって言っても、言ったときにはつける。しばらく経つとまた離れてるっていうのが多いと思うんですね。先生方一番よくわかるかと思うんですが、言ってもなかなか聞かないやつっているでしょう。だけど、それはね我々まあ、非常に強い意志がある。だから直そうと思ったら、それに向かってほんとに真剣になって、必死になってやるんです。また、出来たときもあるし、出来てない部分もちろんありますけども、やろうとするね、強い意志がね、あるんです。だから、ここまで来てるんですね。そういう強い意志がないと上がった肩が下がらなかつたり、また、右行ってた肩が真っ直ぐつかなかつたり、変えられなかった。押し手がね、あの、一旦返っても、また元へ戻ってしまう。で、結局は点数が上がっていかないっていう結果になるんですね。

その辺、いままで、その若い子達はその、なんで来なかったかって言うと、そんなに真剣にとらえなかったっていうのが1つね。さっき言ったようなその、命を賭けるとかっていう、そういう世界じゃないですから、真剣にやっていない。真剣にその弱いところをね、太くしようとして、要するに、苦手なところをカバーしようとしな。でまた、しようとするそういう強い精神力じゃない。要するに、感覚とか、当たるから、また先生達ももう、当たってるからいいやつっていう部分があつて触れないとかね。大きな大会控えてるって事があつて、なかなか触る、直していく暇がない、まあ、そういうのもあつてですね、なかなかその弱い所を克服できない、しようとしな。そういうのがですね今まで我々の後にすぐついて来るのがいなかったっていうのは、そういう大きな原因があるんじゃないかな、だから、我々っていうのは、そういう所っていうのは、あの、非常に強い精神力でやり遂げようとするから、今なおかつ、我々は、弓を射って、やってるんだよとまあ、いうことなんですよ。

だけど、最終的にその、壁に当たるとしたらやっぱり、精神的な面、だから私は今、先ほどね、弓道っていうのをちょっと勉強し手、もうちょっとその、精神的な面、勉強したから直るとか、いいとかっていうもんじゃないんですね。まあ、蓄えられないのが精神力じゃないかなと、こう思っています。筋力だったらそんなことはないですけどね。また鍛えりゃあ直るんです。なかなか精神的な面っていうのは、鍛えて、蓄えられないもんだな、というように思っています。だからこの辺は、今後ですね、また私の勉強の課題としてですね。引き続き研究していきたいなと思ってるんですけども。今、先ほど言ったように、皆さんにお話しして、参考になるほどのまあ、成果は上がってないのが現状なんですね。だからまた、この次またこういう機会があれば、少しは進歩、進化してんじゃないかなと思ってます。

最後に日本はかつては強かったんです。そういう事をね、もっと勉強すべきじゃないかなと、つつい強いからその方へ行ってしまう。そういうもんじゃないという事ね。やっぱりしっかりしたそのポリシーを持ってね、アーチェリーっていうものを盛り上げてほしいなと、こう思ってます。



今日まで、そして明日へ

前専門部委員長 藪 内 徹

前委員長の藪内先生に今までの全国高体連アーチェリー専門部(以下全高ア専)を振り返って、先生が現在思っておられることをインタビューという形でざっくばらんにお話しいただきたいと思います。

まず最初に、全高ア専の過去と言うことでその歴史についてお伺いしたいと思います。

今振り返りますと、アッという瞬く間の38年間でありました。選手権大会としては30回を数えましたが、スタートは和弓の遠的競技から独立した自分達の競技会を開くことにありましたが、同好の仲間が大勢集まったので関係者に欲が出てきて、もっと地域を拡げ仲間を増やし全国大会を開こうというところまで一気に進み、やがて高体連への加盟を目指そうという目標ができました。

しかし、今から思うともう少し効率的な発展策や普及策を確立しておく必要はなかったか。マイナーな種目であるだけに、組織として先を見通す力が当時にあったならばと考えます。

組織に不足するところがあつたという指摘がありましたが、具体的にはどういうことでしょうか。

モントリオール・オリンピックで日本選手が銀メダルを獲得したとき、当時の銀座ではアーチェリーの弓を持ちミニスカートで歩くことがファッションでした。それくらい世間では、スポーツの話題性とファッション性が一体化し具現されていたわけです。その機会を逃さずに、ヒットさせたり拡大させたりする手段があつたのではないかと。競技人口のその部分を担う生徒達への普及浸透の理念、底辺拡大に欠かせない指導者の養成と確保、指導内容の統一と資質向上を図る等のソフト面、さらに、飛び道具の安全確保から施設の安全基準や設計などのハード面、その両面にわたる具体策が中央競技団体の責務として明確に打ち出されていれば、競技だけに偏ることのない方向や愛好者層の拡大も、今日とは違った形で発展への素地となり得たと考えます。

そのような状況の中で、正式加盟に向けた取り組みはどのようになされたのでしょうか。

当時、全国高体連への加盟条件は、概ね30都道府県で高体連加盟または、40都道府県で実質活動が審議の対象でしたが、我が加盟数は19都道府県しかありませんでした。この間、「大会をリハーサルに利用させてください。高校選手権として正式に取り組んでください。」という、相互依存の関係が13回から25回大会まで続きました。「あなた方も努力なさい、私たちも正式加盟に向け応援しましょう。」北海道高体連会長の力強い後押しを受けて、各都道府県の加盟取り扱い基準と今後の見通し、クリアすべき条件などの把握にかかったものの、肝心の未加盟県関係者の反応は今一つ盛り上がりを書いていま

した。地域活動発展論をもって公認メリット論を説く加盟県に対し、県協会依存からの脱却に不安を募らせる未加盟県。今後の競技会備品・独自資金の確保等々で難色を示するむきがあり、全体が加盟の方向へ進むには予想以上の時間がかかりました。

加盟への本格的な動きは国体正式参加がきっかけですが、各県のとらまえ方は競技者数の増加を受けて専門部の設置を図る立場と、国体の開催順を迎える地元の思い入れから設立を図る立場とがあり、双方が絡み合っただけで迎えた訳ですが、高体連加盟の背景には国体参加が大きく幸いしたと思います。

かつて、国体のリハーサル大会として全国高校選手権大会が開かれていた時期がありましたが、現在と異なるところはどのような点ですか。

第1回大会は、高等学校の数名の先生方だけでスタートした手作りの大会でしたが、2回目から11回目までは中央の組織として、高校への普及浸透を目論んだのですが、実質は開催県側に運営の全てを任せただけで、競技方法が踏襲されずに大会ごとに異なる運営やルールの解釈等、変則性が重なって参加者の評判は芳しくありませんでした。12回大会には広島県高体連の後押しもあって、初めて全国高体連の名義共催を得ることができるなど、高体連を全面に打ち出し運営方法が切り替わるきっかけでもありました。同時に、高等学校選手権大会が国体と同規模・同競技法という観点等から、国体のリハーサル大会には重要な大会として選手権大会と併設で開催される変化もみせました。しかし、開催運営経費を工面する苦労は軽減されたものの一方で、リハーサルを名目とするがために地元側の意向と全高ア専側の認識とにギャップが生じるなど、多少ぎくしゃくした関係もありました。

その後インターハイに正式加盟するまでのご苦労などをお聞かせください。

競技方法については、引き続き50・30Mの当時というハーフでという考え方と、世界に合わせシングルで記録の比較をとという考えがありました。結果は正式なシングル競技で大会要項等の作業を進めたのですが、全国高体連中央委員会では競技会の運営施設面と日常活動と校内練習場問題等から、当初は長距離の実施は否定されハーフの続行が加盟承認の条件でした。加盟をしたいとの強い思いから条件をのみましたが公式競技論とともに熊本国体の実施要項変更などの要件が斟酌され、3年間の準備期間を経て山梨大会からシングル化への変更承認が得られました。同時に、陸上競技場の広さで競技の実施が開催承認条件としてうたわれました。

加盟とともに、見ていて面白く選手自身の緊迫感を考慮した方法として、各ゾーンごとに4チームから2チームが勝ちあがるという予選方式を取り入れました。当時、世界はすでにマッチプレーの方向に進んでいたようですが、詳細な情報が入っていたら考え方や方法も変わっていたかもしれません。栃木・富山と同方法で進めるなかで、たまたま大会を見に来ていた他国の関係者から「オリンピックよりも面白い方法だ。なぜなら、4チームから2チーム勝ち上がりというのは、初めから敗者復活戦が組み込まれていると理解できる。いわゆるトーナメント方式よりも、2チームが残るところに意味があり、むしろ今のオリンピックの形式よりこの方が良いのではないか。」というお話も承りました。

全高ア専の力量という点に関して、どのように考えておられますか。

正直にすごいパワーです。それを生かさなければ組織としては、大きな損失だと思います。私の見方は、先生方には各教科という幅広い分野の専門性があり、それぞれに研修時間を駆使しながら迅速な対応検討にも移れる。さらに、実験データの収集・システムの開発や検証把握も可能な立場にあり、方向性が定まれば機動力もあるなど、他には類を見ない特色と力量を秘めているといえます。しかし、競技団体の組織としては、中体連・高体連・学連とが連携する手だてがなく、それぞれが分断されて有機性がないままで、組織全体の欠陥や是正の方向性を働きかけるキッカケがないのは至極残念なことだと思います。

これからの全高ア専に望むことをお聞かせください。

現在の全高ア専は、組織化も方向性もほぼ確立したと思います。あとに残された問題としては、如何に競技力と選手・指導者の資質向上に精力を結集するかという点と、少子化の影響による競技人口・部員の減少を如何にして回復させるかという点にあります。競技力の向上に関しては、それぞれの都道府県に強化担当責任者がいるわけですから、少なくとも47方式の強化策があるはずで、これを一つに結集して全高ア専の強化マニュアルにしてはどうか、さらに、我々の組織で育った選手で過去のメダリストや日本代表選手といった先生方の力を借り、全体を牽引し全体の力をまとめて強化すれば、かなりの成果を上げることが出来るはずだと思っています。韓国の朴氏や金氏から「全高ア専は、恐ろしく強い組織力を持っている、すぐにも我々と肩を並べることが出来るのではないか。」というお話を伺っており、外交辞令を差し引いて考えてもそうであると私も確信しております。だから、若い先生方がご自分のもっておられる理論を明確に披露し、さらに高度な理論を構築するという形で切磋琢磨すれば、短い期間で成果をあげることが出来るのではないかと思います。また、資質向上に関しては、リーダーとして目を肥やす機会を求めたり、海外派遣や研鑽の機会を増やす方向性が考えられます。組織全体としても各ブロックの充実化とともに、ふさわしい指導者をもって国際大会の誘致を考える時期でもあります。そのチャンスを逃すべきではないと考えます。競技人口の減少に関しては一口で言い尽くせないことがらですが、スポーツの必要性という点で考えてみると、生命力を高め生きる力を伸ばし与えることが、昔も今も時代の要請ではないかと考えます。私たちの関わるアーチェリーは見かけはソフトですが、「あたま・からだ・こころ」を練ったり鍛えたりするに望ましい種目と言えます。

先生のおっしゃるように人材は確かに豊富だと思いつつが、それが結集し十分に機能していないのではと思いますがその点についてはどのようにお考えでしょうか。

目指す方向に対し、足下や前を「みる＝見」の立場と、掲げた目標や理想に向かって進む「みる＝観」の二面性があります。現実を踏まえて将来に向かう指導・展望が必要です。さらに、耳をそばだてて「きく＝聞く」と、心を澄ましてくみ取る「きく＝聴く」の精神や背景も必要です。「私が」という欲を捨て去り、それぞれの「所属グループで、自分の考えなり力をまとめたのばしたい。」という集団ができあがれば、最終的にそれらを束ねる人がいればよい。それが全高ア専であれば、専門委員長なり各部会の委員長であろうと

考えます。従って、優秀な選手・指導者の人材育成方策、現場指導に即応した科学研究の放出、諸外国の動向や最新情報の公開等々。それぞれを統括して組織全体がパワーを発揮する一貫した体系への変革が、何よりも急務であろうと痛感します。

最後に全体を通して一言お願いいたします。

本専門部の組織や競技会等もずいぶんと成長してきました。しかし、選手や指導者には「初心・原点・本質を忘れずに」と、強く申し上げておきます。さる地で、インターハイ競技運営補助員から、率直でしかも辛辣な呟きをそれとなく聞く機会がありました。普段から「アーチェリー選手は、何に重きを置いて指導を受けているのだろう。」私達は常に「使用前よりも使用後を一層綺麗にし感謝して終わることを教えられている。」と。しかし、彼らには、会場放送で空き缶の処置やゴミの後始末の指示を受けている様子が、全国大会に参加する選手としてはとうてい考えられない、最低でしかも軽薄な光景と見えたらしい。みずから必死に生きてゆくために「躰」や厳しい条件を設定するのは、強くなる以前の問題で、マナーもマイナーな種目だと呟いていた。

私の問いかけに、バスケット部員、ソフトボール部員だと名乗った二人は、県内ではベスト4の競技力とのことだったが、指導を正しく受け止め身についた感覚の誇らしげな顔をいまでも思い出します。

高校生アーチャーの皆さんに、日頃から先生・先輩方の指導を正しく身につけ「あたま・こころ・からだ」を練り鍛えてほしいと希望します。

平成10年3月23日 滋賀県長浜にて

全高ア専ホームページについて

全国高体連アーチェリー専門部ではインターネット上にホームページを開設しています。内容は下記のようなものです。会報とは違った全国の高校生アーチェリーや顧問の先生方との双方向かのコミュニケーションを、目指しています。また、全国大会の出場やその予選記録、立ち順などの速報を行っています。ぜひご利用ください。

1,内 容

◎全高ア連の紹介

◎全国大会の速報

- ・ 出場者、予選記録、立ち順
- ・ 成績速報

◎質問コーナー

技術・ルール・競技方法などについての質問・疑問をEメールで寄せていただき、それにお答えします。

◎お便りコーナー

皆さんのお便りを待っています。

2,アクセスの仕方

◎URL

<http://www.asahi-net.or.jp/~si7o-sk/>

- ・ アクセスする場合は上記のURLをブラウザ上で入力してください。
- ・ ブラウザーはフレームを使用していますので、ネットスケープナビゲーター3.0あるいはインターネットエクスプローラー3以上を使用してください。
- ・ URLのニョロマーク「~ (チルダ)」はWindowsの場合「shift」キーを押しながらキーボード上段数字キーの「0わ」の2つ右隣の「^へ」で入力できます。Macの場合はキーボード通りです。

◎Eメールアドレス

si7o-sk@asahi-net.or.jp

- ・ Eメールは上記アドレスですが、ホームページ内のメールボタンを押せば入力する必要はありません。

お問い合わせ、ご意見ご希望がありましたらどしどしお寄せください。生徒の皆さんの声も待っています。

問い合わせ先 〒545-0002

大阪市阿倍野区天王寺町南2-8-19 大阪女子高校内

全高ア専 総務委員会 佐 幸 修

K PRODUCTS

もっと、真ん中へ。

上の写真は、Kサイト“THE Carbon”。

日本人による世界記録の陰には、常にKサイト。

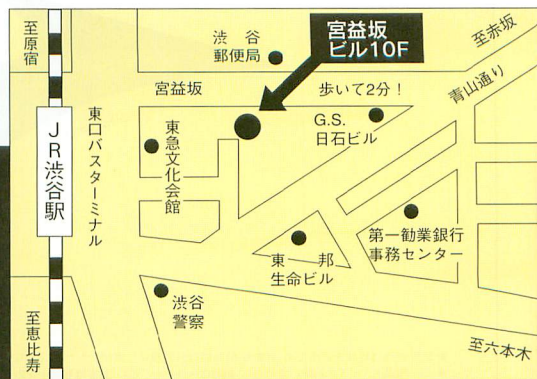


日本が世界に誇るトップアーチャーが、設計の段階から参画。日本人の体格、性格を考慮して作られたサイトだから、日本の多くのトップが愛用しています。日本に根ざし、全世界が注目する世界水準機種。日本人アーチャーのためのサイトです。

K SIGHT "T-type 254"

COLOR: Black, Blue, Red, Silver

PRICE: ¥24,000



K PRODUCTS

日本バイメタル株式会社

〒146-0093 東京都大田区矢口2-30-6 TEL.03-3759-7610 FAX.03-3759-7606

渋谷店

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-19-15宮益坂ビル1001 TEL.&FAX.03-3797-7645

●営業時間/11:00AM~7:30PM ●定休日/日曜日、毎月曜日



ドロ잉は、この安定性で決まる。

メンタルコントロールが結果を大きく左右するアーチェリー。

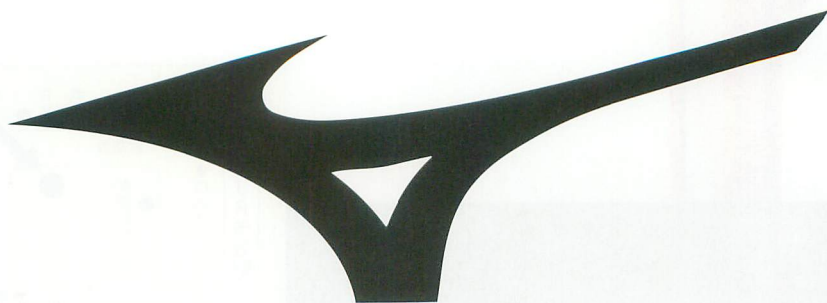
スタンスが安定しなければ、集中力も高まりません。

〈ミズノ〉アーチェリーシューズは、土や芝のグラウンドでも優れたグリップ性と安定性を発揮するソール構造で、確かなドロ잉を生み出します。

〈ミズノ〉アーチェリーシューズ

25KA-1000 ¥10,000 受注生産

●サイズ: 22.0~28.0 ●甲: 人工皮革(クラリーノエフ) ●カラー: ホワイトにゴールド



平成10年度用



登録届記入方法

指定都道府県番号	=	別紙・資料Ⅻ1参照
----------	---	-----------

該当項目に○をして
正式学校名を記入

都道府県名を記入し
該当項目に○をする

西暦で記入

各都道府県高体連
加盟学校指定番号

 $\frac{1}{1}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{2}{2}$ 等

19 年 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟会員登録最属

(AE /)

郵便番号を記入し
正確な所在地を記入

学校の電話番号を記入
〔 〕内は市外局番
()内は市内局番
()の後に番号

顧問の先生方全員の
氏名を記入
代表者は認印を押す

女子生徒のみ又は男子生徒のみが登録している学校は、該当する項目に○を

女子生徒及び男子生徒
徒が登録している学
校の場合に○を

各学年、女子、男子
別に人数を記入し、
合計を記入。合計は総
合計の交わる欄は総
合計人数を記入

学校長名を記入
し公印を押す

FAXが設置している場合は記入
記入の仕方は電話と同様に記入

各学校毎に
女子は5001番より
男子は1001番より
順番に記入

学年は3・2・1年の
順番で記入
年齢は4月1日を起算
としての年齢を記入

[illegible]

- (2) 記入は、簿書き黒ボールペンを使用してください。また、数字はアラビア数字で記入してください。
- (3) 登録届用紙は、各学校で原本1部（枚印の上）を作成し、4番と番を1～7まで全部を5送付のことで、
- 5部の内訳：全日本大学アスリート連盟提出……………1部 全国高等学校体育連盟アスリート専門部用……………1部
- 各都道府県アスリート協会（連盟）……………1部 各加盟高等学校……………1部
- 各都道府県高等学校体育連盟アスリート専門部事務局……………1部
- (3) 登録届提出先：〒300 埼玉県大宮市内/内1丁目615 大宮国際高等学校内
- 「全国高等学校体育連盟アスリート専門部事務局」

該当する項目に○をし
生徒1人当たり800円
を掛けた金額を記入し
合計金額を記入する

その他に生徒1人当たり200円を掛け、金額を上記の金額と各都道府県又は各都府県別の金額を送金する。

個人1人当たり1,000円
(800円専門部・協会200円)

指定都道府県番号表

指定都道府県番号	都道府県名	指定都道府県番号	都道府県名	指定都道府県番号	都道府県名
1	北海道	17	長野	33	岡山
2	青森	18	富山	34	広島
3	岩手	19	石川	35	山口
4	宮城	20	福井	36	香川
5	秋田	21	静岡	37	徳島
6	山形	22	愛知	38	愛媛
7	福島	23	三重	39	高知
8	茨城	24	岐阜	40	福岡
9	栃木	25	滋賀	41	佐賀
10	群馬	26	京都	42	長崎
11	埼玉	27	大阪	43	熊本
12	千葉	28	兵庫	44	大分
13	東京	29	奈良	45	宮崎
14	神奈川	30	和歌山	46	鹿児島
15	山梨	31	鳥取	47	沖縄
16	新潟	32	島根		

★個人登録番号の付記について

- 指定都道府県番号はHの前に 例：東京都の場合

13

 H -
- 指定学校番号はHに続いて 例：東京都の玉川学園高校の場合 13H

06

 -
- 個人登録番号をーの後に男子は1001・女子は5001より各学校で付記
例：東京都の玉川学園高校の場合 13H06-1001 (男子の場合)
13H06-5001 (女子の場合)

(No. /)

種 別		人数	女子	男子	合計	金 額	チエツク	県高体連ア専部	都道府県ア協	全高体連ア部	全日本ア連盟
単 独 校	女 子 男 子	1年				単独校負担金＝4 0 0 0円	受付月日	月 日	月 日	月 日	月 日
		2年				複数校負担金＝8 0 0 0円	担当者名				
		3年				800円× 人＝ 円	確認認印	印	印	印	印
複数校		合計				合計金額＝ 円	備 考				

(3) 登録届提出先: ㊟330 埼玉県大宮市堀ノ内1丁目615 大宮開成高等学校内 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局 宛
略称(全国高体連アーチェリー専門部事務局 宛)

選手権大会 栄光の歩み

(第1～19回：1日制、第20回～：男女別2日制で実施)

回数	男・女	団 体 の 部	個 人 の 部
第1回大会 (68'8.10.大阪府・東大阪グランド)			
男 子	浜 松 興 誠 高 (静 岡)	1639.	稲 川 篤 郎 (浜松興誠高) 577.
女 子	同 志 社 高 (京 都)	1419.	布 浦 裕 子 (同志社高) 503.
第2回大会 (69'8.10.静岡県・県営草薙運動場)			
男 子	岸 和 田 産 業 高 (大 阪)	1689.	下 向 辰 法 (岸和田産高) 573.
女 子	同 志 社 高 (京 都)	1470.	布 浦 裕 子 (同志社高) 529.
第3回大会 (70'8.9.東京都・駒沢第一球技場)			
男 子	岸 和 田 産 業 高 (大 阪)	1606.	伊 藤 寿 彦 (岸和田産高) 601.
女 子	同 志 社 高 (京 都)	1505.	熊 谷 登 美 (同志社高) 527.
第4回大会 (71'8.1.京都府・府立大グランド)			
男 子	浜 松 工 業 高 (静 岡)	1622.	亀 井 孝 (同志社高) 600.
女 子	甲 南 女 子 高 (兵 庫)	1493.	井 上 典 子 (同志社高) 534.
第5回大会 (72'8.4.神奈川県・三ッ沢球技場)			
男 子	横 浜 高 (神奈川)	1702.	角 井 和 夫 (広島工業高) 583.
女 子	浜 松 北 高 (静 岡)	1601.	辻 紀 子 (甲南女子高) 552.
第6回大会 (73'8.5.東京都・駒沢第一球技場)			
男 子	愛 知 高 (愛 知)	1764.	鈴 木 優 (静岡三ヶ日高) 621.
女 子	同 志 社 女 子 高 (京 都)	1553.	辻 紀 子 (甲南女子高) 558.
第7回大会 (74'8.3.滋賀県・県営彦根総合運動場)			
男 子	同 志 社 高 (京 都)	1707.	河 内 敏 雄 (同志社高) 600.
女 子	同 志 社 女 子 高 (京 都)	1644.	後 藤 有理子 (同志社女高) 573.
第8回大会 (75'8.3.愛知県・愛知学院大グランド)			
男 子	大 阪 工 業 大 高 (大 阪)	1753.	梅 内 秀 和 (八戸工大第二) 646.
女 子	同 志 社 高 (京 都)	1586.	小 里 頼 子 (札幌啓成高) 551.
第9回大会 (76'8.1.北海道・札幌真駒内アイスアリーナ)			
男 子	三 本 木 農 業 高 (青 森)	1810.	市 川 松 治 (三本木農高) 633.
女 子	富 士 見 高 (静 岡)	1686.	佐 野 敦 子 (富士見高) 592.
第10回大会 (77'7.31.宮城県・秋保森林スポーツ公園)			
男 子	慶 応 義 塾 高 (神奈川)	1817.	神 野 浩 (慶応義塾高) 627.
女 子	浜 松 商 業 高 (静 岡)	1724.	松 永 弘 子 (富士見高) 607.
第11回大会 (78'7.27.青森県・十和田市陸上競技場)			
男 子	愛 知 高 (愛 知)	1785.	山 本 博 (横 浜 高) 639.
女 子	三 本 木 農 業 高 (青 森)	1641.	山 内 京 子 (浜松商業高) 570.
第12回大会 (79'7.29.広島県・県営総合グランド)			
男 子	浜 松 工 業 高 (静 岡)	1836.	山 本 博 (横 浜 高) 630.
女 子	山 陽 女 子 高 (広 島)	1641.	大 道 理 枝 (山陽女子高) 582.
第13回大会 (80'8.3.滋賀県・秦荘町民スポーツセンター)			
男 子	横 浜 高 (神奈川)	1925.	山 本 博 (横 浜 高) 670.
女 子	千 葉 英 和 高 (千 葉)	1739.	大 道 理 枝 (山陽女子高) 618.
第14回大会 (81'8.2.東京都・駒沢第二球技場)			
男 子	名 古 屋 電 気 高 (愛 知)	1888.	岐 部 恭 史 (大阪工大高) 640.
女 子	大 津 商 業 高 (滋 賀)	1794.	名 倉 裕 子 (浜松工業高) 621.
第15回大会 (82'8.1.群馬県・川場中学校グランド)			
男 子	丹 南 高 (福 井)	1817.	薄 井 雅 美 (馬 頭 高) 625.
女 子	富 士 見 高 (静 岡)	1682.	平 田 さゆみ (札幌月寒高) 598.
第16回大会 (83'8.7.奈良県・三宅健民運動場) ㊤雷雨の為、団体・個人共に63射迄の記録			
男 子	馬 頭 高 (栃 木)	1650.	池 田 辰 弥 (慶応義塾高) 571.
女 子	大 津 商 業 高 (滋 賀)	1587.	岩 波 ひろみ (大津商業高) 543.

第17回大会 (84'8.5.鳥取県・東郷湖羽合臨海公園スポーツ広場)		
男 子	米 子 北 高 (鳥 取) 1904.	松 田 武 文 (米 子 北 高) 643.
女 子	札 幌 啓 北 商 業 高 (北海道) 1816.	山 本 和 美 (札 幌 啓 北 商 高) 620.
第18回大会 (85'8.11.山梨県・敷島総合公園運動場)		
男 子	米 子 北 高 (鳥 取) 1889.	室 伏 優 一 郎 (横 浜 高) 650.
女 子	大 津 商 業 高 (滋 賀) 1789.	児 玉 晶 子 (米 子 北 高) 648.
第19回大会 (86'7.27.沖縄県・宜野湾市海浜公園多目的広場)		
男 子	横 浜 高 (神奈川) 1787.	蓮 田 秋 二 (東京学園高) 629.
女 子	札 幌 啓 北 商 業 高 (北海道) 1753.	中 込 恵 子 (甲 府 第 一 高) 612.
第20回大会 (87'7.25~26.京都府・日吉胡麻総合運動広場)		
男 子	三 本 木 農 業 高 (青 森) 1876.	鎌 田 芳 彰 (幕 別 高) 643.
女 子	折 尾 高 (福 岡) 1775.	大 城 春 野 (宜 野 湾 高) 611.
第21回大会 (88'7.26~27.北海道・旭川市)		
男 子	北 大 津 高 (滋 賀) 1883.	吉 田 賢 (甲 府 第 一 高) 657.
女 子	折 尾 高 (福 岡) 1881.	岩 山 美 保 (折 尾 高) 635.
第22回大会 (89'7.26.~27.福岡県・北九州市)		
男 子	柏 陵 高 (福 岡) 1685.	山 本 敦 (永 谷 高) 603.
女 子	旭 川 北 高 (北海道) 1802.	鈴 木 知 子 (桜 丘 高) 634.
第23回大会 (90'7.27.~28.石川県・柳田村)		
男 子	柏 陵 高 (福 岡) 1917.	宮 永 雅 史 (柏 陵 高) 657.
女 子	折 尾 高 (福 岡) 1796.	森 本 淳 子 (同 志 社 高) 626.
第24回大会 (91'7.27.~28.山形県・鶴岡市)		
男 子	同 志 社 高 (京 都) 1813.	藤 原 悟 (広 島 工 業 高) 630.
女 子	折 尾 高 (福 岡) 1681.	岡 野 善 恵 (甲 南 女 子 高) 578.
第25回大会 (92'7.26.~28.香川県・財田・仲南町)		
男 子	横 浜 高 校 (神奈川) 1880.	木 村 正 純 (横 浜 高 校) 650.
女 子	横 浜 学 園 (神奈川) 1828.	川 上 祐 佳 里 (柏 陵) 639.
平成5年度 全国高等学校総合体育大会 第26回大会 ('93 8.1~4.栃木県・馬頭町)		
男 子	横 浜 (神奈川) 234.	木 村 正 純 (横 浜) 656.
女 子	大 分 東 明 高 (大 分) 205.	山 岡 麗 子 (横 浜 学 園) 629.
平成6年度 全国高等学校総合体育大会 第27回大会 ('94 8.6~8.富山県・宇奈月町)		
男 子	柏 陵 (福 岡) 244.	桜 井 隼 (東 京 工 業) 654.
女 子	甲 南 女 子 (兵 庫) 218.	河 崎 由 加 里 (山 陽 女 子 高) 639.
平成7年度 全国高等学校総合体育大会 第28回大会 ('95 8.2~4.広島県・広島市)		
男 子	愛 産 大 三 河 (愛 知) 221.	村 越 永 人 (田 村 高) 669.
女 子	山 陽 女 子 (広 島) 207.	富 島 優 (甲 南 女 子 高) 643.
平成8年度 全国高等学校総合体育大会 第29回大会 ('96 8.2~5.山梨県・竜王町)		
男 子	大 分 東 (大 分) 222.	山 県 朝 太 郎 (富 士 見) 102.
女 子	鬼 道 子 (京 都) 218.	大 津 留 由 香 (大 分 東 明) 79.
平成9年度 全国高等学校総合体育大会 第30回大会 ('97 8.4~8.京都府・日吉町)		
男 子	東 海 大 二 (熊 本) 224.	藤 原 真 也 (横 浜) 105.
女 子	氷 川 (熊 本) 196.	勝 俣 比 呂 美 (小 田 原 城 内) 99.

選 手 権 大 会 記 録

〔団体の部〕

《男子》横 浜 高 (神奈川) 1925

山本 博 670 (323.347)
白井 肇 628 (294.334) ・ 第13回大会
足立 朋美 627 (299.328)

《女子》折 尾 高 (福 岡) 1881

岩山 美保 635 (299.336)
坂田美穂子 624 (291.333) ・ 第21回大会
岡部 由布 622 (290.332)

〔個人の部〕

《男 子》

ハーフ・R 山本 博 670 (323.347)
50 M 山本 博 323
30 M 山本 博 347

神奈川・横浜高・第13回大会
神奈川・横浜高・第13回大会
神奈川・横浜高・第13回大会

《女 子》

ハーフ・R 児玉 晶子 648 (310.338)
50 M 児玉 晶子 310
30 M 富島 優 343

鳥 取・米子北高・第18回大会
鳥 取・米子北高・第18回大会
兵 庫・甲南女子高・第28回大会

選手権大会 栄光の歩み

【男 子】

回数	選 手 名	学校名	TOTAL	90m 70m 50m 30m	期 日	開 催 地
1	河 合 徳 之	浜 松 工	1199	246. 309. 306. 338.	'83.3.25-27	愛 知・森林公園
2	角 田 信 一	馬 頭	1154	259. 277. 294. 324.	'84.3.25-27	静 岡・富 士 市
3	松 田 武 文	米 子 北	1131	208. 288. 301. 334.	'85.3.25-27	滋 賀・秦 荘 町
4	田 中 喜美男	横 浜	1198	265. 300. 294. 339.	'86.3.25-27	福 井・芦 原 町
5	和 田 和 則	馬 頭	1174	234. 269. 307. 317.	'87.3.25-27	東 京・駒沢公園
6	荒 金 利 剛	米 子 北	1164	237. 282. 318. 327.	'88.3.25-27	大 阪・久米田高
7	於 久 直 人	北 大 津	1250	273. 319. 315. 343.	'89.3.25-27	神奈川・横 浜 高
8	赤 井 雅 宏	北 大 津	1200	252. 307. 306. 335.	'90.3.25-27	兵 庫・神 戸 市
9	田 中 勝 美	横 浜	1214	277. 321. 291. 322.	'91.3.26-28	愛 知・愛学院大
10	厚 海 善 栄	田 村	1216	259. 316. 307. 334.	'92.3.25-27	京 都・山城総合
11	木 村 正 純	横 浜	1232	249. 312. 326. 345.	'93.3.25-27	静 岡・草 薙
12	園 田 孝 史	横 浜	1282	292. 322. 322. 346.	'94.3.27-28	滋 賀・長 浜 市
13	松 田 浩 行	柏 陵	1288	296. 322. 322. 348.	'95.3.26-28	滋 賀・長 浜 市
14	高 松 大 輔	三 重	1238	264. 309. 323. 342.	'96.3.26-28	滋 賀・長 浜 市
15	牧 山 雅 文	佐賀敵木	1131	214. 3278. 298. 341.	'97.3.26-28	茨 城・波 崎 町
16	伊 藤 進 一	愛産大三河	1239	272. 317. 322. 328.	'98.3.26-28	静 岡・掛 川 市

【女 子】

回数	選 手 名	学校名	TOTAL	70m 60m 50m 30m	期 日	開 催 地
1	上鹿渡 由 美	北海道清水	1183	285. 303. 270. 325.	'83.3.25-27	愛 知・森林公園
2	田 中 志 律	千葉英和	1124	257. 268. 274. 325.	'84.3.25-27	静 岡・富 士 市
3	藤 本 正 美	大津商業	1195	265. 299. 296. 335.	'85.3.25-27	滋 賀・秦 荘 町
4	大 城 春 野	宜 野 湾	1153	276. 286. 272. 319.	'86.3.25-27	福 井・芦 原 町
5	松 宮 真由美	丹 南	1207	283. 299. 306. 319.	'87.3.25-27	東 京・駒沢公園
6	近 藤 真 弓	信愛学園	1216	287. 312. 292. 325.	'88.3.25-27	大 阪・久米田高
7	小 山 美代子	兎 道	1237	291. 314. 304. 328.	'89.3.25-27	神奈川・横 浜 高
8	高 木 祐 子	富 士 見	1177	263. 289. 305. 320.	'90.3.25-27	兵 庫・神 戸 市
9	谷 口 和 子	折 尾	1214	288. 316. 280. 330.	'91.3.26-28	愛 知・愛学院大
10	大 内 愛	山陽女子	1215	294. 304. 293. 324.	'92.3.25-27	京 都・山城総合
11	山 岡 麗 子	横浜学園	1235	293. 313. 295. 334.	'93.3.25-27	静 岡・草 薙
12	今 福 織 江	大分東明	1297	315. 321. 318. 343.	'94.3.27-28	滋 賀・長 浜 市
13	富 島 優	甲南女子	1271	292. 319. 318. 342.	'95.3.26-28	滋 賀・長 浜 市
14	田 原 雅 代	岡 崎 東	1269	306. 319. 307. 337.	'96.3.26-28	滋 賀・長 浜 市
15	田 口 香奈子	東海大二	1208	261. 303. 307. 337.	'97.3.26-28	茨 城・波 崎 町
16	松 下 紗耶未	明 星	1216	281. 311. 297. 327.	'98.3.26-28	静 岡・掛 川 市

選 拔 大 会 記 録

11回大会以前・15回大会以降（アウトドア）

1998年3月30日現在

【男子の部】

TOTAL	伊 藤 進 一	1239 (272・317・322・328)	愛 知・愛知大三河・第16回大会
90m	藤 原 真 也	284	神奈川・横 浜・第16回大会
70m	田 中 勝 美	321	神奈川・横 浜・第9回大会
50m	木 村 正 純	326	神奈川・横 浜・第11回大会
30m	木 村 正 純	345	神奈川・横 浜・第11回大会

【女子の部】

TOTAL	小 山 美代子	1237 (291・314・304・328)	京 都・兔 道・第7回大会
70m	長 見 みどり	296	広 島・山陽女子・第7回大会
60m	池 田 敦 美	316	山 形・天真学園・第7回大会
50m	松 宮 真由美	306	福 井・丹 南・第5回大会
30m	後 藤 和 美	339	埼 玉・大宮開成・第11回大会

12回大会以降～14回大会（インドア）

【男子の部】

TOTAL	松 田 浩 行	1288 (296・322・322・348)	福 岡・柏 陵・第13回大会
90m	松 田 浩 行	296	福 岡・柏 陵・第13回大会
70m	園 田 孝 史	322	神奈川・横 浜・第12回大会
50m	板 倉 幹 郎	322	神奈川・三浦学園・第12回大会
30m	松 田 浩 行	348	福 岡・柏 陵・第13回大会

【女子の部】

TOTAL	今 福 織 江	1297 (291・314・304・328)	大 分・大分東明・第12回大会
70m	今 福 織 江	315	大 分・大分東明・第12回大会
60m	小 出 美沙都	325	大 分・明 星・第12回大会
50m	今 福 織 江	318	大 分・大分東明・第12回大会
30m	熊 谷 愛	344	福 岡・柏 陵・第12回大会

日本高校記録

(F I T A R O U N D)

1998年3月14日現在
全国高体連アーチェリー専門部

(男子)

種 別	選 手 名	学 校 名 ・ 府 県 名	記 録	大 会 名	樹立年月日	会 場 地 名
シングル	大橋 亨	東京工業高・東京	1289 (296 323 320 350)	89年東京都秋季大会	89.10.8	東京・世田谷区
90M	三浦 一己	野津田高・東京	299	91年東京新聞杯大会	91.6.2	東京・世田谷区
70M	坂本 隆輝	東海大二高・熊本	329	93年熊本公認記録会	93.6.12	熊本・荒尾市
50M	藤原 悟	広島工業高・広島	330	91年中国地区選手権	91.9.22	広島・千代田町
30M	若杉 徳之	柏陵高・福岡	351	92年福岡県秋季大会	92.9.20	福岡・福岡市
ハーフ	園田 隆史	横浜高・神奈川	671 (324 347)	第49回国体神奈川県予選	94.6.26	神奈川・横浜市
50M	松田 浩行	柏陵高・福岡	327	95年福岡県高校総合体育大会	95.6.3	福岡・福岡市
30M	牧山 雅文	厳木高・佐賀	351	97年回佐賀県国体1次選考会	97.5.11	佐賀・佐賀市
TEAM	光田 健 西川 清一 宮永 雅史	柏陵高・福岡	1955 663 (321.342) 646 (302.344) 646 (311.335)	90年福岡県高校総合体育大会	90.6.3	福岡・福岡市

(女子)

種 別	選 手 名	学 校 名 ・ 府 県 名	記 録	大 会 名	樹立年月日	会 場 地 名
シングル	大平 泉美	愛知産大三河・愛知	1303	愛知県ターゲット大会	96.6.9	愛知・名古屋市
70M	大内 愛	山陽女子高・広島	319	92年広島夏季大会	92.8.9	広島・瀬野川市
60M	大平 泉美	愛知産大三河・愛知	332	愛知県ターゲット大会	96.6.9	愛知・名古屋市
50M	小出美沙都	明星高・大分	325	大分県アーチェリー協会長杯	96.5.12	大分・別府市
30M	井上鹿代子	富士見高・静岡	348	89年静岡県総合体育大会	89.6.11	静岡・田方郡
ハーフ	川内沙代子	折尾高・福岡	667 (321 346)	96年福岡県少年国体選考会	96.4.28	福岡・福岡市
50M	小出美沙都	明星高・大分	322	96年大分県少年国体1次予選	96.5.25	大分・別府市
30M	横田 知子	大分東明高・大分	346	第49回国体大分県二次予選	94.5.14	大分・別府市
TEAM	横田 知子 今橋 織江 三浦 洋子	大分東明高・大分	1907 646 (307.339) 645 (314.331) 616 (292.324)	90年福岡県高校総合体育大会	94.6.4	大分・大分市

[日本高校最高記録]

F I T A ダブルラウンド

種 別	選 手 名	学 校 名 ・ 府 県 名	記 録	大 会 名	樹立年月日	会 場 地 名
男子	村越 永人	田村高・福島	2513 (1258 1255)	95年全米選手権大会	95.8.10	米国・オハイオ州
女子	小出美沙都	明星高・大分	2539 (1297 1242)	95年全米選手権大会	95.8.10	米国・オハイオ州

日本高校記録 (F I T A R O U N D)

参考記録 (室内)

平成9年3月28日現在
全国高体連アーチェリー専門部

(男 子)

種 別	選 手 名	学校名・府県名	記 録	大 会 名	樹立年月日	会場地名
TOTAL	松田 浩行	柏 陵・福 岡	1 2 8 8 (296 322 322 348)	第13回選抜大会	95. 3. 28	滋賀・長 浜
9 0 M	松田 浩行	柏 陵・福 岡	2 9 6	第13回選抜大会	95. 3. 27	滋賀・長 浜
7 0 M	園田 孝史	横 浜・神奈川	3 2 2	第12回選抜大会	94. 3. 27	滋賀・長 浜
5 0 M	板倉 幹郎	三浦学園・神奈川	3 2 2	第12回選抜大会	94. 3. 28	滋賀・長 浜
3 0 M	松田 浩行	柏 陵・福 岡	3 4 8	第13回選抜大会	95. 3. 27	滋賀・長 浜

(女 子)

種 別	選 手 名	学校名・府県名	記 録	大 会 名	樹立年月日	会場地名
TOTAL	今福 織江	大分東明・大分	1 2 9 7 (314 321 318 343)	第12回選抜大会	94. 3. 28	滋賀・長 浜
7 0 M	今福 織江	大分東明・大分	3 1 5	第12回選抜大会	94. 3. 27	滋賀・長 浜
6 0 M	小出 美沙都	明 星・大分	3 2 5	第13回選抜大会	95. 3. 27	滋賀・長 浜
5 0 M	今福 織江	大分東明・大分	3 1 8	第12回選抜大会	94. 3. 28	滋賀・長 浜
3 0 M	熊谷 愛	柏 陵・福岡	3 4 4	第12回選抜大会	94. 3. 28	滋賀・長 浜

F I T A世界記録・日本記録

1998年3月14日現在

OUTDOOR TARGET ARCHERY OLYMPIC DIVISION

男子

FITA ROUND 日 本

世 界

FITA ROUND	山本 博 (埼玉)	1339	1995年	OH,Kyo-Moon	KOR	1368	1995年
90M	山本 博 (日本)	325	1992年	ESHEEV,Vladimir	USSR	330	1990年
70M	山本 博 (埼玉)	344	1990年	FEAR,Jackson	AUS	345	1997年
50M	山本 博 (埼玉)	342	1991年	HAN,Seung-Hun	KOR	348	1994年
30M	松下 和幹 (日本)	357	1986年	HAN,Seung-Hun	KOR	360	1984年
TEAM FITA ROUND	山本 博 於久 直人 西川 清一	1335 1295 1271	3901 (日本)	1992年	OH,Kyo-Moon LEE,Eun-Kyung KIM,Jae-Rak	KOR	4053 1995年

OLYMPIC ROUND

O.R.MATCH TOTAL (72)	上村 乃太 (日本)	658	1997年	SHIM,Young-Sung	KOR	685	1995年
O.R.MATCH (18)	茂木 健二 (日本)	171	1997年	CHIKAREV,Vadim	KAZ	175	1994年
O.R.MATCH (12)	山本 博 (日本)	114	1992年	PARK,Kyung-Mo	KOR	119	1993年
O.R.MATCH TOTAL (36)	上村 乃太 (日本)	329	1997年	OH,Kyo-Moon	KOR	338	1996年
O.R.TEAM MATCH (3×72)				JANG,Young-Ho KIM,Bo-Ram OH,Kyo-Moon	KOR	2031	1996年
O.R.TEAM MATCH (3×9)	松下 和幹 西川 定博 山本 博 (日本)	248	1994年	CHUNG,Jae-Hum OH,Kyo-Moon PARK,Kyung-Mo	KOR	259	1994年
O.R.TEAM MATCH (3×27)				OH,Kyo-Moon Hana S,M, Lim H,S,	KOR	508	1996年

50, 30M ROUND

50,30m ROUND	山本 博 (神奈川)	690	1988年
50M	山本 博 (神奈川)	336	1988年
30M	山本 博 (神奈川)	354	1988年
TEAM TOTAL	山本 博 松下 和幹 石鉢 利明	680 669 669	2018 (埼 玉) 1995年

〈日本最高記録〉

DOUBLE FITA ROUND

DOUBLE FITA ROUND	松下 和幹 (神奈川)	2632	1987年
70M	松下 和幹 (神奈川)	629	1987年
60M	松下 和幹 (神奈川)	664	1987年
50M	松下 和幹 (日 本)	669	1985年
30M	松下 和幹 (日 本)	707	1990年
TEAM DOUBLE FITA ROUND	山本 博 松下 和幹 古橋 照司	2581 2580 2535	7696 (日本) 1988年

女子

FITA ROUND 日 本

世 界

FITA ROUND	浅野 真弓	(学連)	1338	1997年	KIM,Jung-Rye	KOR	1377	1995年
70M	稀代 貴子	(福島)	328	1997年	Chung,Chang-Sook	KOR	341	1997年
60M	大内 愛	(広島)	335	1993年	YING,He	CHN	349	1995年
50M	中込 恵子	(日本)	334	1990年	KIM,Moon-Sun	KOR	345	1996年
30M	浅野 真弓	(学連)	354	1997年	EDENS,Joanne	GBR	357	1990年
TEAM FITA ROUND	平末 千秋 中込 恵子 中川さつき	1293 1278 1258	3829 (日本)	1990年	CHO,Youn-Jeong KIM,Soo-Nyung LEE,Eun-kyung	KOR	4094	1992年

OLYMPIC ROUND

O.R.MATCH TOTAL (72)	大内 愛	(広島)	632	1994年	KIM,Kyung-Wook	KOR	673	1995年
O.R.MATCH (18)	川内沙代子	(日本)	167	1997年	Wang Ying	CHN	172	1994年
O.R.MATCH (12)	浅野 真弓	(学連)	113	1997年	KIM,Hyo-Jeong	KOR	117	1993年
O.R.MATCH TOTAL (36)	浅野 真弓	(日本)	308	1997年	Chung,Chang-Sook	KOR	341	1996年
O.R.TEAM MATCH (3×72)					KIM,Jo-Sun KIM,Kyung-Wook YOON,Hye-young	KOR	1984	1996年
O.R.TEAM MATCH (3×9)	大内 愛 児玉 絹枝 小出美沙都	(日本)	237	1996年	KANG,HYUN-Ji KIM,Ae-Ran HAN,Mi-Ae	KOR	252	1996年
O.R.TEAM MATCH (2×27)					KIM,Jo-Sun KIM,M,S, Park,J,H,	KOR	493	1996年

50, 30M ROUND

50,30m ROUND	浅野 真弓	(佐 賀)	671	1996年
50M	浅野 真弓	(佐 賀)	324	1996年
30M	児玉 晶子	(神奈川)	349	1987年
TEAM TOTAL	浅野 真弓 児玉 絹枝 濱本 統子	671 640 612	1923 (佐賀)	1996年

〈日本最高記録〉

DOUBLE FITA ROUND

DOUBLE FITA ROUND	浅野 真弓	(学連)	2653	1987年
70M	浅野 真弓	(学連)	643	1987年
60M	児玉 晶子	(日本)	664	1986年
50M	浅野 真弓	(学連)	658	1990年
30M	浅野 真弓	(学連)	700	1997年
TEAM DOUBLE FITA ROUND	児玉 晶子 柴田 晶与 石津 裕子	2531 2495 2463	7489 (日本)	1986年

INDOOR TARGET ARCHERY OLYMPIC DIVISION

男 子

18m (60)	山本 博	(日本)	591	1995年	PATTERSON,Magnus	SWE	596	1995年
25m (60)	山本 博	(埼玉)	592	1994年	PATTERSON,Magnus	SWE	593	1993年
O.R.MATCH (18)	山本 博	(埼玉)	178	1996年	Bisiani Matteo	ITA	180	1996年
O.R.MATCH (12)	坂本 隆輝	(学連)	118	1997年	JOHNSON,Richard	USA	120	1995年
O.R.MATCH TOTAL (36)	坂本 隆輝	(学連)	348	1997年	RIVOLTA,Alessandro	ITA	356	1996年
O.R.TEAM MATCH (27)					PAKHOMERENKO,I. TARASOV,Dimitri ZABRODSKI,Stanislav	UKR	267	1996年
O.R.TEAM MATCH TOTAL (2×27)					Chung,Jae-Hun Han,Seung-Hoon Lee,Dong-Wook	UKR	531	1996年

女 子

18m (60)	瀧野 真子	(学 連)	571	1996年	Herasymenko,L.	UKR	591	1997年
25m (60)	池垣 倫子	(北海道)	569	1994年	ERICSSON Petra	SWE	592	1991年
O.R.MATCH (18)	瀧野 真子	(日 本)	174	1997年	NASARIDZE Natalia	TUR	178	1995年
O.R.MATCH (12)	仲肥由里子	(広 島)	117	1998年	VALEEVA Natalia	MLD	120	1995年
O.R.MATCH TOTAL (36)	仲肥由里子	(広 島)	341	1998年	VALEEVA Natalia	MLD	354	1996年
O.R.TEAM MATCH (27)					BELUKANatalia MOUNTIEN Tatanla GERASIMENKO Lina	UKR	261	1995年
O.R.TEAM MATCH TOTAL (2×27)					BELUKA,Natalia GERASIMENKO,Lina SADOVNITCHIA,Y.	UKR	512	1996年

国 体 記 録

1997年10月15日現在

(団体)

種 目	団 体	記 録	樹立年	備 考
成年男子	埼玉県	2015 (676,673,666)	1993年	第48回東四国国体
成年女子	佐賀県	1917 (653,648,616)	1996年	第51回広島国体
少年男子	福島県	1933 (665,638,630)	1994年	第49回愛知国体
少年女子	広島県	1902 (639,636,627)	1993年	第48回東四国国体

(個人)

種 目	選 手 名	団体名	記 録	樹立年	備 考
成年男子	山 本 博	神奈川県	690 (336,354)	1993年	第48回東四国国体
成年女子	浅 野 真 弓	佐 賀 県	660 (322,338)	1996年	第51回広島国体
少年男子	村 越 永 人	福 島 県	665 (317,348)	1994年	第49回愛知国体
少年女子	長 崎 美 保	埼 玉 県	652 (316,336)	1993年	第48回東四国国体

記録収集について

競技委員会

記録収集の意義につきましては組織の歴史であり、同時に将来的な発展の最も大きな原動力となるべきものであります。競技力の向上、組織の活性化、競技の普及拡大、すべてこの記録無しには考えられません。つきましては記録送付及び記入要領は下記のとおりお願いします。

【1】送付記録は原則としてコンピュータデータの形式とする。

【2】種別、種目、項目は次の通りとする。

男女別 個人 シングルラウンド シングルハーフ (各18射)

50・30mラウンド インドアー18m (W)

団体 シングルラウンド

シングルハーフ (各18射)

【3】各都道府県で【2】の2種別、12種目について競技者のランキングを作成し、そのデータを送付する。

【4】送付用フロッピーは競技委員会より配布するので、その中に入力する。

【5】記録送付競技会

- | | |
|--------------------------|----------------|
| (1) 全国高体連に登録した競技会 (3競技) | } 年間事業計画様式 [1] |
| (2) 全ア連公認競技会 (他県の競技会は不可) | |

データ入力上の注意

【1】各項目への入力について

- (1) 配布されたフロッピーの“例”に従って入力すること。
- (2) 各項目の氏名は1人1回になるように各県で整理をしてください。
- (3) ランクは消去して下さい。
- (4) 登録番号は必ず入力して下さい。
- (5) 氏名

全角左詰めとします。(全角6文字)

例 氏2文字 名2文字 □□ □□

氏2文字 名1文字 □□ □

氏1文字 名2文字 □ □□□

氏3文字 名3文字 □□□□□□

氏3文字 名1文字 □□□ □

(6) 記録入力期間

当該年度の 4月1日～11月20日迄とする。

【2】得点記録集計のフロッピーについて

- (1) LOTUS-123 WJ3で作成されたデータとする。
- (2) フロッピーは3.5インチ (2HD) を使用する。
- (3) フロッピーは必ずコピーディスクにラベルをつけ、県名、入力責任者、学校名、電話番号を記入して送付する。

(4) フロッピーの返却はしないので、必ずバックアップを取ってください。

【3】送付締切期日

締切期日 当該年度の**11月20日** (必着)

受け付けは11月1日～ 遅れると入力されませんので注意してください。

【4】送付先

〒 770 徳島市大和町2-2-15

徳島東工業高校

住友 和雄 宛

TEL 0886 53-3274

FAX 0886 53-3296

★ 問い合わせ・質問は出来るだけFAX又は郵便でお願いします。

【5】ランキング表購入依頼

(1)ランキング表は1冊1000円です。

(2)全国高体連に登録されている学校は、最低一冊以上の購入をお願いします。

(3)購入申し込みは各県の専門委員長が取りまとめて、フロッピー送付時に申込書に必要事項を記入して申し込む。

(4)支払いは全国高体連アーチェリー専門部ランキング担当の口座 (P87参照) に振込むか、又は全国選抜アーチェリー大会会場にてお渡しください。

ランキング表申込書

県	名	
申込み部数		部
専門委員長名 _____		
学 校 名 _____		
郵便番号 _____		
住 所 _____		
電話番号		() -
FAX番号		() -

高校公認記録規程

- 第1条 全日本アーチェリー連盟（以下「全ア連」という。）規約第6章第138条にもとづき、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「本専門部」という。）事業計画（様式Ⅰ）により提出し認められたもの。
- 第2条 本連盟の加盟・登録者が、この規定の定めるところにより、その加盟学校および登録構成員が、以下にかける諸条項のもとに行われた競技会において作られた記録に限り公認申請することができる。
- 第3条 日本高校記録は、全ア連競技規則第138条の外、次の条件を満たすこと。
- 1) 当該年の4月1日現在18歳未満の高校生の記録であること。ただし、定時制生徒は19歳未満とする。
 - 2) (1)全ア連が公認した競技会における記録。
(2)各都道府県単位または地域高校競技会の記録。
ただし、印刷したプログラムがあり、競技委員長・審判長・射場長は公認審判員であること。
(3)50M・30Mラウンド及びハーフラウンド団体の記録は、ハーフラウンドの競技会の記録であること。
- 第4条 個人の距離別の記録公認については、第3条に規定された競技会において樹立されたものを申請することができる。
- 第5条 前条に定める競技会の記録公認申請は、競技の日より原則として1カ月以内に主催または主管団体長が前条の確認をなし、全ア連所定の記録承認申請書（連盟様式－6）に必要事項を記載し、全ア連事務局に提出するものとする。
- 第6条 全ア連理事会で審査の結果、新記録として承認されたときは、その旨を本専門部においても発表し、高等学校記録証を交付する。
- 第7条 毎年12月10日付をもって、各都道府県高体連ア専門部または各都道府県ア協会は第3条に定めた競技会に於ける当該都道府県の高等学校最高記録を保管し、その写しを毎年12月20日までに本専門部事務局まで送付しなければならない。
- 第8条 本規定は、本専門部理事会において改廃する。
- 第9条 本規定は昭和57年5月9日より施行する。

昭和60年4月1日一部改正

昭和63年2月11日一部改正

平成6年8月5日一部改正

平成8年3月26日一部改正

申請書送付先

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内 全日本アーチェリー連盟 宛

平成 年 月 日

全日本アーチェリー連盟

会 長

殿

主 催 者 名

主管団体名

会 長 名

印

新記録の樹立承認申請書の送付について (申 請)

標記のことについて、下記の通り新しい記録が樹立されましたので、
ここに関係書類を添えて申請いたします。

なお、関係書類の到着のうへは、書類内容の点検をいただくとともに
念のため受領確認書を送付くださるようお願いいたします。

記

1. 内容記録：記録申請
2. 送付書類：ア) 記録承認申請書…………… 1 部
イ) スコアシート (写) …… 1 部
ウ) 競技会プログラム…………… 1 部
エ) 競技会成績表…………… 1 部

以 上

受 領 確 認	全 日 ア 連	受付月日： 年 月 日
		確 認 者： 氏 名： 印

(上記記入のうへ、複写書類を返送下さい)

(様式－６ア)
全日本アーチェリー連盟会長殿

平成 年 月 日

主管団体名
会 長 名

印

記録承認申請書

下記の通り新記録が樹立されましたので、ここに承認申請をいたします。

申請内容		日本記録		日本高校記録		日本国際記録		
競技会名	第 回							
期 日	平成 年 月 日～ 月 日、(日間)							
会 場								
区分・種別		団 体		個 人		男 子		女 子
種目・距離		ハーフ・R		シングル・R		ダブル・R		グランド・R
		個人TOTAL			個人距離	90. 70. 60. 50. 30.m		
競技者名	(学校・所属名) _____		①氏 名： 登録番号 H -					
			②氏 名： 登録番号 H -					
			③氏 名： 登録番号 H -					
記 録 内 容	団体記録	合 計： _____ 点						
		① _____ 点 (90・70m： _____ 点・50m： _____ 点・30m： _____ 点)						
		② _____ 点 (90・70m： _____ 点・50m： _____ 点・30m： _____ 点)						
		③ _____ 点 (90・70m： _____ 点・50m： _____ 点・30m： _____ 点)						
	個人記録	_____ 点 (_____ , _____ , _____ , _____ 点)						
距離記録	_____ m： _____ 点 (_____ 点・ _____ 点)							
	_____ m： _____ 点 (_____ 点・ _____ 点)							
競技会責任者	競技委員長または審判長の署名・捺印 印							
備 考	1. 申請書は、新記録が樹立された種目毎に1枚あて提出すること。 2. 添付種類は、①スコアシートーの写し(コピー可)。 ②競技会プログラム。 ③競技会成績一覧表。 を提出すること。 3. 未登録の場合、記録樹立後の競技者登録および承認申請書の提出は、いかなる理由があっても認められない。							

大会開催地・開催地順(予定)

和 歴	西歴	I H ・ 選 手 権	選 抜 大 会	国 体
平成10年	1998	香 川・丸岡市		神奈川県
平成11年	1999	岩 手・松尾村	静岡県・掛川市	熊本県
平成12年	2000	岐 阜・高山市	静岡県・掛川市	富山県・宇奈月
平成13年	2001	沖 縄 (予)	静岡県・掛川市	宮城県
平成14年	2002	茨 城 (予)		高知県

I Hは、東 地区・・・北海道・東北・関東地区 (15都道府県)

中 地区・・・北信越・東海・近畿地区 (15府県)

西 地区・・・中国・四国・九州地区 (17県)

のローテーション (東・中・西) で9年に1回の開催。

平成10年度インターハイについて

競技日程

日 程		時 刻	摘 要
	8月7日 (金)	10:30～11:30 13:00～14:00 14:10～15:10	監督会議 女子公式練習・男子弓具検査 男子公式練習・女子弓具検査
1 日 目	8月8日 (土) 団体競技・個人競技 予選ラウンド長距離	9:00～ 9:50 10:30～10:50 11:00～11:50 12:10～13:00 13:40～14:00 14:10～15:00 15:20～16:10	開会式 男子プラクティス 男子90M18射 男子70M18射 女子プラクティス 女子70M18射 女子60M18射
2 日 目	8月9日 (日) 団体競技・個人競技 予選ラウンド短距離	9:00～ 9:30 9:50～10:40 11:05～11:55 12:40～13:10 13:30～14:20 14:40～15:30 12:35～16:10	男子プラクティス 男子50M18射 男子30M18射 女子プラクティス 女子50M18射 女子30M18射 予選通過校(選手)発表
3 日 目	8月10日 (月) 個人競技 決勝ラウンド 個人表彰式	9:00～ 9:30 9:45～10:15 10:50～11:20 11:40～12:10 12:55～13:20 13:40～14:05 14:25～14:50 15:35～15:50	個人男女プラクティス 個人男女1回戦 個人男女2回戦 個人男女準々決勝戦 個人男女準決勝戦 個人男女3位決定戦 個人男女優勝決定戦 個人戦表彰式
4 日 目	8月11日 (火) 団体競技 決勝ラウンド 表彰式・閉会式	9:00～ 9:15 9:25～10:05 10:10～10:30 10:40～11:20 11:30～11:55 12:05～12:30 12:40～13:05 13:10～13:35 14:15～15:05	団体男子プラクティス 団体男子1回戦 団体女子プラクティス 団体女子1回戦 団体男女準々決勝戦 団体男女準決勝戦 団体男女3位決定戦 団体男女優勝決定戦 団体表彰式・閉会式

平成11年度以降の全国高等学校アーチェリー 選手権大会競技方法が一部変更

・競技方法

団体戦・個人戦とも予選ラウンドにおいてはFITA70mランキング・ラウンド（72射）とし、決勝ラウンドではマッチ・ラウンドをおこないます。

なお、予選は競技進行上男女別々の会場（競技会場・練習会場）でおこなう予定です。

・競技日程

日 程	実 施 内 容	摘 要
	月 日 ()	監督会議 公式練習・弓具検査 開会式
1日目	月 日 () 団体・個人・予選競技 (ランキング・ウランド)	予選通過数 個人の部 64位 団体の部 16位
2日目	月 日 () 個人競技 決勝ラウンド (マッチ・ウランド)	男女1回戦 { 男女優勝決定戦 個人・表彰式
3日目	月 日 () 団体競技 決勝ラウンド (マッチ・ウランド)	男女1回戦 { 男女優勝決定戦 団体戦表彰式・閉会式

全国高体連アーチェリー専門部部活動要綱(安全対策)

1.活動目的

クラブ活動としてアーチェリーを正しく真剣に学び、技術の向上をはかるとともに、心身を練磨して、礼節を尊び、自己の修養に努め、立派な人間形成を目指すものとする。また、部活動を通じ、先輩後輩の集団生活の中から、和の大切さを学び、部員相互の親睦を深めることをもって目的とする。

2.活動内容

- (1) 練習日 学校長または顧問の承諾を得た日とする。
- (2) 合宿 学校長の承諾を必要として以下のとおりとする。
 - 1) 学校（部活）主催の合宿
 - 2) 各都道府県アーチェリー協会主催の合宿
 - 3) 各都道府県高体連主催の合宿
- (3) 対外試合
 - ・ 高体連主催の各種大会
 - ・ 県または市協会（競技団体）が主催し、県高体連が共催する大会
 - ・ 競技団体が主催し ー 体連が共催する大会
 - ・ 全国高体連主催の大会
 - ・ 競技団体が主催し、全国高体連が共催する大会
 - ・ 国民体育大会及び予選大会
 - ・ 教育委員会が主催する都道府県内の市区町村大会
 - ・ 競技水準の高い者を選抜して開催する大会
 - ・ 学校長の（承諾を得て参加する）練習試合及び招待試合

3.練習内容

- ・ 練習内容は、主将が他の役員と相談し、顧問教員の許可を得て決定する。
- ・ 随時筋力トレーニング、ランニング等のトレーニングを導入する。
- ・ 部員は、いかなる場合も指導教員及びコーチの指示に従わなければならない。

4.安全対策（アーチェリー部員の遵守項目）

- ・ 弓具は常に点検すること（特に弦切れ）
- ・ 他人の弓具に無断でふれないこと
- ・ アームガード等は、必ず使用すること
- ・ ストリンガーで弦を張るとき、弓の真上に顔をおかないようにする
- ・ 身体にフィットした服装で行射する事（上着のポケットに物を入れたりして行射しないこと）
- ・ 的の方向に人がいたら決して行射しないこと
- ・ 人のいる方向に向いてたとえ矢をつがえてなくても弓をひかないこと

- ・空引き（矢をつがえずに弦を離すこと）はしない
- ・矢取りは、全員同時に合図をもって行うこと
- ・矢を抜くとき、矢の後方に人がいないことを確認してから抜くこと（他人の目をつくことがある）
- ・的の後方に矢取りに行くときは安全を確認しておこなうこと
- ・弓矢は土の上におかず、グラウンドクイーバー等を使用する。

5.健康管理

- ・体調の悪い場合は無理に参加しないこと。
- ・練習中気分が悪くなったら先生にすぐに知らせること。
- ・日々規則正しい生活をし、各自健康に留意すること。

6.その他

- ・練習を遅刻、欠席する場合は責任者に届け出ること。
- ・先生、先輩はもちろん、お互いにきちんと挨拶をかわすこと。
- ・アーチャーとして気品ある行動をとること。

服 装 規 定

競技部 競技委員会 細則

昭和62年2月11日改定

平成 5年3月26日改定

平成 8年7月31日改定

大会参加者における競技用の服装は、チーム内で統一されていること。統一の範囲は、上衣、下衣、帽子、靴、靴下とする。

1、上 衣

学校名は背面もしくは前面に、県名は右腕の袖口に、それぞれ1ヶ所明示しなければならない。なお、いずれも弓具装着時に視認できる位置に表示する。

その他の名称等は表示しないものとする。(その他の名称等には学校名、クラブ等の愛称も含む)

長袖、短袖は同一デザインならば、混在し着用できる。

2、下 衣

競技するのに適した形態で、全体が白色のもので、男子はスラックス、女子はスカート(キュロットスカートも可)またはスラックス。ジーパン、綿パン、ジャージ等は競技用として認めない。

3、帽子、靴、靴下

白地のものとする。靴は運動シューズとする。(カジュアル、ダンス、タウン等の競技に適さないと認められるものは使用できない。)

4、その他

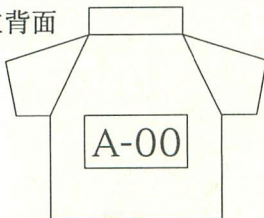
- (1) チームとは登録選手、マネージャーとする。
- (2) 監督が競技場内に立ち入るときは、下衣は白色スラックス、もしくはスカートとし、靴は白地の運動シューズとする。但し、監督の服装も選手と同じユニフォームを着用していることが望ましい。
- (3) 使用頻度、経年による上衣等の退色等は認める。
- (4) 大会の場にふさわしくない服装は認めない。
- (5) 視認できる部分の商標の大きさ基準は縦、横5cm×5cmとする。
- (6) 防寒・防雨具の着用は認める。ただし着用する場合はユニフォームの一部とし、チーム内の統一をはかること。

上記の規定外の服装に関しては、審判長および大会実施責任者の裁定に委ねる。

* 備考

【競技用ゼッケンの装着位置】

上位背面



左図のように上衣両脇を結んだ線を上端とする位置に装着する。ただし、このゼッケンにより学校名等の視認が妨げられないようにすること。

主催者側で用意するゼッケンは縦15cm、横25cmです。

尚、本規定は平成9年4月1日より実施するものとする。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約

第 1 章 名 称

第 1 条 本専門部は全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部と称する。

第 2 条 本専門部の事務局は部長指定の学校に置く。

第 2 章 目 的

第 3 条 本専門部は全国高等学校体育連盟（以下「全国高体連」と称する）規約第 3 条に基づき、高等学校におけるアーチェリー競技の健全な育成発展を図ることを目的とする。

第 3 章 事 業

第 4 条 本専門部は第 3 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 全国大会開催に関する事項の審議並びに執行。
- (2) アーチェリーの普及並びに競技力の向上に関する事項。
- (3) アーチェリーの講習及び調査研究。
- (4) 関係団体との連絡。
- (5) その他目的達成に必要な事項。

第 4 章 組 織

第 5 条 本専門部は全国高体連規約第 6 条に基づき、各都道府県アーチェリー専門部をもって組織する。

第 5 章 役 員

第 6 条 本専門部は次の役員を置く。

(1) 役員

1. 部長 1 名 2. 副部長 若干名 3. 委員長 1 名
4. 副委員長 若干名 5. 常任委員（ブロック代表 9 名＋若干名）
6. 委員（各都道府県より 1 名） 7. 監事 2 名 8. 事務局長 1 名

(2) 本専門部は顧問を置くことができる。

第 7 条 役員の任期は 2 ヶ年とする。但し、再任は防げない。補欠によって就任した役員の任期は前任者の残任期間とする。

第8条 本専門部の役員は校長、教諭より選出する。但し、顧問を除く。

- (1) 部長及び副部長は委員の推薦により、全国高体連理事会の承認を得て、部長をこれを委嘱する。
- (2) 常任委員は全国9ブロック（北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州）において選出された1名と若干名の推薦者を部長これを委嘱する。
- (3) 委員は各都道府県高体連アーチェリー専門部より1名を選出する。
- (4) 委員長及び副委員長並びに事務局長は常任委員会にて選出し、全国専門委員長会（以下委員会と称する）にて承認する。
- (5) 監事は委員会で選出する。
- (6) 顧問は委員会で推挙することができる。

第9条 役員の任務及び構成は次のとおりとする。

- (1) 部長は本専門部を代表し、会務を統轄し全国高体連理事会に出席する。
副部長は部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。
- (2) 三役は三役会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長）を構成し代表者会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長、競技委員長、強化委員長、審判委員長、総務委員長）とともに本専門部の企画、立案する。
- (3) 常任委員は、常任委員会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長、常任委員）を構成し、本専門部の企画立案するとともに委員会の承認をえてその執行にあたる。
- (4) 委員は委員会（各都道府県代表、部長、副部長、委員長、副委員長、常任委員、監事、顧問）を構成し、本専門部の重要事項を審議決定する。
- (5) 監事は本専門部の会計を監査し、その結果を委員会に報告する。
- (6) 顧問は本専門部の組織運営について委員会並びに常任委員会の諮問に応ずる。

第 6 章 会 議

第10条 委員会は年1回部長が召集し、次の事項を審議する。但し、部長が必要と認めた場合または委員の3/5以上から会議の目的事項を示して請求があった場合は、速やかに委員会を召集しなければならない。

- (1) 会議では次の事項を審議する。
 - ア. 事業報告並びに計画
 - イ. 決算並びに予算
 - ウ. 役員の選出
 - エ. 規約の改正
 - オ. その他の重要事項

第11条 常任委員は必要に応じ、部長がこれを召集する。常任委員は常任委員会の開催を要請できる。

第12条 委員会及びに常任委員会は総会の $\frac{1}{2}$ 以上の（委任状を含む）の出席がなければ開くことができない。すべての会議は部長が議長となる。

第 7 章 専門委員会

第13条 本専門部の事業遂行のため、各種の専門委員会を設けることができる。

（1） 専門委員会の名称・目的及び委員は委員会の決議を経て部長が定める。

（2） 専門委員会の規定は別にこれを定める。

第 8 章 事務局

第14条 本専門部に事務局をおく。事務局の規定は別にこれを定める。

第 9 章 規約の変更

第15条 本専門部の規約は委員会において、委員の $\frac{2}{3}$ 以上の同意を得て変更することができる。

第 10 章 会 計

第16条 本専門部の経費は補助金・助成金その他の収入によってこれをあてる。

第 11 章 付 則

第17条 規約の施行については必要な事項は委員会の議決を経て部長が定める。

附則 この規約は平成元年2月11日より施行する。

平成5年8月1日一部改正

総務委員会規程

- 第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき総務委員会（以下本委員会と称する）を設ける。
- 第2条 本委員会は次の事業を処理する。
1. 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第4条の事業に必要な資金を調達すること。
 2. 優秀選手の表彰に関する事。
 3. 関係功労者の表彰に関する事。
 4. 規約改正に関する事。
 5. 機関誌の発行に関する事。
- 第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。
1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
 2. 部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。
- 第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。
- 第5条 委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。
- 第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。
- 第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。
- 第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。
- 第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。
- 第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日から施行する。

昭和60年8月10日一部改正

平成元年7月27日一部改正

平成5年8月1日一部改正

競 技 委 員 会 規 程

- 第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき競技委員会（以下本委員会と称する）を設ける。
- 第2条 本委員会は次の事業を処理する。
1. 競技会に関する基本方針を確立すること。
 2. 全国高等学校アーチェリー選手権大会および選抜大会の実施方法その他の重要事項を審議すること。
 3. 本専門部関係の競技会の調整をはかること。
 4. 各競技会の記録整理および認定保存をはかること。
 5. その他競技に関する必要事項。
- 第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。
1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
 2. 部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。
- 第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。
- 第5条 委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。
- 第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。
- 第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。
- 第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。
- 第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。
- 第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日から施行する。

昭和60年8月10日一部改正

平成元年7月27日一部改正

平成5年8月1日一部改正

審判委員会規程

- 第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき審判委員会（以下本委員会と称する）を設ける。
- 第2条 本委員会は次の事業を処理する。
1. 競技会への審判員派遣に関する基本方針を確立すること。
 2. 審判員養成および研修事業に関すること。
 3. 審判資格修得および更新に関すること。
 4. その他、競技規則および審判に関する必要な事項。
- 第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。
1. 全国9地区（ブロック）の審判委員会委員長および専門部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。
 2. 委員会で推薦された若干名の委員。
- 第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。
- 第5条 委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。
- 第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。
- 第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。
- 第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。
- 第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。
- 第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は平成元年7月27日より施行する。

平成5年8月1日一部改正

強化委員会規程

- 第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき強化委員会（以下本委員会と称する）を設ける。
- 第2条 本委員会は次の事業を処理する。
1. 強化ならびに普及活動に関する計画立案と、その推薦および指導に関すること。
 2. 国際競技等に代表選手を派遣すること。
 3. 指導者の養成および活動に関すること。
 4. その他、強化、普及に関する必要な事項。
- 第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。
1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
 2. 部長が常任委員の中から指名する若干の委員。
- 第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。
- 第5条 委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。
- 第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。
- 第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。
- 第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。
- 第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。
- 第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日から施行する。

平成元年7月27日一部改正

平成5年8月1日一部改正

事 務 局 規 程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第14条に基づき事務局に関わる規定を定める。

第2条 事務局は次の事業を処理する。

1. 全国高等学校体育連盟との連絡等に関する事。
2. 各大会における関係機関への連絡等に関する事。
3. 全日本アーチェリー連盟と各都道府県アーチェリー協会（連盟）との連絡等に関する事。
4. 各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部との連絡に関する事。
5. 会員登録に関する事。
6. その他部長が指定する事項を処理する。

第3条 事務局には次の職員を置く。

事務局長 1名 事務員 若干名

第4条 事務局長は、事務局を統轄し、事務局員を指導監督する。

第5条 事務局員の数並びにその任命は常任委員会の承認を得て事務局長が行う。

第6条 事務局員は事務局長の命を受け、本専門部会の事務を処理する。

第7条 事務局長の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

附則 この規程は平成元年7月27日より施行する。

平成5年8月1日一部改正

アーチェリー専門部表彰 規 程

- 第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下専門部と称する）では、表彰に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し表彰する。
- 第2条 この規程は全国高等学校体育連盟アーチェリー競技の普及振興に功績があった者等に対し表彰を行うとともに、全国高等学校体育連盟表彰規程の被表彰者の推薦母体に資することを目的とする。
- 第3条 前条に定める被候補は、次の各号から推薦するものとする。
1. 本専門部長・専門委員長・専門部役員。
 2. 各都道府県専門部長・専門委員長。
 3. その他。
- 第4条 表彰者の選考は部長・副部長・委員長・副委員長・事務局長があたり、常任委員会の承認を受けるものとする。
- 第5条 表彰は、常任委員会または全国高等学校アーチェリー選手権大会において行う。
- 第6条 本規程表彰者推薦のための基準は次の通りとし、重複表彰はしない。
1. 本専門部長・専門委員長・専門部役員。
 - 1) 専門部役員については、3期（6年）以上とする。
 2. 各都道府県専門部長・専門委員長。
 - 1) 専門委員長については6年以上とする。
 3. その他、特に功績のあった者。
- 第7条 推薦手続きは毎年4月中旬・10月中旬までに本専門部事務局宛に提出する。
- 第8条 経費は本専門部一般会計より支出する。
- 附則 この規程は昭和58年8月1日より施行する。

平成元年7月27日一部改正。

平成3年7月25日一部改正。

アーチェリー専門部慶弔 規 程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「専門部」と称する）では、慶弔に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し敬意を表わすことができる。

第2条 その基準と範囲は次のとおりとする。

1) 慶事に関して

ア) 功績者および関係役員等が、他からの栄誉を称えられた場合。

2) 弔事に関して

ア) 功績者および関係役員等に不幸が生じた場合。

3) 範囲

ア) 記念品または弔慰金等およびこれらの電文とする。

第3条 その他、この規程に定めない特別の場合については、常任委員会の承認を得て敬意を表すことができる。

ただし、緊急の場合は部長がこれを支出し、常任委員会に報告・承認を得るものとする。

第4条 経費は本専門部一般会計より支出する。

附則 この規程は、平成2年4月1日より施行する。

連絡先および口座番号

1. 事務局

〈登録担当〉

〒153 埼玉県大宮市堀ノ内1-615 大宮開成高校内

TEL048-641-7161

FAX048-647-8881

2. 競技部

〈記録登録〉

○住友和雄 〒770 徳島市大和町2-2-15

徳島東工業高校

TEL0886-53-3274

FAX0886-53-3296

3. ランキング表支払い口座

(銀行名)

阿波銀行 佐古支店 (店番102)

(預金種目・口座番号)

普通預金 1019910

(口座・代表者名)

住友和雄

4. 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局の口座

(銀行名)

あさひ銀行大宮支店 (店番369)

(預金種目・口座番号)

普通預金 2547079

(口座・代表者名)

全国高体連ア専事務局 宮崎 利帳

高体連主催競技会の公認について

平成9年12月14日

(社)全日本アーチェリー連盟
競技委員長

高体連主催の競技会を本連盟の公認を得たい場合は次の要領で手続をおこなってください。また、本連盟の公認競技会とするには本連盟の競技規則に基づいて競技会が運営されていなければならない。(特に競技役員は公認審判員で構成する必要がある。)

1. 公認競技会の回数と公認料について

高体連主催の競技会は県大会は年3回、地区大会は年1回の公認料は免除する。これを超えて開催したい場合は規定の公認料(1試合につき10,000円)が必要となる。

〔ひとつの大会においてFITAシングル、インドアおよびフィールドを同時に複数種目を実施する場合は1試合と計算する。〕

2. 都道府県大会の公認方法について

(1)競技会の公認申請方法

都道府県高体連は5月下旬(選手登録メ切期日)までに「競技会公認申請書」に必要事項を記入して都道府県協会の承認を得てからその申請書を本連盟事務局へ送付してください。その写しを全国高体連事務局へ送付してください。

(2)競技会の成績報告

都道府県高体連は公認競技会が終了した1ヶ月以内に「公認競技会成績報告書」に競技会成績表を添えたものを都道府県協会の承認を得てから本連盟事務局へ送付・報告をおこない。全国高体連事務局へは成績表のみ送付する。

3. 地区大会の公認方法について

(1)競技会の公認申請方法

地区大会を主管する都道府県高体連は5月下旬までに「地区大会公認申請書」に必要事項を記入して都道府県協会の承認を得てからその申請書を本連盟事務局へ送付申請をおこなってください。その写しを全国高体連事務局へ送付してください。

(2)競技会の成績報告

公認競技会の成績報告については主管団体が2.(2)と同様の処理をおこなうものとする。

4. 大会の申込期日近くに開催した公認競技会の処理方法について

出場申込をする大会の申込期日近くに開催した公認競技会の得点記録をその大会の申請点とする場合は、FAXによる(仮)報告をおこなってください。後日、正式な報告をおこなってください。

(注 意)

この手続(競技会公認申請・成績報告)がされていない場合、この競技会の記録は公認されないことになり、この記録で本連盟主催の選手権大会に出場申込をした場合、失格する場合がありますのでご注意ください。

平成 年 月 日

(社)全日本アーチェリー連盟 会長 様

〔都道府県高校体育連盟アーチェリー専門部〕

専 門 部 名 _____

専 門 部 部 長 名 _____ 印

〔都道府県アーチェリー協会（連盟）〕

競 技 団 体 名 _____

競技団体会長名 _____ 印

競 技 会 公 認 申 請 書

○公認料

(公認競技会回数 回 - 免除回数 3回) × 10,000円 = 円

○公認申請競技会

日 程		競 技 会	競 技 会 場	種 目
				FITAシングル インドア フィールド
				FITAシングル インドア フィールド
				FITAシングル インドア フィールド
				FITAシングル インドア フィールド
				FITAシングル インドア フィールド
				FITAシングル インドア フィールド
				FITAシングル インドア フィールド

平成 年 月 日

(社)全日本アーチェリー連盟 会長 様

〔都道府県高校体育連盟アーチェリー専門部〕

専 門 部 名 _____

専門部部長名 _____ 印

〔都道府県アーチェリー協会（連盟）〕

競 技 団 体 名 _____

競技団体会長名 _____ 印

公 認 競 技 会 成 績 報 告 書

下記の競技会について、添付成績表のとおり記録公認を申請いたします。

競 技 会			
主 催			
主 管			
開 催 日			
気 象 状 況			
競 技 会 場 (所 在 地)	都道府県 市町村 (区)		
競技会責任者	印 (競技委員長の署名・捺印)		
競 技 役 員	担 当	氏 名	公認審判員 (級)
	競 技 委 員 長		
	射 場 長		
	審 判 長		
	審 判 員		

平成 年 月 日

(社)全日本アーチェリー連盟 会長 様

〔都道府県高校体育連盟アーチェリー専門部〕

専 門 部 名 _____

専 門 部 部 長 名 _____ 印

〔都道府県アーチェリー協会（連盟）〕

競 技 団 体 名 _____

競技団体会長名 _____ 印

地 区 大 会 公 認 申 請 書

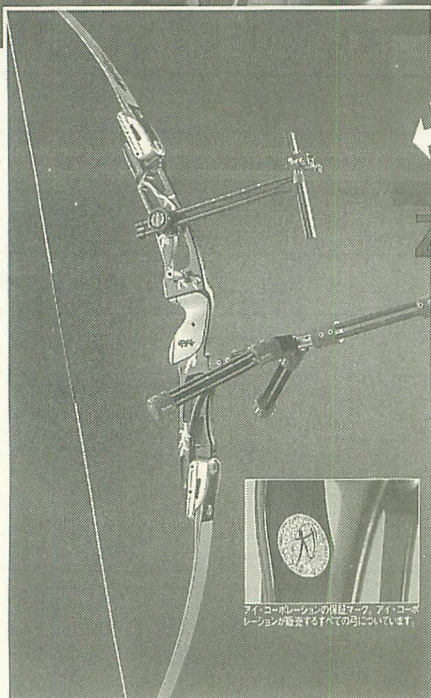
下記の競技会について、添付成績表のとおり記録公認を申請いたします。

大 会 名			
主 催			
主 管			
開 催 日		公 認 料	要 ・ 不要
種 目			
種 別 (定 員)			
参 加 資 格			
選手選考方法			

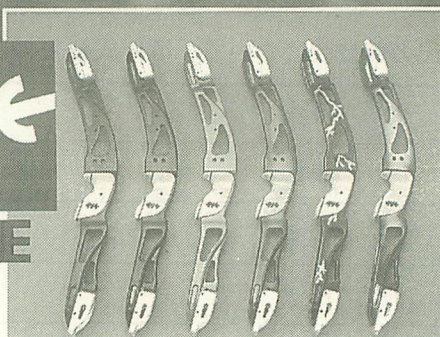
Rod White in The 1996 Atlanta Olympics.

10点ゾーンが広がる。PSE ZONE。

PSEユニバーサルでアトランタ・オリンピック男子団体金メダルを獲得したロッド・ホワイト。いま、最新のZONEを手に、再び頂上を目指す。



PSE
ZONE



ハンドル ¥65,000-
カラー:red, blue, lightning blue, black cherry, ice blue, smoke
リム: カーボン ¥65,000-
グラス ¥48,000-
(レングス/ボンド数 66" & 68"で2ボンド刻み)

1997年4月よりホームページ開設! 新商品情報を掲載中!! 一度ご覧ください。
アドレス:<http://www.osk.threewebnet.or.jp/~icorp>



株式会社アイ・コーポレーション
〒561-0817 豊中市浜1丁目28-12
TEL.06-333-9023 FAX.06-334-3124

みそら野弓場

白馬大雪溪のもと貴方も

合宿をしてみませんか!!

当館専用射場 巾40m 長さ100m

30m、50m、70m、90m

オールラウンド可能常設レンジ

宿舎より約300mの場所にあり

アカシヤの緑に囲まれた気持ちの

良い洋弓場です

〒399-93 長野県北安曇郡白馬村北城深空

みそら野館 太田典文

Tel 0261(72)2800

HAKUBA

なかや洋弓場

Tel 0261-75-2209

Fax 0261-75-2209

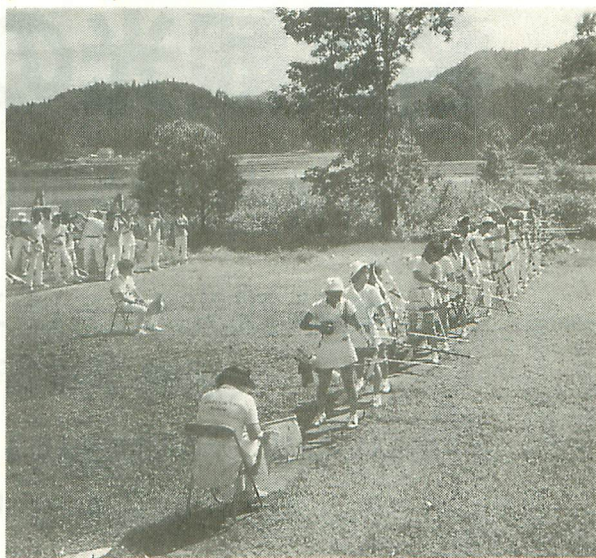
オールラウンド

90M×35M

50M×35M

- ・ 緑に囲まれたレンジ
集中して打ち込めます
- ・ 宿の特徴…家庭的
若い人向きの食事
レンジまで徒歩1分
- ・ 8月・9月は空室あり

まずはお電話を!!



生徒の皆様の中に、

『感動』という名の花を咲かせます。

教室では学び得られない、幅広い知識の吸収と貴重な体験を。急速に変化する時代と社会背景の中で、いま教育旅行は、人間形成の場として、より豊かな価値の創造をもとめられています。ツーリストでは、平成7年度より『夢と感動の修学旅行』をテーマに、学校教育の一翼を担う教育旅行の重要性をさらに強く認識し、旅の総合プロデュース企業として、より効果的な旅の企画、運営を行うべく、日夜研究を続けております。

人が好き。地球が好き。旅がスキ。

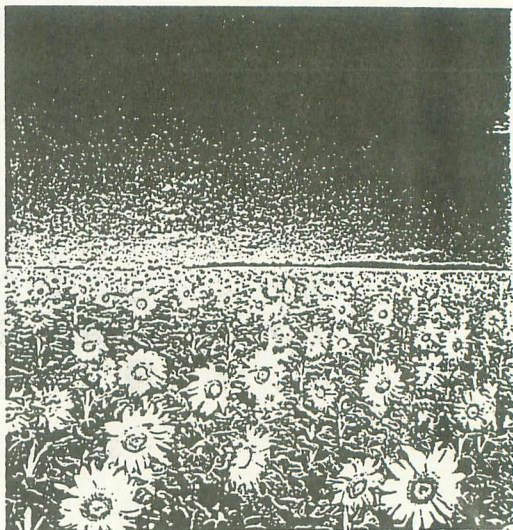
 **近畿日本ツーリスト**

近畿大阪観光旅行業第20号 登録 (12) 日本旅行業協会会員

大阪 第2 教育旅行支店

☎ 530 大阪市北区會根崎2-11-8 日興ビル 7階

TEL (06) 313-6900 FAX (06) 313-6901



豊かな心を育む 名鉄観光の修学旅行

快適な旅を演出します

名鉄観光サービス株式会社
大阪修学旅行支店

☎ 541-0053 大阪市中央区本町4丁目4番24号

TEL(06) 2 4 4-0 6 8 1

◀指導者必見ビデオシリーズのご案内▶

☆山本 博氏の全7巻

好評発売中

☆五百蔵 正雄氏の最新巻ビデオソフト

近日発売予定

※お問い合わせは
お気軽に!!

 **ティアンドイチ** 株式会社

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-40-13 長坂ビル4F
TEL 03-3985-7551(代)・FAX 03-3985-3689
《受付時間》平日9:30~17:30 (土・日・祝日 休)

夏季 アーチェリー 合宿 は 当民宿で 過ごしてみませんか?
姫川源流のすぐそば、静かなところです。

射場は、当館 すぐ となり 徒歩 0 分。
(100m×30m) 30m、50m、70m、90m
オールラウンドレンジ、来てすぐ射てます。

民宿 はら旅館



〒399-9211

長野県 北安曇郡 白馬村 神城 1064

Tel & Fax 0261-75-2127

長沢 恒夫

あ と が き

長野オリンピックが開催され多くのドラマが生まれました。その瞬間歓喜に飛び跳ねる者、あるいは小さくしかし力強くガッツポーズをする者、また重圧から解放された安堵感と何かを成し遂げた達成感で涙にくれる者。そこには本人でなければ知り得ない数々の物語があるのだろうが、その一瞬をテレビを通じて共有しただけの者にさえ涙させる何かがある。もちろん他人を感動させるようなパフォーマンスが誰にでもできるわけではない、その感動の大きさに見合うだけの苦労の日々が有るのである。明日を信じ、その一瞬が来ることを信じ続けた結果である。

言葉にするとうさんくさく説教じみたものになるが、あの感動は単純で誰にでもわかるものである。是非アーチェリーを通じて一人でも多くの諸君がヒーローになり、自分に涙し他人を涙させるような機会に巡り会うことを期待するとともに、自分自身も明日を信じ感動の一瞬を目指したい。

最後に会報12号発刊に当たりご協力いただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。

(佐幸)

発行日 平成10年4月

編 集 総務委員会

発行所 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

事務局 〒330 埼玉県大宮市堀ノ1丁目内615

大宮開成高校内 (TEL048-641-7161)

(FAX048-647-8881)

発行所 (株)シバタプロセス印刷

〒526-0015 滋賀県長浜市神照町499-1

TEL (0749) 63-6860(代)

表紙の色 一重 (すみれ) ー

いそのかみ ふりにし人を たずぬれば 荒れたる宿に 菫摘みけり

(新古今和歌集 納因法師)

ARE REST

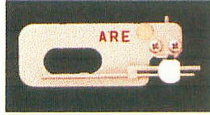
NEW

☆フリーチューニングレスト (トルクアジャスター付)

Free Tuning Rest (with Torque Adjuster)

AFT-2AD

左右共 (LR) ¥5,800



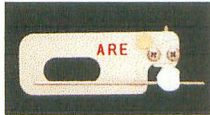
NEW

☆フリーチューニングレスト (トルクアジャスター無)

Free Tuning Rest

AFT-2

左右共 (LR) ¥4,300



NEW

☆マグネチックレスト (AVALON PSE用)

Magnetic Rest (for AVALON PSE)

AM-105HU

AM-110HU

左右共 (LR) ¥2,500



NEW

☆アジャスタブルレスト (AVALON PSE用)

Adjustable Rest (for AVALON PSE)

AM-105-HU-ADJ

AM-110-HU-ADJ

左右共 (LR) ¥3,500



☆マグネチックレスト

Magnetic Rest

AM-100

AM-105

AM-110

右 (R) ¥2,000

左 (L) ¥2,200



☆アジャスタブルレスト

Adjustable Rest

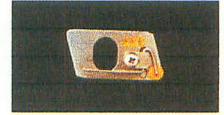
AM-100-ADJ

AM-105-ADJ

AM-100-ADJ

右 (R) ¥3,000

左 (L) ¥3,300

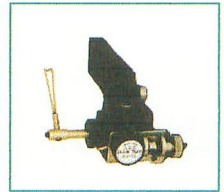


NEW

☆クイックターンレスト (右のみ)

Quick Turn Rest (Right Only)

ACR-03 ¥23,000



★フリーチューニング用レストピン

Rest Pin

¥500

★フリーチューニング用レストピン (ハイス鋼)

Rest Pin (High Speed Steel)

¥1,000

★アジャスタブルレストスペアピン (左右)

Adjustable Rest Spare Pin (Right) 右 ¥1,000

" (Left) 左 ¥1,100

(AVALON / PSE用) ¥1,500

★両面テープ

Tape

¥100

★テフロンチューブ

Teflon Tube

¥50

★クイックターンレスト用レストピン取付シャフト

Quick Turn Rest Pin Shaft

¥1,100

★クイックターンレスト用レストピン

Quick Turn Rest Pin

¥900

アサヒ弓具工業株式会社

ASAHI ARCHERY

〒170-0005

東京都豊島区南大塚3-23-3

電話03(3986)2301 ファックス03(3986)2302

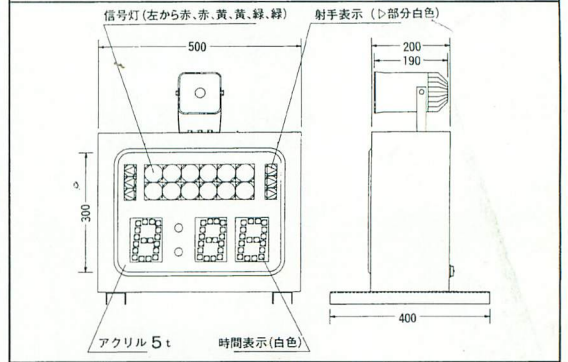
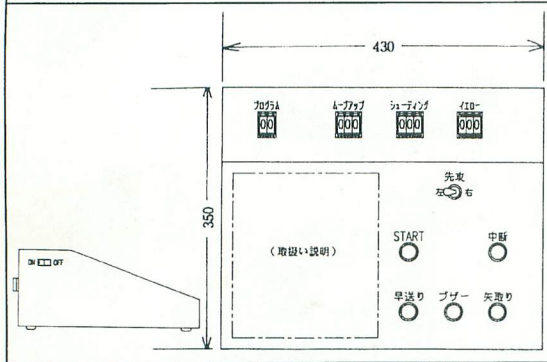
3-23-3 Minami-Otsuka, Toshima-ku, Tokyo 170-0005, Japan

Phone:81-3-3986-2301

Fax:81-3-3986-2302

アーチェリー競技用表示装置

(全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 御推薦)



操 作 器

表 示 板

従来の競技用表示装置に比べ簡便、軽量、低価格とし、練習にもご使用頂けるものと致しました。

仕様

1. 操作器

- (1) 寸法 430mm×149mm×350mm
- (2) 標準プログラム内蔵
- (3) ムーブアップタイムおよびシューティングタイムが簡単に変更可能
- (4) マッチ戦対応機能付き

2. 表示板

- (1) 明るい所でも良く見える磁気反転式表示素子を使用
- (2) 屋外対応 (接続コネクタは、防水型を使用)
- (3) マッチ戦での射手表示付き

3. 標準システム (表示板は1～5台まで可能です)



*表示板は、増設可能です。

4. 価 格

- (1) 操作器 1台 310,000-
- (2) 表示板 1面 394,000-
- (3) ケーブル 50m 35,000-

製造・販売元

株式会社 啓 明 電 装

問い合わせ 大阪市東住吉区桑津3丁目7番5号

TEL (06) 719-4504

FAX (06) 719-5073